

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル) 申請様式

① 学校名	日本女子大学		
② 大学等の設置者	学校法人日本女子大学		
③ 設置形態	私立大学		
④ 所在地	東京都文京区目白台2-8-1		
⑤ 申請するプログラム又は授業科目名称	数理・AI・データサイエンスに関する教育プログラム		
⑥ プログラムの開設年度	H30年度		
⑦ 教員数	(常勤) 255 人	(非常勤) 721 人	
⑧ プログラムの授業を教えている教員数	19 人		
⑨ 全学部・学科の入学定員	1,498 人		
⑩ 全学部・学科の学生数(学年別)	総数	6,338 人	
1年次	1,542 人	2年次	1,535 人
3年次	1,612 人	4年次	1,649 人
5年次	0 人	6年次	0 人
⑪ プログラムの運営責任者	(責任者名) 小川賀代	(役職名)	基盤教育センター情報処理委員会委員長
⑫ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)	基盤教育センター 情報処理委員会及びメディアセンター		
	(責任者名) 小川賀代、長谷川治久	(役職名)	情報処理委員会委員長、メディアセンター所長
⑬ プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)	情報処理委員会自己点検・評価委員会、メディアセンター自己点検・評価委員会		
	(責任者名) 小川賀代、長谷川治久	(役職名)	情報処理委員会自己点検・評価委員長、メディアセンター自己点検・評価委員会委員長
⑭ 申請する認定プログラム	認定教育プログラム		

連絡先

所属部署名	学務部 社会連携室	担当者名	三石 裕輔
E-mail	shakairenkei@atlas.jwu.ac.jp	電話番号	03-5981-3749

学校名：日本女子大学

プログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違する

② 具体的な修了要件

家政学部、文学部、理学部では、プログラムを構成する授業科目「基礎情報処理」の2単位を取得すること。ただし、初年次の履修においては、各学科向けに開講されているクラスを履修すること。

③ 授業科目名称

授業科目名称		授業科目名称
1	基礎情報処理	26
2	応用情報処理	27
3		28
4		29
5		30
6		31
7		32
8		33
9		34
10		35
11		36
12		37
13		38
14		39
15		40
16		41
17		42
18		43
19		44
20		45
21		46
22		47
23		48
24		49
25		50

学校名：日本女子大学

プログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違する

② 具体的な修了要件

人間社会学部では、プログラムを構成する授業科目「基礎情報処理」の2単位を取得すること。
ただし、西生田キャンパス(人間社会学部)向けに開講されるクラスから履修すること。

③ 授業科目名称

授業科目名称		授業科目名称
1	基礎情報処理	26
2	ICT活用とプロジェクト演習	27
3	情報科学基礎Ⅰ	28
4	情報科学基礎Ⅱ	29
5	情報科学基礎Ⅲ	30
6	情報科学基礎Ⅳ	31
7	コンピュータライゼーションと現代の諸問題	32
8		33
9		34
10		35
11		36
12		37
13		38
14		39
15		40
16		41
17		42
18		43
19		44
20		45
21		46
22		47
23		48
24		49
25		50

学校名：日本女子大学

プログラムの履修者数等の実績について

学部・学科名称	収容定員	令和2年度		令和元年度		平成30年度		平成29年度		平成28年度		平成27年度		履修者数合計	履修率
		履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
家政学部(家政)	1750	473	437	451	432	455	439							1,379	79%
文学部(人文科学)	1472	382	363	389	364	447	421							1,218	83%
人間社会学部(社会科学)	1895	451	436	458	433	492	457							1,401	74%
理学部(理学)	738	185	179	198	192	186	179							569	77%
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
														0	#DIV/0!
合計	5855	1,491	1,415	1,496	1,421	1,580	1,496	0	0	0	0	0	0	4,567	78%

学校名：日本女子大学

プログラムの授業内容・概要

① プログラムを構成する授業の内容・概要(数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラムの「導入」、「基礎」、「心得」に相当)

授業に含まれている内容・要素	授業概要	
<p>(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている</p> <p>※モデルカリキュラム導入1-1、導入1-6が該当</p>	<p>我が国が目指すSociety 5.0、第4次産業革命ならびに、世界各国でデジタル戦略が盛んに進められていることを第12、13回において理解する。それらの中心にはAI、ビッグデータ、IoT、CPSがあり、それらの活用により社会や生活がどのように変化するのかを考える機会を提供する。履修生には政府、産総研、経団連などが提供しているSociety 5.0が実現しようとする世界に関する動画を視聴し、その中から特に重要と考えるサービスを抽出して解説することを求めている。さらに、Society 5.0として理想的な社会を構築していくことに積極的に参加することの重要性を理解させるため、各学生にサービスやビジネスの提案を課題として提出させている。</p>	
	授業科目名称	講義テーマ
	基礎情報処理	<p>ビッグデータ、IoT、AI、ロボット、CPS(第12回) 第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会(第12回) 計算機の処理性能の向上(第5回) AIを活用した新しいビジネスモデル、AI最新技術の活用例(第12、13回)</p>
<p>(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの</p> <p>※モデルカリキュラム導入1-2、導入1-3が該当</p>	<p>授業概要</p> <p>第7～9回における各演習でオープンデータや日常生活・各学科の専門教育で現れるケースを想定したデータを活用した分析を実施する。データサイエンスを実践的に理解するため、データ分析を演習形式で行う。オープンデータとして都道府県別の出生数に関するデータを利用し、我が国における出生率などを可視化する。また、日常生活で現れるテキストデータを検索して目的の情報を抽出するなどの演習を行う。これらを通じて、人の生活の中からデータが生み出され、それを利用することで課題への気づきを得て、効率的な問題解決ができることを、各学生が分析しながら理解していく。さらに、第12、13回ではニューラルネットワーク、機械学習の仕組みとその用途を理解する。AI、データサイエンスの活用領域の広がりを政府、産総研、経団連の描くSociety 5.0に関する動画などにより学修し、特に重要と考える技術を抽出して考えることで理解を深める。</p>	
	授業科目名称	講義テーマ
	基礎情報処理	<p>データのオープン化(オープンデータ)(第7、8回) 構造化データ、非構造化データ(第7～9回) データ・AI活用領域の広がり(第12、13回)</p>

<p>(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの</p> <p>※モデルカリキュラム導入1-4、導入1-5が該当</p>	授業概要	
	<p>第6～11回において、専門教育や社会において現れうるケースを想定しながら様々なデータ解析の事例を演習する。提供したデータを対象に各学生が統計的なデータ集約、グラフによる可視化を行う。数値データだけでなく氏名や商品名、問題に対する聞き取り情報などの非構造化情報が収容されているデータを用いて検索的に扱う演習も行う。学科ごとのクラス編成とすることで、専門教育との連続性をもってデータサイエンスの活用を考える授業を展開している。例えば、学科の専門教育で現れるケースを想定したデータ分析を実施する。これによりデータの利活用が各学生の進路とも関係していることを理解する。</p>	
	授業科目名称	講義テーマ
	基礎情報処理	<p>データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、関係性の可視化(第6、9回)</p> <p>非構造化データ処理: 言語処理など(第9回)</p> <p>認識技術、ルールベース、自動化技術(第12、13回)</p> <p>データ解析と推論、結果の共有、伝達(第6～11回)</p> <p>流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介(第12、13回)</p>
<p>(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする</p> <p>※モデルカリキュラム心得3-1、心得3-2が該当</p>	授業概要	
	<p>第1、2回において、大学における学修者および研究者として活動するにあたり理解しておくべき留意事項を学修する。ビデオコンテンツも併用して想定される場面と問題について具体的に理解する。情報セキュリティ/情報社会における権利/社会生活における注意点について情報システムのユーザと情報を活用する立場の両面での理解を促す。</p>	
	授業科目名称	講義テーマ
	基礎情報処理	<p>個人情報保護、データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護(第1、2回)</p> <p>情報セキュリティ、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取(第1、2回)</p> <p>情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介(第1回)</p>

<p>(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの</p> <p>※モデルカリキュラム基礎2-1、基礎2-2、基礎2-3が該当</p>	授業概要	
	<p>データを読み解き、理解し、説明するために、データ解析用のツールとしてスプレッドシートを活用しながら、統計的分析、データ集約方法、チャートやグラフによる可視化について演習を行いながら理解する。第3～5回においてデータを読み解き、理解するための基本的な統計分析処理について理解する。第6回にはチャートやグラフによる可視化法について演習を行いながら理解する。また、第7～9回では大きなデータを対象にキー情報による並び替え、ランク付け、データ抽出をはじめとする様々なデータの集計や解析の方法を理解する。</p>	
	授業科目名称	講義テーマ
	基礎情報処理	<p>データの分布(ヒストグラム)(第6回)、代表値(平均値、中央値、最頻値)(第3、8、9回)、データのばらつき(第8回)、データ表現(棒グラフ、折れ線グラフ)(第6回)、データの図表表現(第5、6、9回)、データの集計(和、平均)(第3～5回)、データの並び替え、ランキング(第7～9回)、データ解析ツール(スプレッドシート)(第9回)</p>

② プログラムを構成する授業の内容・概要(数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラムの「選択」に相当)

授業に含まれている内容・要素	授業科目名称
統計及び数理基礎	応用情報処理
アルゴリズム基礎	基礎情報処理、応用情報処理
データ構造とプログラミング基礎	基礎情報処理、応用情報処理
時系列データ解析	応用情報処理
テキスト解析	応用情報処理
画像解析	応用情報処理
データハンドリング	応用情報処理
データ活用実践(教師あり学習)	基礎情報処理
その他	

③ プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<https://unv.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ai.html>

④ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

AI、データサイエンスを含む情報科学に関する基礎的知識とSociety5.0の動向
 データを統計的に分析、可視化する能力
 課題に関するデータを収集分析し、解決に必要な知見を抽出する能力
 AIなども含めたプログラミングの基礎的知識

プログラムの授業内容・概要

① プログラムを構成する授業の内容・概要(数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラムの「導入」、「基礎」、「心得」に相当)

授業に含まれている内容・要素	授業概要	
<p>(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている</p> <p>※モデルカリキュラム導入1-1、導入1-6が該当</p>	<p>我が国が目指すSociety 5.0、第4次産業革命ならびに、世界各国でデジタル戦略が盛んに進められていることを理解する。それらの中心にはAI、ビッグデータ、IoT、CPSがあり、それらの活用により社会や生活がどのように変化するかを考える機会を提供する。第9回においてデータサイエンスとは何かを理解するため、ビッグデータの収集と統計的な処理などのデータサイエンスを支える技術とその活用について学修する。第12、13回では人工知能AI、IoT、CPSを活用することで新たな社会が拓かれつつあることを理解する。ロボットプログラミングを利用して体験的に学修を進める。具体的な動作を体験することで、社会や生活がどのように変化するかを実感をもって考える機会を提供する。第14回では、それらを組み合わせて実現されるSociety 5.0について総括を行う。</p>	
	授業科目名称	講義テーマ
	基礎情報処理	<p>ビッグデータ(第9回)、IoT、AI、ロボット(第12、13回) 第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会(第12～14回) 計算機の処理性能の向上(第5回) AIを活用した新しいビジネスモデル、AI最新技術の活用例(第12～14回)</p>
<p>(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの</p> <p>※モデルカリキュラム導入1-2、導入1-3が該当</p>	<p>授業概要</p>	
	<p>第9～11回における各演習でオープンデータや日常生活・各学科の専門教育で現れるケースを想定したデータを活用した分析を実施する。データサイエンスを実践的に理解するため、データ分析を演習形式で行う。オープンデータとして人口分布に関するデータを利用して各都道府県別の特徴を可視化する。また、履修する学生同志でアンケートを企画し、得られた調査結果をもとに、自分たちの特徴づける情報を抽出する。これらを通じて、人の生活の中からデータが生み出され、それを利用することで課題への気づきを得て、効率的な問題解決ができることを、各学生が実感しながら理解していく。さらに、第12、13回ではニューラルネットワーク、機械学習の仕組みとその用途を理解する。第9、14回にはAI、データサイエンスの活用領域の広がりを政府・内閣府がまとめるSociety 5.0に関するコンテンツを用いて学修する。</p>	
	授業科目名称	講義テーマ
	基礎情報処理	<p>調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど(第9～11回) データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)(第9～11回、第12、13回) 仮説検証、知識発見、原因究明(第9～11回)</p>

<p>(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの</p> <p>※モデルカリキュラム導入1-4、導入1-5が該当</p>	授業概要	
	<p>専門教育や社会において現れうるケースを想定しながら様々なデータ解析の事例を実践的に身につける。第6回では統計的なデータ集約の方法について理解する。第10回にはグラフを用いたデータの可視化を演習する。第11回には数値データだけでなく氏名や商品名、問題に対する聞き取り情報などの非構造化情報が収容されているデータを用いてデータの並び替えや検索、抽出、探索的な分析を理解する。第9回ではデータサイエンスの利用範囲と課題解決のための進め方について講義を通じて理解する。また、第12、13回には、小型のロボット製品(ロボホン)を利用して人工知能、プログラミングの応用について理解する。製品として提供され、サービスとして利用されているものを対象にその利活用事例について考える。また、プログラミングによって人工知能が提供する機能を体験する。</p>	
	授業科目名称	講義テーマ
基礎情報処理	<p>データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、関係性の可視化(第6、10回) データサイエンスのサイクル(第9回) 探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有、伝達(第10、11回) 流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介(第12、13回)、認識技術、ルールベース、自動化技術(第12、13回)</p>	
<p>(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする</p> <p>※モデルカリキュラム心得3-1、心得3-2が該当</p>	授業概要	
	<p>大学における学修者および研究者として活動するにあたり理解しておくべき留意事項を学修する。第1回において、ビデオコンテンツも併用して想定される場面と問題について具体的に理解する。情報セキュリティ/情報社会における権利/社会生活における注意点について情報システムのユーザと情報を活用する立場の両面で理解する。</p>	
	授業科目名称	講義テーマ
基礎情報処理	<p>個人情報保護、データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護(第1回) 情報セキュリティ、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取(第1回) 情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介(第1回)</p>	

<p>(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの</p> <p>※モデルカリキュラム基礎2-1、基礎2-2、基礎2-3が該当</p>	授業概要	
	<p>データを読み解き、理解し、説明するために、データ解析用のツールとしてスプレッドシートを活用しながら、統計的分析、データ集約方法、チャートやグラフによる可視化について演習を行いながら理解する。第6、9回においてデータを読み解き、理解するための基本的な統計分析処理について理解する。第9回にはチャートやグラフにより、データを説明するためのスキルを身につける。第10、11回には、大きなデータをキー情報によって並び替えたり、ランク付け、データ抽出などの操作について読み解いていくことについて演習を通じて学ぶ。</p>	
	授業科目名称	講義テーマ
	基礎情報処理	<p>データの分布(ヒストグラム)(第6、10回)、代表値(平均値、中央値、最頻値)(第6回)、データのばらつき(第9回)、データ表現(棒グラフ、折れ線グラフ)(第6回)、データの図表表現(第9、10回)、データの集計(和、平均)(第6回)、データの並び替え、ランキング(第10、11回)</p>

② プログラムを構成する授業の内容・概要(数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラムの「選択」に相当)

授業に含まれている内容・要素	授業科目名称
統計及び数理基礎	情報科学基礎Ⅲ
アルゴリズム基礎	情報科学基礎Ⅰ
データ構造とプログラミング基礎	情報科学基礎Ⅰ
時系列データ解析	
テキスト解析	
画像解析	情報科学基礎Ⅰ、情報科学基礎Ⅱ
データハンドリング	情報科学基礎Ⅲ
データ活用実践(教師あり学習)	基礎情報処理
その他	ICT活用とプロジェクト演習 コンピュータライゼーションと現代の諸問題

③ プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<https://unv.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ai.html>

④ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

AI、データサイエンスを含む情報科学に関する基礎的知識とSociety5.0の動向
 データを統計的に分析、可視化する能力
 課題に関するデータを収集分析し、解決に必要な知見を抽出する能力
 AIなども含めたプログラミングの基礎的知識

学校名：日本女子大学

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

基盤教育センター 情報処理委員会内規

② 体制の目的

情報処理委員会は、大学執行部会議下の基盤教育センターの下に設置され、全学的な情報処理科目のカリキュラム編成等、本学の情報処理教育の長期的な基本方針の策定を行う。

③ 具体的な構成員

【専門委員3名】

理学部

- ・小川賀代 理学部数物科学科 教授(情報処理委員会委員長)
- ・長谷川治久 理学部数物科学科 教授(メディアセンター所長)

人間社会学部

- ・藤崎和香 心理学科 教授

【学部委員3名】

家政学部

- ・原ひろみ 家政経済学科 准教授

文学部

- ・林悠子 日本文学科 准教授

通信教育課程

- ・浅見美穂 特任教授

④ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

各年度の履修者数の目標を以下のとおりとする(()内は履修率)。

- 令和3年度 5,855名(100%)
- 令和4年度 5,855名(100%)
- 令和5年度 5,855名(100%)
- 令和6年度 5,855名(100%)
- 令和7年度 5,855名(100%)

上記の目標を実現するために、以下の取組を実施している。

- ・令和3年度より人間社会学部において基礎情報処理2単位を必修化し、全ての学部での必修化を実現している。実際には令和2年度以前も人間社会学部の履修率は高く、令和3年度には100%達成・維持する見込みである。

⑤ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

基礎情報処理は家政、文学、理学部で必修であったが、平成30年度に人間社会学部でも開講し、全学生が履修できるように整備した。令和2年度のシラバス見直しによりAI、データサイエンス教育の強化を行い、令和3年度には受講制度を統一して全学部で初年次の必修科目と改めた。

異なるキャンパスの選択科目が履修困難であったが、キャンパス統合に伴い全学生が履修しやすく整備した。以上により、学生全員が受講可能となる制度が整備できた状況にある。令和3年度より一定の情報科目の単位を修得すると修了証が発行される「AI、データサイエンス、ICT教育認定プログラム」を開始し、学生への周知および履修の促進を進めている。
ホームページ：<https://unv.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/dataeducation.html>

⑥ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

全ての学部で基礎情報処理2単位を初年次の必修科目となっており、「履修の手引き」にて周知している。さらに応用科目の履修促進のため、紹介パンフレットと小冊子を作成し、全対象学生にLMSを通じて配布している。今年度「データサイエンス入門」の受講アンケートでは、パンフレットにより興味をもって履修した学生が57%となっている。

令和3年度より定められた科目群の単位を修得すると修了証が発行される「AI、データサイエンス、ICT教育認定プログラム」を開始している。このプログラムについては、公式ホームページで紹介するとともに、学生に対してはプログラム履修促進動画の作成、パンフレットの配付、新学期履修ガイダンスの説明など多様な手法で学生に周知及び履修を促している。
ホームページ：<https://unv.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/dataeducation.html>

⑦ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

令和2年度まで2キャンパスでの体制時には、各キャンパスに情報科学に関する共通科目を運用・支援する組織(目白キャンパスは基礎科目情報処理研究室、西生田キャンパスは情報教育研究室)を設置し、学生からの授業履修に関する相談に対応してきた。令和3年度キャンパス統合後は、基礎科目情報処理研究室を中心に一元的にこれらの支援を実施している。また、メディアセンターではICT環境の利活用に関する幅広いサポートを行っている。また、学内での自習環境や自宅から遠隔で学内情報環境に接続して利用できる環境などを整備し、自分のパソコンやソフトウェアが学修上のネックとならないようにサポートしている。

⑧ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

オフィスアワー制度により、専任教員が質問対応や履修上の相談に対応できる体制が整備されている。また、情報科目の支援組織(キャンパス統合前は基礎科目情報処理研究室と情報教育研究室)が授業時間内外の学習指導、質問対応などの支援を行っている。授業時間内にはサポート者(1~3名)が教室(遠隔授業の場合はリモート会議)に助手及びTAが参加し、個々の学生の躓きや疑問点に即応しつつ、全体の授業の進度に支障がでないように運営している。また、当該組織の研究室を設置し、開室時間内であれば随時情報処理科目全般に関する質問、相談を受け付けている。さらに、学内の情報環境の利用に関するサポートをメディアセンターにおいて行っている。さらに同センターでは、授業外に資格試験を受験することに対する支援として、IPA情報技術者試験、マイクロソフト社MOS検定、SPSS講座などに関するコンテンツや講座を提供している。

学校名：日本女子大学

自己点検・評価について

① 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>自己点検・評価委員会において、令和2年度は、「Society5.0に対応できる情報基盤教育の構築」を到達目標の一つに掲げ、取り組んだ。令和2年度から家政学部、文学部および理学部必修である「基礎情報処理」において、新たに人工知能、データサイエンスの講義及びプログラミングの実習を追加する授業計画を立案し、全てのクラスで実施した。また、本学では令和3年度より人間社会学部も「基礎情報処理」を必修化し、全学部において必修の扱いとしている。</p>
学修成果	<p>家政学部、文学部、理学部に設置されている基礎情報処理については、授業時において随時アンケートを実施して学生の理解度を測定している。その結果を基礎科目情報処理研究室で分析し、分析結果を各授業担当者で共有している。</p> <p>例えば、人工知能に関するプログラミング実習のアンケート(2020年度後期実施)では、次のような結果が得られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機械学習のイメージがつかめた はい71%、いいえ10%、どちらとも言えない18% ・今後もプログラミングを学習したいか はい73%、いいえ16%、どちらとも言えない11% <p>このような調査結果を踏まえて、より高い学修成果の創出に取り組んでいる。</p>

<p>学生アンケート等を通じた 学生の内容の理解度</p>	<p>全学的に「学生と授業改善について考えるアンケート」を各期末に実施し、集計結果を授業担当教員及び当該授業を履修している学生に公開している。情報科学に関する共通科目においても実施し、各授業担当者はこれらを参考にして、授業内容や水準を維持・向上しつつも、より分かりやすい授業を展開するよう改善を行っている。また、上記の学修成果の項にも記載したように、各情報科目においても個別に随時アンケートを実施して学生の理解度を測定している。これらの結果を各担当者が把握し、必要に応じ情報処理科目授業担当者全体で共有をしている。これらの内容をもとに、今後のカリキュラムのあり方などにおける検討資料の一部としている。</p>
<p>学生アンケート等を通じた 後輩等他の学生への推奨度</p>	<p>令和3年度において基礎情報処理2単位は全学部で必修であり、先輩等からの推奨に関わらず全学生が履修する。 応用を学ぶ選択科目では、文理を問わず情報産業への就職や自分の可能性を広げるために受講している学生の意識が、アンケートの自由記述から伺える。以下は、アンケートの結果の抜粋である。これら先輩達の感想は、科目紹介用のパンフレットを通じて後輩に伝えられる。 【自由記述抜粋】 ・被服学科 2年 囚工知能がどのような仕組みなのか知ることができて良かったです。 ・史学科 3年 IT業界に興味を持てた。就職活動の視野が広がった。 ・食物学科 4年 プログラミングの経験ができたのでSE研修も落ち着いて受けられそう。</p>
<p>全学的な履修者数、履修 率向上に向けた計画の達 成・進捗状況</p>	<p>基礎情報処理は家政学部、文学部及び理学部において必修であるが、2021年度からは人間社会学部も必修化することにより、履修率の向上を実現させる。 また、令和3年度より定められた科目群の単位を修得すると修了証が発行される「AI、データサイエンス、ICT教育認定プログラム」を開始し、ホームページでの案内、履修促進動画の視聴、パンフレットの配付、新学期履修ガイダンスでの説明などにより、学生にプログラムの周知及び履修を促している。</p>

学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>本学は家政学部、文学部、人間社会学部、理学部を擁する女子総合大学であるが、学部を問わず情報通信業界への就職者が一定数存在する。</p> <p>【業種別就職状況】 情報通信関係への就職率：家政学部8.2%、文学部16.4%、人間社会学部14.8%、理学部36.6%（合計15.6%） 【職種別就職状況】 SEへの就職率：家政学部4.5%、文学部9.1%、人間社会学部8.9%、理学部42.3%（合計11.2%）</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>日本女子大学外部評価委員会規程に基づき設置されている外部評価委員会（産業界、自治体等の有識者で構成）から、データサイエンスの推進について提言をいただいた（2019年度）。この提言を踏まえ、文系・理系に関わらず、社会で実践的なICT活用ができる人材育成を目指して、2021年度より全学共通の「AI・データサイエンス・ICT教育認定プログラム」を開設した。より深く実践的にAI、データサイエンス、ICTの活用を学ぶ選択科目の履修を要件とし、企業と連携し、情報処理技術を社会で活用することについて学ぶ科目も要件に含むことで、より高度で実践的な学びを実現することを目的としている。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>Society5.0の実現する世界をイメージできるように、政府や研究機関、経済団体が提供している動画を視聴させている。多くの動画がドラマ仕立てになっていることから、自分たちの生活が変わっていくことを具体的に理解できるようである。課題として、動画の中で強く意義を感じたサービスとそれを実現する技術についてレポートさせ、さらにAI、データサイエンスを活用して、実現したいと思う技術やサービスを提案させることを考えさせている。それぞれの専門分野との関係も含めて考えさせることで学ぶ意義が理解できるように工夫している。</p>
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	<p>「学生と授業改善について考えるアンケート」を各期末に実施し、参考にして分かりやすい授業のための改善を続けている。また、データサイエンスに関する演習テキストは、アンケートから学生が難しいと感じたところを毎年修正している。AIに関する実習資料は、わかりやすい77%、いいえ7%、どちらともいえない16%と良好なアンケート結果（令和2年度後期）を得ている。演習テキストでは、各学生の専門分野での利用を想定したデータを設定している。例えば、食物学科ではカロリー計算、児童学科では男性の育児にかかわる時間の調査などである。これによりデータサイエンスが自分自身の専門を生かすにも重要であることを認識させている。</p>

② 自己点検・評価体制における意見等の公表の有無

有

※公表している場合のアドレス

① 数理・AI・データサイエンスに関する教育プログラムに関する自己点検・評価

<https://unv.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ai.html>

② 2020年度基礎科目委員会 自己点検・評価委員会報告書(29ページ)□

https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/sr/ilcp490000000aus-att/houkokusho_2020.pdf

	授業科目名	基礎情報処理 A (数)		
	Course Title	COMPUTER LITERACY A (数)		
⑥	担当者名	長谷川治久		
	授業コード/Registration Code	162000501	開講キャンパス/Campus	目白キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度前期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2		
③	授業の概要/Course Summary	理学部(数物科学科)の1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に付けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けたプログラミングの初歩およびデータサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	今年度は遠隔授業形式を基本とし、コンピュータを操作しながら実践的にリテラシーを身につけていく。毎回の授業では、授業教材に従い実習を行うことで知識と技能を修得する。また、小テストや課題提出による理解度確認を行う。学習に関する質疑応答は、manabaの掲示板で行う。学習に関するフィードバックとして、授業最終回に授業全体に対する講評を行う。		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学のコンピュータ環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 人工知能を含むデータサイエンスの初歩的事項を理解し、基本的なデータ処理が行える。 4. プログラミングの初歩的スキルを修得している 		
④	授業計画(半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む)/Course Plan	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. 情報倫理 3. データサイエンス入門1 表計算の基礎(セル、参照方式、基本的な関数) 4. データサイエンス入門2 大規模なデータの統計処理と可視化 5. プログラミング入門1 プログラミング言語、標準出力、簡単な計算処理 6. プログラミング入門2 プログラムの書き方と実行、文字列の操作 7. プログラミング入門3 順次処理、タートルグラフィックスの利用 8. プログラミング入門4 変数を利用した計算、高度な関数の利用 9. プログラミング入門5 条件分岐 10. プログラミング入門6 反復処理 11. プログラミング入門7 描画処理、グラフ 12. *人工知能技術の発展と活用例 *ディープラーニングにおける学習と判断 13. まとめ(実技試験) <p>*印は別途50分に相当する課題研究の時間を含む</p>		
⑦	成績評価の方法/Methods of Evaluation	期末試験70% 課題30%		
	授業外学修(準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容)/Prep&Review	情報倫理やインターネットの利用上の注意については、履修前の確認として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。表計算、プログラミング入門については、最低でも授業時間と同じ程度の時間、実際にコンピュータを使っでの復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに提出できるように、しっかり計画を立てて取り組むこと。これらの学修に60時間以上を要する。		
	使用テキスト/Text to be used	授業教材をmanabaで配布予定。		
	参考書(参考資料等)/Reference Books			
	その他(受講生への要望)/Notes, Message to Students	必ず全員が前期に履修してください。後期の開講はありません。 PCまたはスマートフォンで実習を行えるように工夫します。 授業内容に関する質問は、manabaの掲示板で受け付けます。 プライバシーのある質問や相談は、教員にメールしてください。		
	学位授与方針(※参照用)/Diploma Policy	共通科目(学科科目以外) https://univ.iwv.ac.jp/univ/about/information/ilcp490000000ayo-att/syllabus_DP_code_univ.pdf 学科科目(各学科カリキュラム・ツリーより参照してください) https://univ.iwv.ac.jp/univ/about/information/curriculum.html 大学院 https://univ.iwv.ac.jp/univ/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf		

「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.iwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kyoin_kamoku.pdf
授業形態の種類 ※必須	第1～12回 A. 講義資料・課題提示の遠隔授業 または、B. オンデマンド型遠隔授業（manaba利用） 第13回 C. 同時双方向型遠隔授業（manaba利用） ただし、状況に応じて、A、B、Cのいずれかに変更して行う場合がある。 その場合は事前にLMS（manaba）上で指示する

	授業科目名	基礎情報処理 B (英)		
	Course Title	COMPUTER LITERACY B (英)		
⑥	担当者名	小川賀代		
	授業コード/Registration Code	162000514	開講キャンパス/Campus	目白キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度前期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2		
③	授業の概要/Course Summary	文学部、家政学部、理学部（物質生物科学科）の1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	遠隔講義形式を基本とし、コンピュータを操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。知識の習得については、オンデマンドの講義で学び、実習については、テキストに従って課題を行う。学習に関する質疑応答は、manabaの掲示板で行う。フィードバックとして、授業最終回に授業全体に対する講評を行う。		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
④	授業計画（半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む）/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理, [実習]データサイエンス入門1：表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1：コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2：表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2：コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3：表計算の条件分岐, 論理関数 5. [講義]情報科学概論3：ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4：データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4：ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5：データの処理 7. [講義]情報科学概論5：マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6：データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6：マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7：データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7：コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成：Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8：コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成：Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展, [実習]総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング, [実習]プログラミング実習 13. 試験（筆記） 		
⑦	成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験（筆記と実技）、受講状況などを総合的に勘案して決める。		
	授業外学修（準備・事後学習等）に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使っての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。		
	使用テキスト/Text to be used	実習用のテキストをmanaba上で配布予定		
	参考書（参考資料等）/Reference Books			
	その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	質問は、manabaの掲示板で受け付ける。 自宅において、PCの実習が難しい場合は、後期に履修すること。		

学位授与方針（※参照）/Diploma Policy	<p>共通科目（学科科目以外） https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000avo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf</p> <p>学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html</p> <p>大学院 https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf</p>
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照）	<p>「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.iwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kyoin_kamoku.pdf</p>
授業形態の種類 ※必須	<p>第1～12回 [講義] B.manabaでのオンデマンド型遠隔授業（manaba利用） [実習] A.課題提示の遠隔授業（manaba利用）</p> <p>第13回 試験 C.同時双方向型遠隔授業（manaba利用）</p>

	授業科目名	基礎情報処理 C (英)		
	Course Title	COMPUTER LITERACY C (英)		
⑥	担当者名	渡邊洋平		
	授業コード/Registration Code	162000509	開講キャンパス/Campus	目白キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度前期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2		
③	授業の概要/Course Summary	文学部、家政学部、理学部（物質生物科学科）の1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	遠隔講義形式を基本とし、コンピュータを操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。知識の習得については、オンデマンドの講義で学び、実習については、テキストに従って課題を行う。学習に関する質疑応答は、manabaの掲示板で行う。フィードバックとして、授業最終回に授業全体に対する講評を行う。		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
④	授業計画（半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む）/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理, [実習]データサイエンス入門1：表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1：コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2：表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2：コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3：表計算の条件分岐, 論理関数 5. [講義]情報科学概論3：ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4：データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4：ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5：データの処理 7. [講義]情報科学概論5：マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6：データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6：マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7：データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7：コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成：Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8：コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成：Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展, [実習]総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング, [実習]プログラミング実習 13. 試験（筆記） 		
⑦	成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験（筆記と実技）、受講状況などを総合的に勘案して決める。		
	授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使つての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。		
	使用テキスト/Text to be used	実習用のテキストをmanaba上で配布予定		
	参考書（参考資料等）/Reference Books			
	その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	質問は、manabaの掲示板で受け付ける。 自宅において、PCの実習が難しい場合は、後期に履修すること。		

学位授与方針（※参照）/Diploma Policy	<p>共通科目（学科科目以外） https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000avo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf</p> <p>学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html</p> <p>大学院 https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf</p>
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照）	<p>「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.iwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kyoin_kamoku.pdf</p>
授業形態の種類 ※必須	<p>第1～12回 [講義] B.manabaでのオンデマンド型遠隔授業（manaba利用） [実習] A.課題提示の遠隔授業（manaba利用） 第13回 試験 C.同時双方向型遠隔授業（manaba利用）</p>

	授業科目名	基礎情報処理 D (物)		
	Course Title	COMPUTER LITERACY D (物)		
⑥	担当者名	尺長健		
	授業コード/Registration Code	162000504	開講キャンパス/Campus	目白キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度前期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2		
③	授業の概要/Course Summary	文学部、家政学部、理学部（物質生物科学科）の1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	遠隔講義形式を基本とし、コンピュータを操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。知識の習得については、オンデマンドの講義で学び、実習については、テキストに従って課題を行う。学習に関する質疑応答は、manabaの掲示板で行う。フィードバックとして、授業最終回に授業全体に対する講評を行う。		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
④	授業計画（半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む）/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理, [実習]データサイエンス入門1：表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1：コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2：表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2：コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3：表計算の条件分岐, 論理関数 5. [講義]情報科学概論3：ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4：データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4：ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5：データの処理 7. [講義]情報科学概論5：マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6：データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6：マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7：データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7：コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成：Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8：コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成：Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展, [実習]総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング, [実習]プログラミング実習 13. 試験（筆記） 		
⑦	成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験（筆記と実技）、受講状況などを総合的に勘案して決める。		
	授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使つての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。		
	使用テキスト/Text to be used	実習用のテキストをmanaba上で配布予定		
	参考書（参考資料等）/Reference Books			
	その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	質問は、manabaの掲示板で受け付ける。 自宅において、PCの実習が難しい場合は、後期に履修すること。		

学位授与方針（※参照）/Diploma Policy	<p>共通科目（学科科目以外） https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000avo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf</p> <p>学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html</p> <p>大学院 https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf</p>
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照）	<p>「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.iwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kyoin_kamoku.pdf</p>
授業形態の種類 ※必須	<p>第1～12回 [講義] B.manabaでのオンデマンド型遠隔授業（manaba利用） [実習] A.課題提示の遠隔授業（manaba利用）</p> <p>第13回 試験 C.同時双方向型遠隔授業（manaba利用）</p>

	授業科目名	基礎情報処理 E (経)		
	Course Title	COMPUTER LITERACY E (経)		
⑥	担当者名	藤田智子		
	授業コード/Registration Code	162000505	開講キャンパス/Campus	目白キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度前期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2		
③	授業の概要/Course Summary	文学部、家政学部、理学部（物質生物科学科）の1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	遠隔講義形式を基本とし、コンピュータを操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。知識の習得については、オンデマンドの講義で学び、実習については、テキストに従って課題を行う。学習に関する質疑応答は、manabaの掲示板で行う。フィードバックとして、授業最終回に授業全体に対する講評を行う。		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
④	授業計画（半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む）/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理, [実習]データサイエンス入門1：表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1：コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2：表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2：コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3：表計算の条件分岐, 論理関数 5. [講義]情報科学概論3：ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4：データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4：ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5：データの処理 7. [講義]情報科学概論5：マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6：データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6：マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7：データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7：コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成：Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8：コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成：Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展, [実習]総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング, [実習]プログラミング実習 13. 試験（筆記） 		
⑦	成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験（筆記と実技）、受講状況などを総合的に勘案して決める。		
	授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使っての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。		
	使用テキスト/Text to be used	実習用のテキストをmanaba上で配布予定		
	参考書（参考資料等）/Reference Books			
	その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	質問は、manabaの掲示板で受け付ける。 自宅において、PCの実習が難しい場合は、後期に履修すること。		

学位授与方針（※参照）/Diploma Policy	<p>共通科目（学科科目以外） https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000avo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf</p> <p>学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html</p> <p>大学院 https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf</p>
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照）	<p>「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.iwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kyoin_kamoku.pdf</p>
授業形態の種類 ※必須	<p>第1～12回 [講義] B.manabaでのオンデマンド型遠隔授業（manaba利用） [実習] A.課題提示の遠隔授業（manaba利用） 第13回 試験 C.同時双方向型遠隔授業（manaba利用）</p>

	授業科目名	基礎情報処理 F (住)		
	Course Title	COMPUTER LITERACY F (住)		
⑥	担当者名	藤田智子		
	授業コード/Registration Code	162000506	開講キャンパス/Campus	目白キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度前期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2		
③	授業の概要/Course Summary	文学部、家政学部、理学部（物質生物科学科）の1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット／コンピュタリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	遠隔講義形式を基本とし、コンピュータを操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。知識の習得については、オンデマンドの講義で学び、実習については、テキストに従って課題を行う。学習に関する質疑応答は、manabaの掲示板で行う。フィードバックとして、授業最終回に授業全体に対する講評を行う。		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
④	授業計画（半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む）/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理, [実習]データサイエンス入門1：表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1：コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2：表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2：コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3：表計算の条件分岐, 論理関数 5. [講義]情報科学概論3：ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4：データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4：ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5：データの処理 7. [講義]情報科学概論5：マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6：データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6：マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7：データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7：コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成：Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8：コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成：Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展, [実習]総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング, [実習]プログラミング実習 13. 試験（筆記） 		
⑦	成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験（筆記と実技）、受講状況などを総合的に勘案して決める。		
	授業外学修（準備・事後学習等）に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使つての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。		
	使用テキスト/Text to be used	実習用のテキストをmanaba上で配布予定		
	参考書（参考資料等）/Reference Books			
	その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	質問は、manabaの掲示板で受け付ける。 自宅において、PCの実習が難しい場合は、後期に履修すること。		

学位授与方針（※参照）/Diploma Policy	<p>共通科目（学科科目以外） https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000avo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf</p> <p>学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html</p> <p>大学院 https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf</p>
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照）	<p>「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.iwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kyoin_kamoku.pdf</p>
授業形態の種類 ※必須	<p>第1～12回 [講義] B.manabaでのオンデマンド型遠隔授業（manaba利用） [実習] A.課題提示の遠隔授業（manaba利用）</p> <p>第13回 試験 C.同時双方向型遠隔授業（manaba利用）</p>

	授業科目名	基礎情報処理 G (数)		
	Course Title	COMPUTER LITERACY G (数)		
⑥	担当者名	兼子裕大		
	授業コード/Registration Code	162000507	開講キャンパス/Campus	目白キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度前期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2		
③	授業の概要/Course Summary	理学部(数物科学科)の1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身につけることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けたプログラミングの初歩およびデータサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	今年度は遠隔授業形式を基本とし、コンピュータを操作しながら実践的にリテラシーを身につけていく。毎回の授業では、授業教材に従い実習を行うことで知識と技能を修得する。また、小テストや課題提出による理解度確認を行う。学習に関する質疑応答は、manabaの掲示板で行う。学習に関するフィードバックとして、授業最終回に授業全体に対する講評を行う。		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 人工知能を含むデータサイエンスの初歩的事項を理解し、基本的なデータ処理が行える 4. プログラミングの初歩的スキルを修得している 		
④	授業計画(半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む)/Course Plan	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. 情報倫理 3. データサイエンス入門1 表計算の基礎(セル、参照方式、基本的な関数) 4. データサイエンス入門2 大規模なデータの統計処理と可視化 5. プログラミング入門1 プログラミング言語、標準出力、簡単な計算処理 6. プログラミング入門2 プログラムの書き方と実行、文字列の操作 7. プログラミング入門3 順次処理、タートルグラフィックスの利用 8. プログラミング入門4 変数を利用した計算、高度な関数の利用 9. プログラミング入門5 条件分岐 10. プログラミング入門6 反復処理 11. プログラミング入門7 描画処理、グラフ 12. *人工知能技術の発展と活用例 *ディープラーニングにおける学習と判断 13. まとめ(実技試験) <p>*印は別途50分に相当する課題研究の時間を含む</p>		
⑦	成績評価の方法/Methods of Evaluation	期末試験70% 課題30%		
	授業外学修(準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容)/Prep&Review	情報倫理やインターネットの利用上の注意については、履修前の確認として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。表計算、プログラミング入門については、最低でも授業時間と同じ程度の時間、実際にコンピュータを使つての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに提出できるように、しっかり計画を立てて取り組むこと。これらの学修に60時間以上を要する。		
	使用テキスト/Text to be used	授業教材をmanabaで配布予定。		
	参考書(参考資料等)/Reference Books			
	その他(受講生への要望)/Notes, Message to Students	必ず全員が前期に履修してください。後期の開講はありません。 PCまたはスマートフォンで実習を行えるように工夫します。 授業内容に関する質問は、manabaの掲示板で受け付けます。 プライバシーのある質問や相談は、教員にメールしてください。		
	学位授与方針(※参照用)/Diploma Policy	共通科目(学科科目以外) https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000ayo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 学科科目(各学科カリキュラム・ツリーより参照してください) https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html 大学院 https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf		

「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.iwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kyoin_kamoku.pdf
授業形態の種類 ※必須	<p>第1～12回 A. 講義資料・課題提示の遠隔授業 または、B. オンデマンド型遠隔授業（manaba利用）</p> <p>第13回 C. 同時双方向型遠隔授業（manaba利用）</p> <p>ただし、状況に応じて、A、B、Cのいずれかに変更して行う場合がある。 その場合は事前にLMS（manaba）上で指示する。</p>

	授業科目名	基礎情報処理 H (物)		
	Course Title	COMPUTER LITERACY H (物)		
⑥	担当者名	横田裕介		
	授業コード/Registration Code	162000508	開講キャンパス/Campus	目白キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度前期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2		
③	授業の概要/Course Summary	文学部、家政学部、理学部（物質生物科学科）の1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	遠隔講義形式を基本とし、コンピュータを操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。知識の習得については、オンデマンドの講義で学び、実習については、テキストに従って課題を行う。学習に関する質疑応答は、manabaの掲示板で行う。フィードバックとして、授業最終回に授業全体に対する講評を行う。		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
④	授業計画（半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む）/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理, [実習]データサイエンス入門1：表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1：コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2：表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2：コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3：表計算の条件分岐, 論理関数 5. [講義]情報科学概論3：ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4：データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4：ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5：データの処理 7. [講義]情報科学概論5：マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6：データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6：マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7：データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7：コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成：Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8：コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成：Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展, [実習]総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング, [実習]プログラミング実習 13. 試験（筆記） 		
⑦	成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験（筆記と実技）、受講状況などを総合的に勘案して決める。		
	授業外学修（準備・事後学習等）に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使っての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。		
	使用テキスト/Text to be used	実習用のテキストをmanaba上で配布予定		
	参考書（参考資料等）/Reference Books			
	その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	質問は、manabaの掲示板で受け付ける。 自宅において、PCの実習が難しい場合は、後期に履修すること。		

学位授与方針（※参照）/Diploma Policy	<p>共通科目（学科科目以外） https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000avo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf</p> <p>学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html</p> <p>大学院 https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf</p>
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照）	<p>「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.iwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kyoin_kamoku.pdf</p>
授業形態の種類 ※必須	<p>第1～12回 [講義] B.manabaでのオンデマンド型遠隔授業（manaba利用） [実習] A.課題提示の遠隔授業（manaba利用） 第13回 試験 C.同時双方向型遠隔授業（manaba利用）</p>

	授業科目名	基礎情報処理 J (日)		
	Course Title	COMPUTER LITERACY J (日)		
⑥	担当者名	小柴健史		
	授業コード/Registration Code	162000502	開講キャンパス/Campus	目白キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度前期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2		
③	授業の概要/Course Summary	文学部、家政学部、理学部（物質生物科学科）の1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	遠隔講義形式を基本とし、コンピュータを操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。知識の習得については、オンデマンドの講義で学び、実習については、テキストに従って課題を行う。学習に関する質疑応答は、manabaの掲示板で行う。フィードバックとして、授業最終回に授業全体に対する講評を行う。		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
④	授業計画（半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む）/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理, [実習]データサイエンス入門1：表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1：コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2：表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2：コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3：表計算の条件分岐, 論理関数 5. [講義]情報科学概論3：ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4：データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4：ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5：データの処理 7. [講義]情報科学概論5：マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6：データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6：マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7：データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7：コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成：Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8：コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成：Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展, [実習]総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング, [実習]プログラミング実習 13. 試験（筆記） 		
⑦	成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験（筆記と実技）、受講状況などを総合的に勘案して決める。		
	授業外学修（準備・事後学習等）に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使っての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。		
	使用テキスト/Text to be used	実習用のテキストをmanaba上で配布予定		
	参考書（参考資料等）/Reference Books			
	その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	質問は、manabaの掲示板で受け付ける。 自宅において、PCの実習が難しい場合は、後期に履修すること。		

学位授与方針（※参照）/Diploma Policy	<p>共通科目（学科科目以外） https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000avo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf</p> <p>学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html</p> <p>大学院 https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf</p>
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照）	<p>「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.iwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kyoin_kamoku.pdf</p>
授業形態の種類 ※必須	<p>第1～12回 [講義] B.manabaでのオンデマンド型遠隔授業（manaba利用） [実習] A.課題提示の遠隔授業（manaba利用）</p> <p>第13回 試験 C.同時双方向型遠隔授業（manaba利用）</p>

	授業科目名	基礎情報処理 K (史)		
	Course Title	COMPUTER LITERACY K (史)		
⑥	担当者名	小柴健史		
	授業コード/Registration Code	162000510	開講キャンパス/Campus	目白キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度前期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2		
③	授業の概要/Course Summary	文学部、家政学部、理学部（物質生物科学科）の1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	遠隔講義形式を基本とし、コンピュータを操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。知識の習得については、オンデマンドの講義で学び、実習については、テキストに従って課題を行う。学習に関する質疑応答は、manabaの掲示板で行う。フィードバックとして、授業最終回に授業全体に対する講評を行う。		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
④	授業計画（半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む）/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理, [実習]データサイエンス入門1：表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1：コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2：表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2：コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3：表計算の条件分岐, 論理関数 5. [講義]情報科学概論3：ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4：データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4：ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5：データの処理 7. [講義]情報科学概論5：マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6：データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6：マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7：データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7：コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成：Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8：コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成：Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展, [実習]総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング, [実習]プログラミング実習 13. 試験（筆記） 		
⑦	成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験（筆記と実技）、受講状況などを総合的に勘案して決める。		
	授業外学修（準備・事後学習等）に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使っての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。		
	使用テキスト/Text to be used	実習用のテキストをmanaba上で配布予定		
	参考書（参考資料等）/Reference Books			
	その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	質問は、manabaの掲示板で受け付ける。 自宅において、PCの実習が難しい場合は、後期に履修すること。		

学位授与方針（※参照）/Diploma Policy	<p>共通科目（学科科目以外） https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000avo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf</p> <p>学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html</p> <p>大学院 https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf</p>
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照）	<p>「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.iwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kyoin_kamoku.pdf</p>
授業形態の種類 ※必須	<p>第1～12回 [講義] B.manabaでのオンデマンド型遠隔授業（manaba利用） [実習] A.課題提示の遠隔授業（manaba利用） 第13回 試験 C.同時双方向型遠隔授業（manaba利用）</p>

	授業科目名	基礎情報処理 L (児)		
	Course Title	COMPUTER LITERACY L (児)		
⑥	担当者名	長谷川治久		
	授業コード/Registration Code	162000511	開講キャンパス/Campus	目白キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度前期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2		
③	授業の概要/Course Summary	文学部、家政学部、理学部（物質生物科学科）の1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に付けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	遠隔講義形式を基本とし、コンピュータを操作しながら具体的にリテラシーを身に付けていく。知識の習得については、オンデマンドの講義で学び、実習については、テキストに従って課題を行う。学習に関する質疑応答は、manabaの掲示板で行う。フィードバックとして、授業最終回に授業全体に対する講評を行う。		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
④	授業計画（半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む）/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理, [実習]データサイエンス入門1：表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1：コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2：表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2：コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3：表計算の条件分岐, 論理関数 5. [講義]情報科学概論3：ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4：データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4：ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5：データの処理 7. [講義]情報科学概論5：マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6：データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6：マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7：データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7：コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成：Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8：コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成：Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展, [実習]総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング, [実習]プログラミング実習 13. 試験（筆記） 		
⑦	成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験（筆記と実技）、受講状況などを総合的に勘案して決める。		
	授業外学修（準備・事後学習等）に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使っての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。		
	使用テキスト/Text to be used	実習用のテキストをmanaba上で配布予定		
	参考書（参考資料等）/Reference Books			
	その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	質問は、manabaの掲示板で受け付ける。 自宅において、PCの実習が難しい場合は、後期に履修すること。		

学位授与方針（※参照）/Diploma Policy	<p>共通科目（学科科目以外） https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000avo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf</p> <p>学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html</p> <p>大学院 https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf</p>
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照）	<p>「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.iwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kyoin_kamoku.pdf</p>
授業形態の種類 ※必須	<p>第1～12回 [講義] B.manabaでのオンデマンド型遠隔授業（manaba利用） [実習] A.課題提示の遠隔授業（manaba利用） 第13回 試験 C.同時双方向型遠隔授業（manaba利用）</p>

	授業科目名	基礎情報処理 M (食・管)		
	Course Title	COMPUTER LITERACY M (食・管)		
⑥	担当者名	杉岡幸次		
	授業コード/Registration Code	162000512	開講キャンパス/Campus	目白キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度前期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2		
③	授業の概要/Course Summary	文学部、家政学部、理学部（物質生物科学科）の1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	遠隔講義形式を基本とし、コンピュータを操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。知識の習得については、オンデマンドの講義で学び、実習については、テキストに従って課題を行う。学習に関する質疑応答は、manabaの掲示板で行う。フィードバックとして、授業最終回に授業全体に対する講評を行う。		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
④	授業計画（半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む）/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理, [実習]データサイエンス入門1：表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1：コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2：表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2：コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3：表計算の条件分岐, 論理関数 5. [講義]情報科学概論3：ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4：データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4：ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5：データの処理 7. [講義]情報科学概論5：マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6：データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6：マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7：データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7：コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成：Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8：コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成：Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展, [実習]総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング, [実習]プログラミング実習 13. 試験（筆記） 		
⑦	成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験（筆記と実技）、受講状況などを総合的に勘案して決める。		
	授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使っての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。		
	使用テキスト/Text to be used	実習用のテキストをmanaba上で配布予定		
	参考書（参考資料等）/Reference Books			
	その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	質問は、manabaの掲示板で受け付ける。 自宅において、PCの実習が難しい場合は、後期に履修すること。		

学位授与方針（※参照）/Diploma Policy	<p>共通科目（学科科目以外） https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000avo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf</p> <p>学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html</p> <p>大学院 https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf</p>
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照）	<p>「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.iwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kyoin_kamoku.pdf</p>
授業形態の種類 ※必須	<p>第1～12回 [講義] B.manabaでのオンデマンド型遠隔授業（manaba利用） [実習] A.課題提示の遠隔授業（manaba利用） 第13回 試験 C.同時双方向型遠隔授業（manaba利用）</p>

	授業科目名	基礎情報処理 N (日・住)		
	Course Title	COMPUTER LITERACY N (日・住)		
⑥	担当者名	倉光君郎		
	授業コード/Registration Code	162000513	開講キャンパス/Campus	目白キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度前期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2		
③	授業の概要/Course Summary	文学部、家政学部、理学部（物質生物科学科）の1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	遠隔講義形式を基本とし、コンピュータを操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。知識の習得については、オンデマンドの講義で学び、実習については、テキストに従って課題を行う。学習に関する質疑応答は、manabaの掲示板で行う。フィードバックとして、授業最終回に授業全体に対する講評を行う。		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
④	授業計画（半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む）/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理, [実習]データサイエンス入門1：表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1：コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2：表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2：コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3：表計算の条件分岐, 論理関数 5. [講義]情報科学概論3：ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4：データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4：ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5：データの処理 7. [講義]情報科学概論5：マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6：データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6：マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7：データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7：コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成：Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8：コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成：Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展, [実習]総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング, [実習]プログラミング実習 13. 試験（筆記） 		
⑦	成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験（筆記と実技）、受講状況などを総合的に勘案して決める。		
	授業外学修（準備・事後学習等）に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使つての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。		
	使用テキスト/Text to be used	実習用のテキストをmanaba上で配布予定		
	参考書（参考資料等）/Reference Books			
	その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	質問は、manabaの掲示板で受け付ける。 自宅において、PCの実習が難しい場合は、後期に履修すること。		

学位授与方針（※参照）/Diploma Policy	<p>共通科目（学科科目以外） https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000avo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf</p> <p>学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html</p> <p>大学院 https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf</p>
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照）	<p>「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.iwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kyoin_kamoku.pdf</p>
授業形態の種類 ※必須	<p>第1～12回 [講義] B.manabaでのオンデマンド型遠隔授業（manaba利用） [実習] A.課題提示の遠隔授業（manaba利用）</p> <p>第13回 試験 C.同時双方向型遠隔授業（manaba利用）</p>

	授業科目名	基礎情報処理 P (英)		
	Course Title	COMPUTER LITERACY P (英)		
⑥	担当者名	大野慶祐		
	授業コード/Registration Code	162000503	開講キャンパス/Campus	目白キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度後期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2		
③	授業の概要/Course Summary	文学部、家政学部、理学部（物質生物科学科）の1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット／コンピュータリテラシーを身に付けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュータリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	遠隔講義形式を基本とし、コンピュータを操作しながら具体的にリテラシーを身に付けていく。知識の習得については、オンデマンドの講義で学び、実習については、テキストに従って課題を行う。学習に関する質疑応答は、manabaの掲示板で行う。フィードバックとして、授業最終回に授業全体に対する講評を行う。		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
④	授業計画（半期14項目、通年28項目 回数毎の内容を含む）/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理 [実習]実習環境の準備と基本操作の確認 3. [講義]情報科学概論1：コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門1：表計算の基礎 4. [講義]情報科学概論2：コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門2：表計算の参照方式 5. [講義]情報科学概論3：コンピュータのハードウェア3 [実習]データサイエンス入門3：表計算の条件分岐、論理関数 6. [講義]情報科学概論4：ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4：データのグラフ化 7. [講義]情報科学概論5：ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5：データの処理 8. [講義]情報科学概論6：マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6：データの統計処理 9. [講義]情報科学概論7：マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7：データ集計と可視化 10. [講義]情報科学概論8：コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成：Word基本文書作成 11. [講義]情報科学概論9：コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成：Word長文作成 12. [講義]情報処理の発展、[実習]総合演習 13. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
⑦	成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験（筆記と実技）、受講状況などを総合的に勘案して決める。		
	授業外学修（準備・事後学習等）に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使っての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。		
	使用テキスト/Text to be used	実習用のテキストをmanaba上で配布予定。		
	参考書（参考資料等）/Reference Books			
	その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	質問は、manabaの掲示板で受け付ける。		

学位授与方針（※参照）/Diploma Policy	<p>共通科目（学科科目以外） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000ayo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf</p> <p>学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html</p> <p>大学院 https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf</p>
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照）	<p>「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kvoin_kamoku.pdf</p>
授業形態の種類 ※必須	<p>第1～13回 [講義]B.manabaでのオンデマンド型遠隔授業（manaba利用） [実習]A.課題提示の遠隔授業（manaba利用） 第14回 まとめ C.同時双方向型遠隔授業（manaba利用）</p>

	授業科目名	基礎情報処理 Q (史)		
	Course Title	COMPUTER LITERACY Q (史)		
⑥	担当者名	渡邊洋平		
	授業コード/Registration Code	162000515	開講キャンパス/Campus	目白キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度後期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2		
③	授業の概要/Course Summary	文学部、家政学部、理学部（物質生物科学科）の1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュータリテラシーを身に付けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュータリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	遠隔講義形式を基本とし、コンピュータを操作しながら具体的にリテラシーを身に付けていく。知識の習得については、オンデマンドの講義で学び、実習については、テキストに従って課題を行う。学習に関する質疑応答は、manabaの掲示板で行う。フィードバックとして、授業最終回に授業全体に対する講評を行う。		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
④	授業計画（半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む）/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理 [実習]実習環境の準備と基本操作の確認 3. [講義]情報科学概論1：コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門1：表計算の基礎 4. [講義]情報科学概論2：コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門2：表計算の参照方式 5. [講義]情報科学概論3：コンピュータのハードウェア3 [実習]データサイエンス入門3：表計算の条件分岐、論理関数 6. [講義]情報科学概論4：ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4：データのグラフ化 7. [講義]情報科学概論5：ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5：データの処理 8. [講義]情報科学概論6：マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6：データの統計処理 9. [講義]情報科学概論7：マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7：データ集計と可視化 10. [講義]情報科学概論8：コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成：Word基本文書作成 11. [講義]情報科学概論9：コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成：Word長文作成 12. [講義]情報処理の発展、[実習]総合演習 13. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
⑦	成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験（筆記と実技）、受講状況などを総合的に勘案して決める。		
	授業外学修（準備・事後学習等）に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使っての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。		
	使用テキスト/Text to be used	実習用のテキストをmanaba上で配布予定。		
	参考書（参考資料等）/Reference Books			
	その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	質問は、manabaの掲示板で受け付ける。		

学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	共通科目（学科科目以外） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000ayo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html 大学院 https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kvoin_kamoku.pdf
授業形態の種類 ※必須	第1～13回 [講義]B.manabaでのオンデマンド型遠隔授業（manaba利用） [実習]A.課題提示の遠隔授業（manaba利用） 第14回 まとめ C.同時双方向型遠隔授業（manaba利用）

	授業科目名	基礎情報処理 R (被・経)		
	Course Title	COMPUTER LITERACY R (被・経)		
⑥	担当者名	藤田智子		
	授業コード/Registration Code	162000516	開講キャンパス/Campus	目白キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度後期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2		
③	授業の概要/Course Summary	文学部、家政学部、理学部（物質生物科学科）の1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット／コンピュータリテラシーを身に付けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュータリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	遠隔講義形式を基本とし、コンピュータを操作しながら具体的にリテラシーを身に付けていく。知識の習得については、オンデマンドの講義で学び、実習については、テキストに従って課題を行う。学習に関する質疑応答は、manabaの掲示板で行う。フィードバックとして、授業最終回に授業全体に対する講評を行う。		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
④	授業計画（半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む）/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理 [実習]実習環境の準備と基本操作の確認 3. [講義]情報科学概論1：コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門1：表計算の基礎 4. [講義]情報科学概論2：コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門2：表計算の参照方式 5. [講義]情報科学概論3：コンピュータのハードウェア3 [実習]データサイエンス入門3：表計算の条件分岐、論理関数 6. [講義]情報科学概論4：ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4：データのグラフ化 7. [講義]情報科学概論5：ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5：データの処理 8. [講義]情報科学概論6：マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6：データの統計処理 9. [講義]情報科学概論7：マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7：データ集計と可視化 10. [講義]情報科学概論8：コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成：Word基本文書作成 11. [講義]情報科学概論9：コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成：Word長文作成 12. [講義]情報処理の発展、[実習]総合演習 13. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
⑦	成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験（筆記と実技）、受講状況などを総合的に勘案して決める。		
	授業外学修（準備・事後学習等）に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使っての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。		
	使用テキスト/Text to be used	実習用のテキストをmanaba上で配布予定。		
	参考書（参考資料等）/Reference Books			
	その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	質問は、manabaの掲示板で受け付ける。		

学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	共通科目（学科科目以外） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000ayo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html 大学院 https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kvoin_kamoku.pdf
授業形態の種類 ※必須	第1～13回 [講義]B.manabaでのオンデマンド型遠隔授業（manaba利用） [実習]A.課題提示の遠隔授業（manaba利用） 第14回 まとめ C.同時双方向型遠隔授業（manaba利用）

	授業科目名	基礎情報処理 S (住・経)		
	Course Title	COMPUTER LITERACY S (住・経)		
⑥	担当者名	藤田智子		
	授業コード/Registration Code	162000517	開講キャンパス/Campus	目白キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度後期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2		
③	授業の概要/Course Summary	文学部、家政学部、理学部(物質生物科学科)の1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュータリテラシーを身に付けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュータリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	遠隔講義形式を基本とし、コンピュータを操作しながら具体的にリテラシーを身に付けていく。知識の習得については、オンデマンドの講義で学び、実習については、テキストに従って課題を行う。学習に関する質疑応答は、manabaの掲示板で行う。フィードバックとして、授業最終回に授業全体に対する講評を行う。		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
④	授業計画(半期14項目、通年28項目 回数毎の内容を含む)/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理 [実習]実習環境の準備と基本操作の確認 3. [講義]情報科学概論1:コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門1:表計算の基礎 4. [講義]情報科学概論2:コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門2:表計算の参照方式 5. [講義]情報科学概論3:コンピュータのハードウェア3 [実習]データサイエンス入門3:表計算の条件分岐、論理関数 6. [講義]情報科学概論4:ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4:データのグラフ化 7. [講義]情報科学概論5:ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5:データの処理 8. [講義]情報科学概論6:マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6:データの統計処理 9. [講義]情報科学概論7:マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7:データ集計と可視化 10. [講義]情報科学概論8:コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成:Word基本文書作成 11. [講義]情報科学概論9:コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成:Word長文作成 12. [講義]情報処理の発展、[実習]総合演習 13. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
⑦	成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験(筆記と実技)、受講状況などを総合的に勘案して決める。		
	授業外学修(準備・事後学習等)に必要な時間・具体的な内容/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使っての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。		
	使用テキスト/Text to be used	実習用のテキストをmanaba上で配布予定。		
	参考書(参考資料等)/Reference Books			
	その他(受講生への要望)/Notes, Message to Students	質問は、manabaの掲示板で受け付ける。		

学位授与方針（※参照）/Diploma Policy	共通科目（学科科目以外） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000ayo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html 大学院 https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照）	「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kvoin_kamoku.pdf
授業形態の種類 ※必須	第1～13回 [講義]B.manabaでのオンデマンド型遠隔授業（manaba利用） [実習]A.課題提示の遠隔授業（manaba利用） 第14回 まとめ C.同時双方向型遠隔授業（manaba利用）

	授業科目名	基礎情報処理 T (児)		
	Course Title	COMPUTER LITERACY T (児)		
⑥	担当者名	長谷川治久		
	授業コード/Registration Code	162000518	開講キャンパス/Campus	目白キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度後期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2		
③	授業の概要/Course Summary	文学部、家政学部、理学部（物質生物科学科）の1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュータリテラシーを身に付けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュータリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	遠隔講義形式を基本とし、コンピュータを操作しながら具体的にリテラシーを身に付けていく。知識の習得については、オンデマンドの講義で学び、実習については、テキストに従って課題を行う。学習に関する質疑応答は、manabaの掲示板で行う。フィードバックとして、授業最終回に授業全体に対する講評を行う。		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
④	授業計画（半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む）/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理 [実習] 実習環境の準備と基本操作の確認 3. [講義]情報科学概論1：コンピュータのハードウェア1 [実習] データサイエンス入門1：表計算の基礎 4. [講義]情報科学概論2：コンピュータのハードウェア2 [実習] データサイエンス入門2：表計算の参照方式 5. [講義]情報科学概論3：コンピュータのハードウェア3 [実習] データサイエンス入門3：表計算の条件分岐、論理関数 6. [講義]情報科学概論4：ソフトウェア1 [実習] データサイエンス入門4：データのグラフ化 7. [講義]情報科学概論5：ソフトウェア2 [実習] データサイエンス入門5：データの処理 8. [講義]情報科学概論6：マルチメディアの情報1 [実習] データサイエンス入門6：データの統計処理 9. [講義]情報科学概論7：マルチメディアの情報2 [実習] データサイエンス入門7：データ集計と可視化 10. [講義]情報科学概論8：コンピュータネットワークとインターネット1 [実習] 文書の作成：Word基本文書作成 11. [講義]情報科学概論9：コンピュータネットワークとインターネット2 [実習] 文書の作成：Word長文作成 12. [講義]情報処理の発展、[実習]総合演習 13. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
⑦	成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験（筆記と実技）、受講状況などを総合的に勘案して決める。		
	授業外学修（準備・事後学習等）に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使っての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。		
	使用テキスト/Text to be used	実習用のテキストをmanaba上で配布予定。		
	参考書（参考資料等）/Reference Books			
	その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	質問は、manabaの掲示板で受け付ける。		

学位授与方針（※参照）/Diploma Policy	共通科目（学科科目以外） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000ayo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html 大学院 https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照）	「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kvoin_kamoku.pdf
授業形態の種類 ※必須	第1～13回 [講義]B.manabaでのオンデマンド型遠隔授業（manaba利用） [実習]A.課題提示の遠隔授業（manaba利用） 第14回 まとめ C.同時双方向型遠隔授業（manaba利用）

	授業科目名	基礎情報処理 U (被)		
	Course Title	COMPUTER LITERACY U (被)		
⑥	担当者名	中島 徹		
	授業コード/Registration Code	162000519	開講キャンパス/Campus	目白キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度後期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2		
③	授業の概要/Course Summary	文学部、家政学部、理学部（物質生物科学科）の1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュータリテラシーを身に付けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュータリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	講義形式を基本としつつ、コンピュータ演習室で操作しながら具体的にリテラシーを身に付けていく。また、一部の内容でアクティブラーニングを行う。反転授業の場合、テキストに沿って予習し、授業内では各自が課題を進める。グループワークの場合、テーマについて議論、発表を行うので、積極的に参加すること。また、学習に関するフィードバックとして、授業最終回に授業全体に対する講評を行う。		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学のコンピュータ環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
④	授業計画（半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む）/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学の情報環境、情報倫理、サイバーセキュリティ 2. 文書作成 1 : 文書の作成と編集、整形 3. 文書作成 2 : 表や図表の扱い、総合演習 4. データサイエンス入門 1 : 表計算の基礎、基本的な関数 5. データサイエンス入門 2 : 参照方式、発展的な関数 6. データサイエンス入門 3 : 条件分岐、論理的な表現 7. データサイエンス入門 4 : データのグラフ化 8. データサイエンス入門 5 : 大規模なデータのソートと抽出 9. データサイエンス入門 6 : データの統計処理 10. データサイエンス入門 7 : データの集計と可視化 11. 情報科学概論 1 : コンピュータのハードウェア、ソフトウェア、プログラム 12. 情報科学概論 2 : マルチメディア情報、インターネット 13. 情報科学概論 3 : 情報処理の発展、機械学習とディープラーニング 14. まとめ 		
⑦	成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験（筆記と実技）、受講状況などを総合的に勘案して決める。		
	授業外学修（準備・事後学習等に必要時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、最低でも授業時間と同じ程度の時間、演習室や自宅等で実際にコンピュータを使っての復習あるいは練習をしておく。課題が出された場合は次週の授業までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。		
	使用テキスト/Text to be used	実習用のテキストを配布予定。		
	参考書（参考資料等）/Reference Books			
	その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	授業時間だけでなく、コンピュータ演習室や自宅ですできるだけコンピュータに触れ、習熟しておくこと		
	学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	<p>共通科目（学科科目以外） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000ayo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください）</p>		

	https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html 大学院 https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp49000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照）	「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kyoin_kamoku.pdf
授業形態の種類 ※必須	B. オンデマンド型遠隔授業(manaba利用)

	授業科目名	基礎情報処理 W (管)		
	Course Title	COMPUTER LITERACY W (管)		
⑥	担当者名	杉岡幸次		
	授業コード/Registration Code	162000520	開講キャンパス/Campus	目白キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度後期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2		
③	授業の概要/Course Summary	文学部、家政学部、理学部（物質生物科学科）の1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット／コンピュータリテラシーを身に付けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュータリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	遠隔講義形式を基本とし、コンピュータを操作しながら具体的にリテラシーを身に付けていく。知識の習得については、オンデマンドの講義で学び、実習については、テキストに従って課題を行う。学習に関する質疑応答は、manabaの掲示板で行う。フィードバックとして、授業最終回に授業全体に対する講評を行う。		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
④	授業計画（半期14項目、通年28項目 回数毎の内容及び）/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理 [実習] 実習環境の準備と基本操作の確認 3. [講義]情報科学概論1：コンピュータのハードウェア1 [実習] データサイエンス入門1：表計算の基礎 4. [講義]情報科学概論2：コンピュータのハードウェア2 [実習] データサイエンス入門2：表計算の参照方式 5. [講義]情報科学概論3：コンピュータのハードウェア3 [実習] データサイエンス入門3：表計算の条件分岐、論理関数 6. [講義]情報科学概論4：ソフトウェア1 [実習] データサイエンス入門4：データのグラフ化 7. [講義]情報科学概論5：ソフトウェア2 [実習] データサイエンス入門5：データの処理 8. [講義]情報科学概論6：マルチメディアの情報1 [実習] データサイエンス入門6：データの統計処理 9. [講義]情報科学概論7：マルチメディアの情報2 [実習] データサイエンス入門7：データ集計と可視化 10. [講義]情報科学概論8：コンピュータネットワークとインターネット1 [実習] 文書の作成：Word基本文書作成 11. [講義]情報科学概論9：コンピュータネットワークとインターネット2 [実習] 文書の作成：Word長文作成 12. [講義]情報処理の発展、[実習]総合演習 13. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
⑦	成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験（筆記と実技）、受講状況などを総合的に勘案して決める。		
	授業外学修（準備・事後学習等）に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使っての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。		
	使用テキスト/Text to be used	実習用のテキストをmanaba上で配布予定。		
	参考書（参考資料等）/Reference Books			
	その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	質問は、manabaの掲示板で受け付ける。		

学位授与方針（※参照）/Diploma Policy	共通科目（学科科目以外） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000ayo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html 大学院 https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照）	「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kvoin_kamoku.pdf
授業形態の種類 ※必須	第1～13回 [講義]B.manabaでのオンデマンド型遠隔授業（manaba利用） [実習]A.課題提示の遠隔授業（manaba利用） 第14回 まとめ C.同時双方向型遠隔授業（manaba利用）

	授業科目名	基礎情報処理 X (日)		
	Course Title	COMPUTER LITERACY X (日)		
⑥	担当者名	倉光君郎		
	授業コード/Registration Code	162000521	開講キャンパス/Campus	目白キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度後期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2		
③	授業の概要/Course Summary	文学部、家政学部、理学部（物質生物科学科）の1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット／コンピュータリテラシーを身に付けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュータリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	遠隔講義形式を基本とし、コンピュータを操作しながら具体的にリテラシーを身に付けていく。知識の習得については、オンデマンドの講義で学び、実習については、テキストに従って課題を行う。学習に関する質疑応答は、manabaの掲示板で行う。フィードバックとして、授業最終回に授業全体に対する講評を行う。		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
④	授業計画（半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む）/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理 [実習] 実習環境の準備と基本操作の確認 3. [講義]情報科学概論1：コンピュータのハードウェア1 [実習] データサイエンス入門1：表計算の基礎 4. [講義]情報科学概論2：コンピュータのハードウェア2 [実習] データサイエンス入門2：表計算の参照方式 5. [講義]情報科学概論3：コンピュータのハードウェア3 [実習] データサイエンス入門3：表計算の条件分岐、論理関数 6. [講義]情報科学概論4：ソフトウェア1 [実習] データサイエンス入門4：データのグラフ化 7. [講義]情報科学概論5：ソフトウェア2 [実習] データサイエンス入門5：データの処理 8. [講義]情報科学概論6：マルチメディアの情報1 [実習] データサイエンス入門6：データの統計処理 9. [講義]情報科学概論7：マルチメディアの情報2 [実習] データサイエンス入門7：データ集計と可視化 10. [講義]情報科学概論8：コンピュータネットワークとインターネット1 [実習] 文書の作成：Word基本文書作成 11. [講義]情報科学概論9：コンピュータネットワークとインターネット2 [実習] 文書の作成：Word長文作成 12. [講義]情報処理の発展、[実習]総合演習 13. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
⑦	成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験（筆記と実技）、受講状況などを総合的に勘案して決める。		
	授業外学修（準備・事後学習等）に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使っての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。		
	使用テキスト/Text to be used	実習用のテキストをmanaba上で配布予定。		
	参考書（参考資料等）/Reference Books			
	その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	質問は、manabaの掲示板で受け付ける。		

学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	<p>共通科目（学科科目以外） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000ayo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf</p> <p>学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html</p> <p>大学院 https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf</p>
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	<p>「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kvoin_kamoku.pdf</p>
授業形態の種類 ※必須	<p>第1～13回 [講義]B.manabaでのオンデマンド型遠隔授業（manaba利用） [実習]A.課題提示の遠隔授業（manaba利用） 第14回 まとめ C.同時双方向型遠隔授業（manaba利用）</p>

	授業科目名	応用情報処理 A		
	Course Title	COMPUTER APPLICATIONS A		
⑥	担当者名	望月義彦		
	授業コード/Registration Code	162000601	開講キャンパス/Campus	目白キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度前期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	2年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-2-01-2		
③	授業の概要/Course Summary	<p>基礎情報処理の既修者を対象に、身近な情報とその処理の例を挙げ、その表現や扱いコンピュータのハードやソフトへの理解をさらに深める。具体的には次の四つのテーマを取り上げる。</p> <p>(1) 文字や数値情報の表現や、実験結果を解析するための基本的な統計処理を理解する。EXCELに入っているアドイン「分析ツール」を用いて、統計処理を行う方法を実習を通して学ぶ。</p> <p>(2) 画像を通して情報を明確に伝達できるように、レタッチソフトウェアの基本と、画像編集・処理の実習を行う。</p> <p>(3) 情報処理のプログラミングによる自動化の実習。変数、条件分岐、繰り返しといった基礎概念を身につける。</p> <p>(4) プレゼンテーションの必要性、および効率的な情報機器やソフトの利用方法など、プレゼンテーションを行う上で必要な知識を実習を通して学ぶ。</p>		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	<p>講義と演習を交互に繰り返しながら進める。</p> <p>PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成と発表を行う。</p> <p>授業最終回に、授業全体に対する講評を行う。</p>		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<p>(1) データ表現と情報の種類を理解し、基本的な情報処理を体系的に理解する</p> <p>(2) 基本的な情報処理プログラムを書けるようになる</p> <p>(3) プレゼンテーションではどのようなことに力点を置けば良いかを理解し身につける</p>		
④	授業計画（半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む）/Course Plan	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション（情報とは何か、処理とは何か）；ファイルと圧縮 2. 文字・数値のデータ表現、Excelによるデータ処理の基礎 3. 統計処理 (1) 基本統計量、測定値の頻度分布図（ヒストグラム） 4. 統計処理 (2) 2つの処理平均値の差の検定 (t検定) 5. 統計処理 (3) 相関と回帰 6. プログラミング入門 (1) 概要；WindowsのVBScript 7. プログラミング入門 (2) Excel VBAの基本 8. プログラミング入門 (3) 制御構文（条件分岐・繰り返し） 9. 画像のデータ表現；解像度とファイルサイズ 10. ラスター画像・ベクター画像の編集と処理 11. レタッチソフトウェア 12. Powerpointによるプレゼンテーション資料の作成 13: プレゼンテーションの実践とまとめ（発表および質疑） <p>最終課題（レポート）</p>		
⑦	成績評価の方法/Methods of Evaluation	<p>期末試験は行わず、課題レポートおよび授業時間内の発表により評価する。</p> <p>課題レポート：70%</p> <p>発表および質疑：30%</p>		
	授業外学修（準備・事後学習等に必要時間・具体的な内容）/Prep&Review	授業内では技術の紹介にとどまるため、提示した資料などを参照し各自空き時間や自宅で実践すること。これらの学修に60時間以上を要する。		
	使用テキスト/Text to be used	担当者が作成したプリント資料や、参考資料を配布して用いる。		
	参考書（参考資料等）/Reference Books			
	その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	演習はWindowsパソコンを想定しているため、Macやタブレットなどでの受講は避けること。		
	学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	<p>共通科目（学科科目以外） https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000avo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf</p> <p>学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html</p>		

	大学院 https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp49000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照）	「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kyoin_kamoku.pdf
授業形態の種類 ※必須	1～13回すべてC同時双方向型遠隔授業（資料配布はmanaba, 授業はzoomを利用）を予定

	授業科目名	応用情報処理 B		
	Course Title	COMPUTER APPLICATIONS B		
⑥	担当者名	横田裕介		
	授業コード/Registration Code	162000702	開講キャンパス/Campus	目白キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度後期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	2年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-2-01-2		
③	授業の概要/Course Summary	<p>基礎情報処理の既修者を対象とし、より高度なコンピュータの利用法について学ぶ。具体的には、次の三つのテーマを取り上げる。</p> <p>(1) プレゼンテーションの必要性、および効率的な情報機器やソフトの利用法など、プレゼンテーションを行う上で必要な知識を実習を通して学ぶ。PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成と発表を行う。</p> <p>(2) Processing言語を用いてプログラミングの基礎を学ぶ。変数、条件分岐、繰り返しといったプログラミングの基礎概念を身につける。また、グラフィクスの描画と外部入力機器を用いたユーザインタラクションについて学ぶ。最終課題としてグラフィクスとユーザインタラクションを取り入れたプログラムを作成する。</p> <p>(3) Webコンテンツを記述するために用いられるマークアップ言語であるHTML5の基礎を学び、簡単なWebコンテンツの作成を行う。関連技術であるCSSやJavaScriptについても取り上げる。</p>		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	<p>授業は通常の講義形式と実習形式を組み合わせる。</p> <p>授業中に発表を行う課題についてはその場で議論および講評を行う。</p> <p>実習を行うため、WindowsまたはmacOSがインストールされたノートPCまたはデスクトップPCを用意しておくこと。</p>		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<p>到達目標</p> <p>(1) プレゼンテーションではどのようなことに力点を置けばよいかを理解し身につける</p> <p>(2) PowerPointを用いてプレゼンテーション資料を作成できる</p> <p>(3) プログラミング言語を用いて基本的なインタラクティブ性のあるプログラムを書くことができる</p> <p>(4) HTMLおよび関連技術を用いて基本的なWebコンテンツを作成できる</p>		
④	授業計画(半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む) /Course Plan	<p>受講生の理解度を見て若干変更する可能性があるが、概ね以下の内容で授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション、プレゼンテーションについて的一般論 2. PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成法(基本技術の学習) 3. 具体的なプレゼンテーション資料の作成 4. プレゼンテーションの実践(課題発表) 5. Processingプログラミング(1): 開発環境の使い方、プログラムの書き方 6. Processingプログラミング(2): グラフィクスの基本(点、線、多角形、円、円弧、曲線、色)、コメント文 7. Processingプログラミング(3): 図形の性質、描画モード、色、変数、システム変数、データ型、計算、プログラムの基本構成要素、繰り返し処理(for文、while文)、関係演算子、乱数 8. Processingプログラミング(4): 二重ループ、setup()とdraw()、マウス操作 9. Processingプログラミング(5): 条件と分岐(if文、switch文)、キーボード操作、文字の表示、map()関数、座標系の移動・回転・伸縮、画像の表示、出力結果の保存(画像ファイル、PDFファイル) 10. Processingプログラミング(6): 配列、関数、ユーザインタラクション、応用プログラムの作成 11. Processingプログラミング(7): 応用プログラムの発表 12. HTML文書の書き方の基本、画像の扱い、ハイパーリンクの設定、表の作成、スタイルシート 13. HTML文書内でのJavaScriptの利用、イベントハンドラ、入力フォームの作成、FTPサーバへのアップロード、HTMLコンテンツ作成 14. HTMLコンテンツ作成と発表 		
⑦	成績評価の方法/Methods of Evaluation	<p>期末試験は行わず、毎回の提出課題の成績で評価する。なお、三つのテーマそれぞれにおける最終課題については通常時の課題より重みを大きくする。それぞれの最終課題は、成果物の提出と発表から構成される。</p>		
	授業外学修(準備・事後学習等に必要時間・具体的な内容) /Prep&Review	<p>基本的な技術は授業時間中に教えるが、実際の応用や実践、課題制作は授業時間だけでは不足するため、各自で授業時間外に行うこと。</p> <p>予習として、配布資料にあらかじめ目を通しておき、どのような実習を行うのかをあらかじめ理解しておくこと。</p> <p>課題が出された場合は次週の授業までに十分な時間をかけて仕上げるよう努力すること。</p> <p>特にプログラミングに関しては、授業時間中の実習だけで十分に理解することは困難なので、予習に加え復習として作成したプログラムの意味をしっかりと理解すること。</p> <p>以上の予習、復習、課題作成に計60時間以上を要する。</p>		
	使用テキスト/Text to be used	<p>担当者が作成したプリント資料や、参考資料を配布して用いる。</p>		

<p>参考書（参考資料等）/Reference Books</p>	<p>プレゼンテーション一般： [1] 野公樹, 研究発表のためのスライドデザイン, 講談社ブルーバックス, ISBN : 978-4-06-257813-4, URL: http://bookclub.kodansha.co.jp/product_isbn_9784062578134</p> <p>HTML & CSS: [2] 史, 藤本 著, HTML5 & CSS3ポケットリファレンス 改訂新版, 技術評論社, ISBN 978-4-7741-9610-7, URL: http://gihyo.jp/book/2018/978-4-7741-9610-7</p> <p>JavaScript: [3] 株式会社アଙ୍କ 著, JavaScript 第4版 [HTML5対応], 社, ISBN 9784798131603, URL: http://www.shoeisha.co.jp/book/detail/9784798131603 [4] David Flanagan 著, 上列, JavaScript 第6版, オライリージャパン, ISBN: 978-4-87311-573-3, URL: https://www.oreilly.co.jp/books/9784873115733/ [5] David Flanagan 著, 上列, JavaScriptリファレンス 第6版, オライリージャパン, ISBN: 978-4-87311-553-5, URL: https://www.oreilly.co.jp/books/9784873115535/ [6] Ethan Brown 著, 広幸, るみ, 初めてのJavaScript 第3版 ES2015以降の最新ウェブ開発, オライリージャパン, ISBN: 978-4-87311-783-6, URL: https://www.oreilly.co.jp/books/9784873117836/</p> <p>Processing (プログラミング言語) : [7] Casey Reas, Ben Fry 著 / 田, Processingをはじめよう 第2版, オライリー・ジャパン, ISBN 978-4-87311-773-7, URL: https://www.oreilly.co.jp/books/9784873117737/</p> <p>上記の他、適当な書籍がある場合には授業中に紹介する。</p>
<p>その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students</p>	<p>授業中の学習だけでは不十分であるので、コンピュータを実際に使いながら復習することを心がけてほしい。特にプログラミングについては、実際に手を動かしてプログラムを作成して試みるのが不可欠である。</p>
<p>学位授与方針（※参照）/Diploma Policy</p>	<p>共通科目（学科科目以外） https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000avo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf</p> <p>学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html</p> <p>大学院 https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf</p>
<p>「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照）</p>	<p>「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.iwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kyoin_kamoku.pdf</p>
<p>授業形態の種類 ※必須</p>	<p>C. 同時双方向型遠隔授業 (manaba, Zoom は Microsoft Teams 等利用) (注)</p> <p>注: Microsoft Teamsを用いた同時双方向型遠隔授業として実施する予定です。ただし、実習を中心として行う回では、「B方式」のオンデマンド方式を使用する可能性があります。あらかじめ用意した講義動画を各自で視聴してもらい、教員は授業時間中はMicrosoft Teamsを用いた実習サポートに集中するという形式です。</p>

	授業科目名	基礎情報処理 A		
	Course Title	COMPUTER LITERACY A		
	サブタイトル (任意)	パソコンの基礎・基本		
⑥	担当者名	久東光代		
	授業コード/Registration Code	134015301	開講キャンパス/Campus	西生田キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度前期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-D4-4-1-01-2		
③	授業の概要/Course Summary	<p>できるだけ多くの学生の皆さんが、学業や就職活動、将来の社会生活に必須の情報関連の知識と技能、情報活用能力を学べるよう、今年度も1年次の全学生の履修を推奨する。また、2021年4月より、全学年が目白キャンパスへ一斉移転することに伴い、カリキュラムの変更が予想されるため、この授業の履修を希望する2年次以上の学生も、今年度履修することが望ましい。</p> <p>授業では、まず、情報処理の基礎知識とインターネット社会を安全に生きるためのWebやメールの活用および情報倫理とセキュリティ、学業や将来の社会生活に必要な文書作成・表現技能の基本を習得する。</p> <p>次に、データサイエンスについて理解するために、表計算ツールを活用して、各種データの収集、効果的な集計・分析と結果を読み取るための統計の基礎、グラフ化など適切な表現について実習主体で学修する。</p> <p>さらに、昨今の情報化社会の進展に対応するため、小型ロボットを用いた初歩的なプログラミングの体験を通して、人工知能(Artificial Intelligence, A.I.)とは何かについて触れる。</p> <p>以上を通して、現実場面で情報のより良い表現・伝達に有効な情報技術およびデータを適切に分析・活用する力、問題解決力を身に着けるとともに、最新トピックスであるデータサイエンスおよび人工知能について理解を着実に深めてほしい。また、在学中に、情報関連の資格試験 (MOS試験、ITパスポート試験など) に、ぜひ、チャレンジしてほしい。</p> <p>なお、授業実施教室のコンピューター演習室1はPCの台数(45台)が限られており、前後期14科目とも、前期授業開始前の所定の期間に方法で履修希望の曜日時限の申込作業が必要である。詳細は、履修ガイダンス時に配布される「履修のしかた」のプリント、学務課掲示板、および情報関連授業のWeb http://mcn-www.jwu.ac.jp/~info-edu/ などに掲載されている内容をよく読んで確認すること。</p>		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	<p>自宅学習主体の遠隔型の授業のため、主に、manabaというWeb上でアクセスするLMS (学習管理システム Learning Management System) を活用します。初心者のみならずでも分かり易いよう状況を見ながら丁寧に説明したり質問対応しながら授業を進めていきます。まず、manabaが使えるパソコンおよびネット環境を整えてください。必要があれば、オンラインで利用できる他のシステムも活用しますが、その場合は授業の中で方法などを説明します。</p>		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<p>(1)情報機器 (ハードウェア) およびソフトウェアの仕組み、情報処理の基礎概念を説明できる。</p> <p>(2)文書の作成・編集法を習得し、レポートやポスターなどの文書を円滑により良く作成できる。</p> <p>(3)インターネットの特性や情報倫理、セキュリティについて理解し、安全に効率よく情報検索や情報発信を実行できる。</p> <p>(4)表計算ツールを活用して、適切にデータの収集・分析、グラフ作成、データベース操作が実行できる。</p> <p>(5)日常のさまざまな課題解決に情報技術を活用できる見方・考え方と問題解決力を身に着ける。</p> <p>(6)情報化社会の進展に対応し、データサイエンスや人工知能などの基本概念について説明できる。</p>		
④	授業計画 (半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む) /Course Plan	<p>※「授業の方法」にあるようにmanabaを活用して遠隔型で授業を進めます。</p> <p>※ここにある授業計画は、当初の対面型を想定して立てた計画です。今回、この計画に変更が生じる可能性があります。manaba上で、その都度、伝達します。</p> <p>※授業を行う大学のコンピューター演習室のパソコンは、OSがWindows10で、Office2016 (Word,Excel,PowerPoint) が搭載されているため、前期の遠隔授業でもこの環境に準拠して進めていきます。</p> <p>1.大学の情報環境の理解と機器の基本操作、ネットの活用 (Web、メール) と情報倫理、セキュリティ</p> <p>2.文書作成の基礎(1)-レイアウトの設定、編集と整形、自己アピール文作成-</p> <p>3.文書作成の基礎(2)-図表の挿入、イベント企画と告知文 (ポスター) 作成-</p> <p>4.文書作成の応用-総合課題、学業に役立つレポート作成-</p> <p>5.情報科学基礎-コンピューターによる情報処理、ハードウェアとソフトウェア-</p> <p>6.表計算の基本(1)-表の作成・編集とグラフ作成、計算式と基本的な関数(SUM,AVERAGE)-</p> <p>7.表計算の基本(2)-式のコピーと相対・絶対セル番地参照、よく使う関数①(IF、RANK.EQ、COUNTIF)-</p> <p>8.表計算の基本(3)-よく使う関数②(VLOOKUP、SUMIF、文字列関数など)-</p> <p>9.データサイエンス入門(1)-データサイエンスとは何か?データの収集と統計処理-</p> <p>10.データサイエンス入門(2)-表計算を活用したデータの分析・表現-</p> <p>11.データサイエンス入門(3)-データベースの活用、並べ替え・抽出-</p> <p>12.人工知能とは何か?-ロボホンによるプログラミング体験を通して考える①-</p> <p>13.人工知能とは何か?-ロボホンによるプログラミング体験を通して考える②-</p> <p>14.まとめ</p> <p>※なお、この科目は前期8クラス (A-H)、後期6クラス (I-N) の計14コマ開講しているが、内容は同一である。ただし、課題と配布教材、指導の順序は、担当教員によって、多少異なる場合がある。</p>		

⑦

成績評価の方法/Methods of Evaluation	演習課題の提出・実施状況、小テストや実技課題、レポートの得点などで総合的に評価し、全体の60%以上達成を合格ラインとする。
授業外学修（準備・事後学習等）に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	準備学修としては、教科書や配布資料をしっかりと読み、授業内容の目的や達成目標をよく理解すること。また、事後学修としては、授業で出題された教科書や配布資料にある課題を必ず実施し指定された期日に提出すること。また、タッチタイピングの速度が1分間で日本語文字100文字以下の人は練習ソフトで練習すること。
使用テキスト/Text to be used	(1)教科書「30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016」実教出版 1,238円＋税 ※生協で購入すること。 (2)随時配布する教材プリント (3)情報関連授業専用Web http://mcn-www.iwju.ac.jp/~info-edu/ と各担当者別Web
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業中に、適宜、紹介する。
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	【履修のしかた】 ▲重要▲履修希望者は、下記をよく読むこと。 この科目は、前期8コマ（遠隔型授業）、後期6コマ（対面型授業を予定）とも、履修方法は、4月13日（月）より、JASMINE-Naviか各学科のmanabaのオリエンテーション・ガイダンスの画面の「履修のしかた」の資料をよく読み、希望する曜日時限を選択して、所定の履修登録期間に、必ず履修登録してください。なお、2年生以上のみなさんは、以上のように、昨年度までと方法が異なりますので、注意してください。 なお、みなさんが履修登録した後、履修希望者が定員（46名）を超えたクラスは、2年生以上を優先して抽選により履修者を決定します。なお、この時点で履修に漏れた場合は、その後の履修登録訂正期間で、空きクラスに再登録することができます。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	共通科目（学科科目以外） https://unv.iwju.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000ayo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.iwju.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html 大学院 https://unv.iwju.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.iwju.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kyoin_kamoku.pdf
授業形態の種類 ※必須	B

	授業科目名	基礎情報処理 B		
	Course Title	COMPUTER LITERACY B		
	サブタイトル (任意)	パソコンの基礎・基本		
⑥	担当者名	久東光代		
	授業コード/Registration Code	134015302	開講キャンパス/Campus	西生田キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度前期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-D4-4-1-01-2		
③	授業の概要/Course Summary	<p>できるだけ多くの学生の皆さんが、学業や就職活動、将来の社会生活に必須の情報関連の知識と技能、情報活用能力を学べるよう、今年度も1年次の全学生の履修を推奨する。また、2021年4月より、全学年が目白キャンパスへ一斉移転することに伴い、カリキュラムの変更が予想されるため、この授業の履修を希望する2年次以上の学生も、今年度履修することが望ましい。</p> <p>授業では、まず、情報処理の基礎知識とインターネット社会を安全に生きるためのWebやメールの活用および情報倫理とセキュリティ、学業や将来の社会生活に必要な文書作成・表現技能の基本を習得する。</p> <p>次に、データサイエンスについて理解するために、表計算ツールを活用して、各種データの収集、効果的な集計・分析と結果を読み取るための統計の基礎、グラフ化など適切な表現について実習主体で学修する。</p> <p>さらに、昨今の情報化社会の進展に対応するため、小型ロボットを用いた初歩的なプログラミングの体験を通して、人工知能(Artificial Intelligence, A.I.)とは何かについて触れる。</p> <p>以上を通して、現実場面で情報のより良い表現・伝達に有効な情報技術およびデータを適切に分析・活用する力、問題解決力を身に着けるとともに、最新トピックスであるデータサイエンスおよび人工知能について理解を着実に深めてほしい。また、在学中に、情報関連の資格試験（MOS試験、ITパスポート試験など）に、ぜひ、チャレンジしてほしい。</p> <p>なお、授業実施教室のコンピューター演習室1はPCの台数(45台)が限られており、前後期14科目とも、前期授業開始前の所定の期間に方法で履修希望の曜日時限の申込作業が必要である。詳細は、履修ガイダンス時に配布される「履修のしかた」のプリント、学務課掲示板、および情報関連授業のWeb http://mcn-www.jwu.ac.jp/~info-edu/ などに掲載されている内容をよく読んで確認すること。</p>		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	<p>自宅学習主体の遠隔型の授業のため、主に、manabaというWeb上でアクセスするLMS（学習管理システムLearning Management System）を活用します。初心者のみならずでも分かり易い状況を見ながら丁寧に説明したり質問対応しながら授業を進めていきます。まず、manabaが使えるパソコンおよびネット環境を整えてください。必要があれば、オンラインで利用できる他のシステムも活用しますが、その場合は授業の中で方法などを説明します。</p>		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<p>(1)情報機器（ハードウェア）およびソフトウェアの仕組み、情報処理の基礎概念を説明できる。</p> <p>(2)文書の作成・編集法を習得し、レポートやポスターなどの文書を円滑により良く作成できる。</p> <p>(3)インターネットの特性や情報倫理、セキュリティについて理解し、安全に効率よく情報検索や情報発信を実行できる。</p> <p>(4)表計算ツールを活用して、適切にデータの収集・分析、グラフ作成、データベース操作が実行できる。</p> <p>(5)日常のさまざまな課題解決に情報技術を活用できる見方・考え方と問題解決力を身に着ける。</p> <p>(6)情報化社会の進展に対応し、データサイエンスや人工知能などの基本概念について説明できる。</p>		
④	授業計画（半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む）/Course Plan	<p>※「授業の方法」にあるようにmanabaを活用して遠隔型で授業を進めます。</p> <p>※ここにある授業計画は、当初の対面型を想定して立てた計画です。今回、この計画に変更が生じる可能性があります。manaba上で、その都度、伝達します。</p> <p>※授業を行う大学のコンピューター演習室のパソコンは、OSがWindows10で、Office2016（Word, Excel, PowerPoint）が搭載されているため、前期の遠隔授業でもこの環境に準拠して進めていきます。</p> <p>1.大学の情報環境の理解と機器の基本操作、ネットの活用（Web、メール）と情報倫理、セキュリティ</p> <p>2.文書作成の基礎(1)-レイアウトの設定、編集と整形、自己アピール文作成-</p> <p>3.文書作成の基礎(2)-図表の挿入、イベント企画と告知文（ポスター）作成-</p> <p>4.文書作成の応用-総合課題、学業に役立つレポート作成-</p> <p>5.情報科学基礎-コンピューターによる情報処理、ハードウェアとソフトウェア-</p> <p>6.表計算の基本(1)-表の作成・編集とグラフ作成、計算式と基本的な関数(SUM,AVERAGE)-</p> <p>7.表計算の基本(2)-式のコピーと相対・絶対セル番地参照、よく使う関数①(IF, RANK.EQ, COUNTIF)-</p> <p>8.表計算の基本(3)-よく使う関数②(VLOOKUP, SUMIF, 文字列関数など)-</p> <p>9.データサイエンス入門(1)-データサイエンスとは何か？データの収集と統計処理-</p> <p>10.データサイエンス入門(2)-表計算を活用したデータの分析・表現-</p> <p>11.データサイエンス入門(3)-データベースの活用、並べ替え・抽出-</p> <p>12.人工知能とは何か？-ロボホンによるプログラミング体験を通して考える①-</p> <p>13.人工知能とは何か？-ロボホンによるプログラミング体験を通して考える②-</p> <p>14.まとめ</p> <p>※なお、この科目は前期8クラス（A-H）、後期6クラス（I-N）の計14コマ開講しているが、内容は同一である。ただし、課題と配布教材、指導の順序は、担当教員によって、多少異なる場合がある。</p>		

⑦

成績評価の方法/Methods of Evaluation	演習課題の提出・実施状況、小テストや実技課題、レポートの得点などで総合的に評価し、全体の60%以上達成を合格ラインとする。
授業外学修（準備・事後学習等）に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	準備学修としては、教科書や配布資料をしっかりと読み、授業内容の目的や達成目標をよく理解すること。また、事後学修としては、授業で出題された教科書や配布資料にある課題を必ず実施し指定された期日に提出すること。また、タッチタイピングの速度が1分間で日本語文字100文字以下の人は練習ソフトで練習すること。
使用テキスト/Text to be used	(1)教科書「30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016」実教出版 1,238円＋税 ※生協で購入すること。 (2)随時配布する教材プリント (3)情報関連授業専用Web http://mcn-www.jwu.ac.jp/~info-edu/ と各担当者別Web
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業中に、適宜、紹介する。
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	【履修のしかた】 ▲重要▲履修希望者は、下記をよく読むこと。 この科目は、前期8コマ（遠隔型授業）、後期6コマ（対面型授業を予定）とも、履修方法は、4月13日（月）より、JASMINE-Naviが各学科のmanabaのオリエンテーション・ガイダンスの画面の「履修のしかた」の資料をよく読み、希望する曜日時限を選択して、所定の履修登録期間に、必ず履修登録してください。なお、2年生以上のみなさんは、以上のように、昨年度までと方法が異なりますので、注意してください。 なお、みなさんが履修登録した後、履修希望者が定員（46名）を超えたクラスは、2年生以上を優先して抽選により履修者を決定します。なお、この時点で履修に漏れた場合は、その後の履修登録訂正期間で、空きクラスに再登録することができます。 以上について、履修のしかたの詳細および履修許可者の決定などについては、すべて学務課から伝達される情報やお知らせをよく確認し、間違いの無いようにしてください。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	共通科目（学科科目以外） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000ayo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html 大学院 https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kyoin_kamoku.pdf
授業形態の種類 ※必須	B

	授業科目名	基礎情報処理 C		
	Course Title	COMPUTER LITERACY C		
	サブタイトル (任意)	パソコンの基礎・基本		
⑥	担当者名	星名由美		
	授業コード/Registration Code	134015303	開講キャンパス/Campus	西生田キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度前期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-D4-4-1-01-2		
③	授業の概要/Course Summary	<p>できるだけ多くの学生の皆さんが、学業や就職活動、将来の社会生活に必須の情報関連の知識と技能、情報活用能力を学べるよう、今年度も1年次の全学生の履修を推奨する。また、2021年4月より、全学年が目白キャンパスへ一斉移転することに伴い、カリキュラムの変更が予想されるため、この授業の履修を希望する2年次以上の学生も、今年度履修することが望ましい。</p> <p>授業では、まず、情報処理の基礎知識とインターネット社会を安全に生きるためのWebやメールの活用および情報倫理とセキュリティ、学業や将来の社会生活に必要な文書作成・表現技能の基本を習得する。</p> <p>次に、データサイエンスについて理解するために、表計算ツールを活用して、各種データの収集、効果的な集計・分析と結果を読み取るための統計の基礎、グラフ化など適切な表現について実習主体で学修する。</p> <p>さらに、昨今の情報化社会の進展に対応するため、小型ロボットを用いた初歩的なプログラミングの体験を通して、人工知能(Artificial Intelligence, A.I.)とは何かについて触れる。</p> <p>以上を通して、現実場面で情報のより良い表現・伝達に有効な情報技術およびデータを適切に分析・活用する力、問題解決力を身に着けるとともに、最新トピックスであるデータサイエンスおよび人工知能について理解を着実に深めてほしい。また、在学中に、情報関連の資格試験 (MOS試験、ITパスポート試験など) に、ぜひ、チャレンジしてほしい。</p> <p>なお、授業実施教室のコンピューター演習室1はPCの台数(45台)が限られており、前後期14科目とも、前期授業開始前の所定の期間に方法で履修希望の曜日時限の申込作業が必要である。詳細は、履修ガイダンス時に配布される「履修のしかた」のプリント、学務課掲示板、および情報関連授業のWeb http://mcn-www.jwu.ac.jp/~info-edu/ などに掲載されている内容をよく読んで確認すること。</p>		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	自宅学習主体の遠隔型の授業のため、主に、manabaというWeb上でアクセスするLMS (学習管理システム Learning Management System) を活用します。初心者のみならずでも分かり易い状況を見ながら丁寧に説明したり質問対応しながら授業を進めていきます。まず、manabaが使えるパソコンおよびネット環境を整えてください。必要があれば、オンラインで利用できる他のシステムも活用しますが、その場合は授業の中で方法などを説明します。		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<p>(1)情報機器 (ハードウェア) およびソフトウェアの仕組み、情報処理の基礎概念を説明できる。</p> <p>(2)文書の作成・編集法を習得し、レポートやポスターなどの文書を円滑により良く作成できる。</p> <p>(3)インターネットの特性や情報倫理、セキュリティについて理解し、安全に効率よく情報検索や情報発信を実行できる。</p> <p>(4)表計算ツールを活用して、適切にデータの収集・分析、グラフ作成、データベース操作が実行できる。</p> <p>(5)日常のさまざまな課題解決に情報技術を活用できる見方・考え方と問題解決力を身に着ける。</p> <p>(6)情報化社会の進展に対応し、データサイエンスや人工知能などの基本概念について説明できる。</p>		
④	授業計画 (半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む) /Course Plan	<p>※「授業の方法」にあるようにmanabaを活用して遠隔型で授業を進めます。</p> <p>※ここにある授業計画は、当初の対面型を想定して立てた計画です。今回、この計画に変更が生じる可能性があります。manaba上で、その都度、伝達します。</p> <p>※授業を行う大学のコンピューター演習室のパソコンは、OSがWindows10で、Office2016 (Word, Excel, PowerPoint) が搭載されているため、前期の遠隔授業でもこの環境に準拠して進めていきます。</p> <p>1.大学の情報環境の理解と機器の基本操作、ネットの活用 (Web、メール) と情報倫理、セキュリティ</p> <p>2.文書作成の基礎(1)-レイアウトの設定、編集と整形、自己アピール文作成-</p> <p>3.文書作成の基礎(2)-図表の挿入、イベント企画と告知文 (ポスター) 作成-</p> <p>4.文書作成の応用-総合課題、学業に役立つレポート作成-</p> <p>5.情報科学基礎-コンピューターによる情報処理、ハードウェアとソフトウェア-</p> <p>6.表計算の基本(1)-表の作成・編集とグラフ作成、計算式と基本的な関数(SUM,AVERAGE)-</p> <p>7.表計算の基本(2)-式のコピーと相対・絶対セル番地参照、よく使う関数①(IF, RANK.EQ, COUNTIF)-</p> <p>8.表計算の基本(3)-よく使う関数②(VLOOKUP, SUMIF, 文字列関数など)-</p> <p>9.データサイエンス入門(1)-データサイエンスとは何か?データの収集と統計処理-</p> <p>10.データサイエンス入門(2)-表計算を活用したデータの分析・表現-</p> <p>11.データサイエンス入門(3)-データベースの活用、並べ替え・抽出-</p> <p>12.人工知能とは何か?-ロボホンによるプログラミング体験を通して考える①-</p> <p>13.人工知能とは何か?-ロボホンによるプログラミング体験を通して考える②-</p> <p>14.まとめ</p> <p>※なお、この科目は前期8クラス (A-H)、後期6クラス (I-N) の計14コマ開講しているが、内容は同一である。ただし、課題と配布教材、指導の順序は、担当教員によって、多少異なる場合がある。</p>		

⑦

成績評価の方法/Methods of Evaluation	演習課題の提出・実施状況、小テストや実技課題、レポートの得点などで総合的に評価し、全体の60%以上達成を合格ラインとする。
授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	準備学修としては、教科書や配布資料をしっかりと読み、授業内容の目的や達成目標をよく理解すること。また、事後学修として、授業で出題された教科書や配布資料にある課題を必ず実施し指定された期日に提出すること。また、タッチタイピングの速度が1分間で日本語文字100文字以下の人は練習ソフトで練習すること。
使用テキスト/Text to be used	(1)教科書「30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016」実教出版 1,238円＋税 ※生協で購入すること。 (2)随時配布する教材プリント (3)情報関連授業専用Web http://mcn-www.jwu.ac.jp/~info-edu/ と各担当者別Web
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業中に、適宜、紹介する。
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	【履修のしかた】 ▲重要▲履修希望者は、下記をよく読むこと。 この科目は、前期8コマ（遠隔型授業）、後期6コマ（対面型授業を予定）とも、履修方法は、4月13日（月）より、JASMINE-Naviか各学科のmanabaのオリエンテーション・ガイダンスの画面の「履修のしかた」の資料をよく読み、希望する曜日時限を選択して、所定の履修登録期間に、必ず履修登録してください。なお、2年生以上のみなさんは、以上のように、昨年度までと方法が異なりますので、注意してください。 なお、みなさんが履修登録した後、履修希望者が定員（46名）を超えたクラスは、2年生以上を優先して抽選により履修者を決定します。なお、この時点で履修に漏れた場合は、その後の履修登録訂正期間で、空きクラスに再登録することができます。 以上について、履修のしかたの詳細および履修許可者の決定などについては、すべて学務課から伝達される情報やお知らせをよく確認し、間違いの無いようにしてください。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	共通科目（学科科目以外） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000ayo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html 大学院 https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kyoin_kamoku.pdf
授業形態の種類 ※必須	B

	授業科目名	基礎情報処理 D		
	Course Title	COMPUTER LITERACY D		
	サブタイトル (任意)	パソコンの基礎・基本		
⑥	担当者名	星名由美		
	授業コード/Registration Code	134015304	開講キャンパス/Campus	西生田キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度前期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-D4-4-1-01-2		
③	授業の概要/Course Summary	<p>できるだけ多くの学生の皆さんが、学業や就職活動、将来の社会生活に必須の情報関連の知識と技能、情報活用能力を学べるよう、今年度も1年次の全学生の履修を推奨する。また、2021年4月より、全学年が目白キャンパスへ一斉移転することに伴い、カリキュラムの変更が予想されるため、この授業の履修を希望する2年次以上の学生も、今年度履修することが望ましい。</p> <p>授業では、まず、情報処理の基礎知識とインターネット社会を安全に生きるためのWebやメールの活用法および情報倫理とセキュリティ、学業や将来の社会生活に必要な文書作成・表現技能の基本を習得する。</p> <p>次に、データサイエンスについて理解するために、表計算ツールを活用して、各種データの収集、効果的な集計・分析と結果を読み取るための統計の基礎、グラフ化など適切な表現について実習主体で学修する。</p> <p>さらに、昨今の情報化社会の進展に対応するため、小型ロボットを用いた初歩的なプログラミングの体験を通して、人工知能(Artificial Intelligence, A.I.)とは何かについて触れる。</p> <p>以上を通して、現実場面で情報のより良い表現・伝達に有効な情報技術およびデータを適切に分析・活用する力、問題解決力を身に着けるとともに、最新トピックスであるデータサイエンスおよび人工知能について理解を着実に深めてほしい。また、在学中に、情報関連の資格試験 (MOS試験、ITパスポート試験など) に、ぜひ、チャレンジしてほしい。</p> <p>なお、授業実施教室のコンピューター演習室1はPCの台数(45台)が限られており、前後期14科目とも、前期授業開始前の所定の期間に方法で履修希望の曜日時限の申込作業が必要である。詳細は、履修ガイダンス時に配布される「履修のしかた」のプリント、学務課掲示板、および情報関連授業のWeb http://mcn-www.jwu.ac.jp/~info-edu/ などに掲載されている内容をよく読んで確認すること。</p>		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	自宅学習主体の遠隔型の授業のため、主に、manabaというWeb上でアクセスするLMS (学習管理システム Learning Management System) を活用します。初心者のみならずでも分かり易い状況を見ながら丁寧に説明したり質問対応しながら授業を進めていきます。まず、manabaが使えるパソコンおよびネット環境を整えてください。必要があれば、オンラインで利用できる他のシステムも活用しますが、その場合は授業の中で方法などを説明します。		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<p>(1)情報機器 (ハードウェア) およびソフトウェアの仕組み、情報処理の基礎概念を説明できる。</p> <p>(2)文書の作成・編集法を習得し、レポートやポスターなどの文書を円滑により良く作成できる。</p> <p>(3)インターネットの特性や情報倫理、セキュリティについて理解し、安全に効率よく情報検索や情報発信を実行できる。</p> <p>(4)表計算ツールを活用して、適切にデータの収集・分析、グラフ作成、データベース操作が実行できる。</p> <p>(5)日常のさまざまな課題解決に情報技術を活用できる見方・考え方と問題解決力を身に着ける。</p> <p>(6)情報化社会の進展に対応し、データサイエンスや人工知能などの基本概念について説明できる。</p>		
④	授業計画 (半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む) /Course Plan	<p>※「授業の方法」にあるようにmanabaを活用して遠隔型で授業を進めます。</p> <p>※ここにある授業計画は、当初の対面型を想定して立てた計画です。今回、この計画に変更が生じる可能性があります。manaba上で、その都度、伝達します。</p> <p>※授業を行う大学のコンピューター演習室のパソコンは、OSがWindows10で、Office2016 (Word, Excel, PowerPoint) が搭載されているため、前期の遠隔授業でもこの環境に準拠して進めていきます。</p> <p>1.大学の情報環境の理解と機器の基本操作、ネットの活用 (Web、メール) と情報倫理、セキュリティ</p> <p>2.文書作成の基礎(1)-レイアウトの設定、編集と整形、自己アピール文作成-</p> <p>3.文書作成の基礎(2)-図表の挿入、イベント企画と告知文 (ポスター) 作成-</p> <p>4.文書作成の応用-総合課題、学業に役立つレポート作成-</p> <p>5.情報科学基礎-コンピューターによる情報処理、ハードウェアとソフトウェア-</p> <p>6.表計算の基本(1)-表の作成・編集とグラフ作成、計算式と基本的な関数(SUM,AVERAGE)-</p> <p>7.表計算の基本(2)-式のコピーと相対・絶対セル番地参照、よく使う関数①(IF, RANK.EQ, COUNTIF)-</p> <p>8.表計算の基本(3)-よく使う関数②(VLOOKUP, SUMIF, 文字列関数など)-</p> <p>9.データサイエンス入門(1)-データサイエンスとは何か?データの収集と統計処理-</p> <p>10.データサイエンス入門(2)-表計算を活用したデータの分析・表現-</p> <p>11.データサイエンス入門(3)-データベースの活用、並べ替え・抽出-</p> <p>12.人工知能とは何か?-ロボホンによるプログラミング体験を通して考える①-</p> <p>13.人工知能とは何か?-ロボホンによるプログラミング体験を通して考える②-</p> <p>14.まとめ</p> <p>※なお、この科目は前期8クラス (A-H)、後期6クラス (I-N) の計14コマ開講しているが、内容は同一である。ただし、課題と配布教材、指導の順序は、担当教員によって、多少異なる場合がある。</p>		

⑦

成績評価の方法/Methods of Evaluation	演習課題の提出・実施状況、小テストや実技課題、レポートの得点などで総合的に評価し、全体の60%以上達成を合格ラインとする。
授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	準備学修としては、教科書や配布資料をしっかりと読み、授業内容の目的や達成目標をよく理解すること。また、事後学修として、授業で出題された教科書や配布資料にある課題を必ず実施し指定された期日に提出すること。また、タッチタイピングの速度が1分間で日本語文字100文字以下の人は練習ソフトで練習すること。
使用テキスト/Text to be used	(1)教科書「30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016」実教出版 1,238円＋税 ※生協で購入すること。 (2)随時配布する教材プリント (3)情報関連授業専用Web http://mcn-www.jwu.ac.jp/~info-edu/ と各担当者別Web
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業中に、適宜、紹介する。
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	【履修のしかた】 ▲重要▲履修希望者は、下記をよく読むこと。 この科目は、前期8コマ（遠隔型授業）、後期6コマ（対面型授業を予定）とも、履修方法は、4月13日（月）より、JASMINE-Naviか各学科のmanabaのオリエンテーション・ガイダンスの画面の「履修のしかた」の資料をよく読み、希望する曜日時限を選択して、所定の履修登録期間に、必ず履修登録してください。なお、2年生以上のみなさんは、以上のように、昨年度までと方法が異なりますので、注意してください。 なお、みなさんが履修登録した後、履修希望者が定員（46名）を超えたクラスは、2年生以上を優先して抽選により履修者を決定します。なお、この時点で履修に漏れた場合は、その後の履修登録訂正期間で、空きクラスに再登録することができます。 以上について、履修のしかたの詳細および履修許可者の決定などについては、すべて学務課から伝達される情報やお知らせをよく確認し、間違いの無いようにしてください。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	共通科目（学科科目以外） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000ayo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html 大学院 https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kyoin_kamoku.pdf
授業形態の種類 ※必須	B

	授業科目名	基礎情報処理 E		
	Course Title	COMPUTER LITERACY E		
	サブタイトル (任意)	パソコンの基礎・基本		
⑥	担当者名	佐藤夏月		
	授業コード/Registration Code	134015305	開講キャンパス/Campus	西生田キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度前期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-D4-4-1-01-2		
③	授業の概要/Course Summary	<p>できるだけ多くの学生の皆さんが、学業や就職活動、将来の社会生活に必須の情報関連の知識と技能、情報活用能力を学べるよう、今年度も1年次の全学生の履修を推奨する。また、2021年4月より、全学年が目白キャンパスへ一斉移転することに伴い、カリキュラムの変更が予想されるため、この授業の履修を希望する2年次以上の学生も、今年度履修することが望ましい。</p> <p>授業では、まず、情報処理の基礎知識とインターネット社会を安全に生きるためのWebやメールの活用法および情報倫理とセキュリティ、学業や将来の社会生活に必要な文書作成・表現技能の基本を習得する。</p> <p>次に、データサイエンスについて理解するために、表計算ツールを活用して、各種データの収集、効果的な集計・分析と結果を読み取るための統計の基礎、グラフ化など適切な表現について実習主体で学修する。</p> <p>さらに、昨今の情報化社会の進展に対応するため、小型ロボットを用いた初歩的なプログラミングの体験を通して、人工知能(Artificial Intelligence, A.I.)とは何かについて触れる。</p> <p>以上を通して、現実場面で情報のより良い表現・伝達に有効な情報技術およびデータを適切に分析・活用する力、問題解決力を身に着けるとともに、最新トピックスであるデータサイエンスおよび人工知能について理解を確実に深めてほしい。また、在学中に、情報関連の資格試験 (MOS試験、ITパスポート試験など) に、ぜひ、チャレンジしてほしい。</p> <p>なお、授業実施教室のコンピューター演習室1はPCの台数(45台)が限られており、前後期14科目とも、前期授業開始前の所定の期間に方法で履修希望の曜日時限の申込作業が必要である。詳細は、履修ガイダンス時に配布される「履修のしかた」のプリント、学務課掲示板、および情報関連授業のWeb http://mcn-www.jwu.ac.jp/~info-edu/ などに掲載されている内容をよく読んで確認すること。</p>		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	<p>自宅学習主体の遠隔型の授業のため、主に、manabaというWeb上でアクセスするLMS (学習管理システム Learning Management System) を活用します。初心者のみならずでも分かり易いよう状況を見ながら丁寧に説明したり質問対応しながら授業を進めていきます。まず、manabaが使えるパソコンおよびネット環境を整えてください。必要があれば、オンラインで利用できる他のシステムも活用しますが、その場合は授業の中で方法などを説明します。</p>		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<p>(1)情報機器 (ハードウェア) およびソフトウェアの仕組み、情報処理の基礎概念を説明できる。</p> <p>(2)文書の作成・編集法を習得し、レポートやポスターなどの文書を円滑により良く作成できる。</p> <p>(3)インターネットの特性や情報倫理、セキュリティについて理解し、安全に効率よく情報検索や情報発信を実行できる。</p> <p>(4)表計算ツールを活用して、適切にデータの収集・分析、グラフ作成、データベース操作が実行できる。</p> <p>(5)日常のさまざまな課題解決に情報技術を活用できる見方・考え方と問題解決力を身に着ける。</p> <p>(6)情報化社会の進展に対応し、データサイエンスや人工知能などの基本概念について説明できる。</p>		
④	授業計画 (半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む) /Course Plan	<p>・「授業の方法」にあるようにmanabaを活用して遠隔型で授業を進めます。</p> <p>・ここにある授業計画は、当初の対面型を想定して立てた計画です。今回、この計画に変更が生じる可能性があります。manaba上で、その都度、伝達します。</p> <p>1.大学の情報環境の理解と機器の基本操作、ネットの活用 (Web、メール) と情報倫理、セキュリティ</p> <p>2.文書作成の基礎(1)-レイアウトの設定、編集と整形、自己アピール文作成-</p> <p>3.文書作成の基礎(2)-図表の挿入、イベント企画と告知文 (ポスター) 作成-</p> <p>4.文書作成の応用-総合課題、学業に役立つレポート作成-</p> <p>5.情報科学基礎-コンピューターによる情報処理、ハードウェアとソフトウェア-</p> <p>6.表計算の基本(1)-表の作成・編集とグラフ作成、計算式と基本的な関数(SUM,AVERAGE)-</p> <p>7.表計算の基本(2)-式のコピーと相対・絶対セル番地参照、よく使う関数①(IF、RANK.EQ、COUNTIF)-</p> <p>8.表計算の基本(3)-よく使う関数②(VLOOKUP、SUMIF、文字列関数など)-</p> <p>9.データサイエンス入門(1)-データサイエンスとは何か?データの収集と統計処理-</p> <p>10.データサイエンス入門(2)-表計算を活用したデータの分析・表現-</p> <p>11.データサイエンス入門(3)-データベースの活用、並べ替え・抽出-</p> <p>12.人工知能とは何か?-ロボホンによるプログラミング体験を通して考える①-</p> <p>13.人工知能とは何か?-ロボホンによるプログラミング体験を通して考える②-</p> <p>14.まとめ</p> <p>※なお、この科目は前期8クラス (A-H)、後期6クラス (I-N) の計14コマ開講しているが、内容は同一である。ただし、課題と配布教材、指導の順序は、担当教員によって、多少異なる場合がある。</p>		

⑦

成績評価の方法/Methods of Evaluation	演習課題の提出・実施状況、小テストや実技課題、レポートの得点などで総合的に評価し、全体の60%以上達成を合格ラインとする。
授業外学修（準備・事後学習等）に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	準備学修としては、教科書や配布資料をしっかりと読み、授業内容の目的や達成目標をよく理解すること。また、事後学修としては、授業で出題された教科書や配布資料にある課題を必ず実施し指定された期日に提出すること。また、タッチタイピングの速度が1分間で日本語文字100文字以下の人は練習ソフトで練習すること。
使用テキスト/Text to be used	(1)教科書「30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016」実教出版 1,238円＋税 ※生協で購入すること。 (2)随時配布する教材プリント (3)情報関連授業専用Web http://mcn-www.iwju.ac.jp/~info-edu/ と各担当者別Web
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業中に、適宜、紹介する。
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	【履修のしかた】 ▲重要▲履修希望者は、下記をよく読むこと。 この科目は、前期8コマ（遠隔型授業）、後期6コマ（対面型授業を予定）とも、履修方法は、4月13日（月）より、JASMINE-Naviか各学科のmanabaのオリエンテーション・ガイダンスの画面の「履修のしかた」の資料をよく読み、希望する曜日時限を選択して、所定の履修登録期間に、必ず履修登録してください。なお、2年生以上のみなさんは、以上のように、昨年度までと方法が異なりますので、注意してください。 なお、みなさんが履修登録した後、履修希望者が定員（46名）を超えたクラスは、2年生以上を優先して抽選により履修者を決定します。なお、この時点で履修に漏れた場合は、その後の履修登録訂正期間で、空きクラスに再登録することができます。 以上について、履修のしかたの詳細および履修許可者の決定などについては、すべて学務課から伝達される情報やお知らせをよく確認し、間違いの無いようにしてください。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	共通科目（学科科目以外） https://unv.iwju.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000avo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.iwju.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html 大学院 https://unv.iwju.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.iwju.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kyoin_kamoku.pdf
授業形態の種類 ※必須	B

	授業科目名	基礎情報処理 F		
	Course Title	COMPUTER LITERACY F		
	サブタイトル (任意)	パソコンの基礎・基本		
⑥	担当者名	佐藤夏月		
	授業コード/Registration Code	134015306	開講キャンパス/Campus	西生田キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度前期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-D4-4-1-01-2		
③	授業の概要/Course Summary	<p>できるだけ多くの学生の皆さんが、学業や就職活動、将来の社会生活に必須の情報関連の知識と技能、情報活用能力を学べるよう、今年度も1年次の全学生の履修を推奨する。また、2021年4月より、全学年が目白キャンパスへ一斉移転することに伴い、カリキュラムの変更が予想されるため、この授業の履修を希望する2年次以上の学生も、今年度履修することが望ましい。</p> <p>授業では、まず、情報処理の基礎知識とインターネット社会を安全に生きるためのWebやメールの活用法および情報倫理とセキュリティ、学業や将来の社会生活に必要な文書作成・表現技能の基本を習得する。</p> <p>次に、データサイエンスについて理解するために、表計算ツールを活用して、各種データの収集、効果的な集計・分析と結果を読み取るための統計の基礎、グラフ化など適切な表現について実習主体で学ぶ。</p> <p>さらに、昨今の情報化社会の進展に対応するため、小型ロボットを用いた初歩的なプログラミングの体験を通して、人工知能(Artificial Intelligence, A.I.)とは何かについて触れる。</p> <p>以上を通して、現実場面で情報のより良い表現・伝達に有効な情報技術およびデータを適切に分析・活用する力、問題解決力を身に付けるとともに、最新トピックスであるデータサイエンスおよび人工知能について理解を確実に深めてほしい。また、在学中に、情報関連の資格試験 (MOS試験、ITパスポート試験など) に、ぜひ、チャレンジしてほしい。</p> <p>なお、授業実施教室のコンピューター演習室1はPCの台数(45台)が限られており、前後期14科目とも、前期授業開始前の所定の期間に方法で履修希望の曜日時限の申込作業が必要である。詳細は、履修ガイダンス時に配布される「履修のしかた」のプリント、学務課掲示板、および情報関連授業のWeb http://mcn-www.jwu.ac.jp/~info-edu/ などに掲載されている内容をよく読んで確認すること。</p>		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	自宅学習主体の遠隔型の授業のため、主に、manabaというWeb上でアクセスするLMS (学習管理システム Learning Management System) を活用します。初心者のみならず、初級者でも分かり易いよう状況を見ながら丁寧に説明したり質問対応しながら授業を進めていきます。まず、manabaが使えるパソコンおよびネット環境を整えてください。必要があれば、オンラインで利用できる他のシステムも活用しますが、その場合は授業の中で方法などを説明します。		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<p>(1)情報機器 (ハードウェア) およびソフトウェアの仕組み、情報処理の基礎概念を説明できる。</p> <p>(2)文書の作成・編集法を習得し、レポートやポスターなどの文書を円滑により良く作成できる。</p> <p>(3)インターネットの特性や情報倫理、セキュリティについて理解し、安全に効率よく情報検索や情報発信を実行できる。</p> <p>(4)表計算ツールを活用して、適切にデータの収集・分析、グラフ作成、データベース操作が実行できる。</p> <p>(5)日常のさまざまな課題解決に情報技術を活用できる見方・考え方と問題解決力を身に付ける。</p> <p>(6)情報化社会の進展に対応し、データサイエンスや人工知能などの基本概念について説明できる。</p>		
④	授業計画 (半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む) /Course Plan	<p>・「授業の方法」にあるようにmanabaを活用して遠隔型で授業を進めます。</p> <p>・ここにある授業計画は、当初の対面型を想定して立てた計画です。今回、この計画に変更が生じる可能性があります。manaba上で、その都度、伝達します。</p> <p>1.大学の情報環境の理解と機器の基本操作、ネットの活用 (Web、メール) と情報倫理、セキュリティ</p> <p>2.文書作成の基礎(1)-レイアウトの設定、編集と整形、自己アピール文作成-</p> <p>3.文書作成の基礎(2)-図表の挿入、イベント企画と告知文 (ポスター) 作成-</p> <p>4.文書作成の応用-総合課題、学業に役立つレポート作成-</p> <p>5.情報科学基礎-コンピューターによる情報処理、ハードウェアとソフトウェア-</p> <p>6.表計算の基本(1)-表の作成・編集とグラフ作成、計算式と基本的な関数(SUM,AVERAGE)-</p> <p>7.表計算の基本(2)-式のコピーと相対・絶対セル番地参照、よく使う関数①(IF、RANK.EQ、COUNTIF)-</p> <p>8.表計算の基本(3)-よく使う関数②(VLOOKUP、SUMIF、文字列関数など)-</p> <p>9.データサイエンス入門(1)-データサイエンスとは何か?データの収集と統計処理-</p> <p>10.データサイエンス入門(2)-表計算を活用したデータの分析・表現-</p> <p>11.データサイエンス入門(3)-データベースの活用、並べ替え・抽出-</p> <p>12.人工知能とは何か?-ロボホンによるプログラミング体験を通して考える①-</p> <p>13.人工知能とは何か?-ロボホンによるプログラミング体験を通して考える②-</p> <p>14.まとめ</p> <p>※なお、この科目は前期8クラス (A-H)、後期6クラス (I-N) の計14コマ開講しているが、内容は同一である。ただし、課題と配布教材、指導の順序は、担当教員によって、多少異なる場合がある。</p>		

⑦ 成績評価の方法/Methods of Evaluation	演習課題の提出・実施状況、小テストや実技課題、レポートの得点などで総合的に評価し、全体の60%以上達成を合格ラインとする。
授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	準備学修としては、教科書や配布資料をしっかりと読み、授業内容の目的や達成目標をよく理解すること。また、事後学修としては、授業で出題された教科書や配布資料にある課題を必ず実施し指定された期日に提出すること。また、タッチタイピングの速度が1分間で日本語文字100文字以下の人は練習ソフトで練習すること。
使用テキスト/Text to be used	(1)教科書「30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016」実教出版 1,238円+税 ※生協で購入すること。 (2)随時配布する教材プリント (3)情報関連授業専用Web http://mcn-www.iwu.ac.jp/~info-edu/ と各担当者別Web
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業中に、適宜、紹介する。
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	【履修のしかた】 ▲重要▲履修希望者は、下記をよく読むこと。 この科目は、前期8コマ（遠隔型授業）、後期6コマ（対面型授業を予定）とも、履修方法は、4月13日（月）より、JASMINE-Navi各学科のmanabaのオリエンテーション・ガイダンスの画面の「履修のしかた」の資料をよく読み、希望する曜日時限を選択して、所定の履修登録期間に、必ず履修登録してください。なお、2年生以上のみなさんは、以上のように、昨年度までと方法が異なりますので、注意してください。 なお、みなさんが履修登録した後、履修希望者が定員（46名）を超えたクラスは、2年生以上を優先して抽選により履修者を決定します。なお、この時点で履修に漏れた場合は、その後の履修登録訂正期間で、空きクラスに再登録することができます。 以上について、履修のしかたの詳細および履修許可者の決定などについては、すべて学務課から伝達される情報やお知らせをよく確認し、間違いの無いようにしてください。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	共通科目（学科科目以外） https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000avo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html 大学院 https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.iwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kyoin_kamoku.pdf
授業形態の種類 ※必須	B

	授業科目名	基礎情報処理 G		
	Course Title	COMPUTER LITERACY G		
	サブタイトル (任意)	パソコンの基礎・基本		
⑥	担当者名	高橋まどか		
	授業コード/Registration Code	134015307	開講キャンパス/Campus	西生田キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度前期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-D4-4-1-01-2		
③	授業の概要/Course Summary	<p>できるだけ多くの学生の皆さんが、学業や就職活動、将来の社会生活に必須の情報関連の知識と技能、情報活用能力を学べるよう、今年度も1年次の全学生の履修を推奨する。また、2021年4月より、全学年が目白キャンパスへ一斉移転することに伴い、カリキュラムの変更が予想されるため、この授業の履修を希望する2年次以上の学生も、今年度履修することが望ましい。</p> <p>授業では、まず、情報処理の基礎知識とインターネット社会を安全に生きるためのWebやメールの活用および情報倫理とセキュリティ、学業や将来の社会生活に必要な文書作成・表現技能の基本を習得する。</p> <p>次に、データサイエンスについて理解するために、表計算ツールを活用して、各種データの収集、効果的な集計・分析と結果を読み取るための統計の基礎、グラフ化など適切な表現について実習主体で学修する。</p> <p>さらに、昨今の情報化社会の進展に対応するため、小型ロボットを用いた初歩的なプログラミングの体験を通して、人工知能(Artificial Intelligence, A.I.)とは何かについて触れる。</p> <p>以上を通して、現実場面で情報のより良い表現・伝達に有効な情報技術およびデータを適切に分析・活用する力、問題解決力を身に着けるとともに、最新トピックスであるデータサイエンスおよび人工知能について理解を着実に深めてほしい。また、在学中に、情報関連の資格試験（MOS試験、ITパスポート試験など）に、ぜひ、チャレンジしてほしい。</p> <p>なお、授業実施教室のコンピューター演習室1はPCの台数(45台)が限られており、前後期14科目とも、前期授業開始前の所定の期間に方法で履修希望の曜日時限の申込作業が必要である。詳細は、履修ガイダンス時に配布される「履修のしかた」のプリント、学務課掲示板、および情報関連授業のWeb http://mcn-www.jwu.ac.jp/~info-edu/ などに掲載されている内容をよく読んで確認すること。</p>		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	自宅学習主体の遠隔型の授業のため、主に、manaba という Web 上でアクセスする LMS(学習管理システム Learning Management System)を活用します。初心者のみなさんでも分かり易いよう状況を見ながら丁寧に説明したり質問対応しながら授業を進めていきます。まず、manaba が使えるパソコンおよびネット環境を整えてください。必要があれば、オンラインで利用できる他のシステムも活用しますが、その場合は授業の中で方法などを説明します。		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<p>(1)情報機器（ハードウェア）およびソフトウェアの仕組み、情報処理の基礎概念を説明できる。</p> <p>(2)文書の作成・編集法を習得し、レポートやポスターなどの文書を円滑により良く作成できる。</p> <p>(3)インターネットの特性や情報倫理、セキュリティについて理解し、安全に効率よく情報検索や情報発信を実行できる。</p> <p>(4)表計算ツールを活用して、適切にデータの収集・分析、グラフ作成、データベース操作が実行できる。</p> <p>(5)日常のさまざまな課題解決に情報技術を活用できる見方・考え方と問題解決力を身に着ける。</p> <p>(6)情報化社会の進展に対応し、データサイエンスや人工知能などの基本概念について説明できる。</p>		
④	授業計画（半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む）/Course Plan	<p>※授業を行うコンピューター演習室のパソコンには、OSはWindows10、Word,Excel,PowerPointなどはOffice2016が搭載されている。</p> <p>1.大学の情報環境の理解と機器の基本操作、ネットの活用（Web、メール）と情報倫理、セキュリティ</p> <p>2.文書作成の基礎(1)-レイアウトの設定、編集と整形、自己アピール文作成-</p> <p>3.文書作成の基礎(2)-図表の挿入、イベント企画と告知文（ポスター）作成-</p> <p>4.文書作成の応用-総合課題、学業に役立つレポート作成-</p> <p>5.情報科学基礎-コンピューターによる情報処理、ハードウェアとソフトウェア-</p> <p>6.表計算の基本(1)-表の作成・編集とグラフ作成、計算式と基本的な関数(SUM,AVERAGE)-</p> <p>7.表計算の基本(2)-式のコピーと相対・絶対セル番地参照、よく使う関数①(IF, RANK.EQ, COUNTIF)-</p> <p>8.表計算の基本(3)-よく使う関数②(VLOOKUP, SUMIF, 文字列関数など)-</p> <p>9.データサイエンス入門(1)-データサイエンスとは何か？データの収集と統計処理-</p> <p>10.データサイエンス入門(2)-表計算を活用したデータの分析・表現-</p> <p>11.データサイエンス入門(3)-データベースの活用、並べ替え・抽出-</p> <p>12.人工知能とは何か？-ロボホンによるプログラミング体験を通して考える①-</p> <p>13.人工知能とは何か？-ロボホンによるプログラミング体験を通して考える②-</p> <p>14.まとめ</p> <p>※なお、この科目は前期8クラス（A-H）、後期6クラス（I-N）の計14コマ開講しているが、内容は同一である。ただし、課題と配布教材、指導の順序は、担当教員によって、多少異なる場合がある。</p> <p>・「授業の方法」にあるように manaba を活用して遠隔型で授業を進めます。</p>		

	・ここにある授業計画は、当初の対面型を想定して立てた計画です。今回、この計画に変更が生じる可能性があります。manaba上で、その都度、伝達します。
⑦ 成績評価の方法/Methods of Evaluation	演習課題の提出・実施状況、小テストや実技課題、レポートの得点などで総合的に評価し、全体の60%以上達成を合格ラインとする。
授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	準備学修としては、教科書や配布資料をしっかりと読み、授業内容の目的や達成目標をよく理解すること。また、事後学修として、授業で出題された教科書や配布資料にある課題を必ず実施し指定された期日に提出すること。また、タッチタイピングの速度が1分間で日本語文字100文字以下の人は練習ソフトで練習すること。
使用テキスト/Text to be used	(1)教科書「30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016」実教出版 1,238円＋税 ※生協で購入すること。 (2)随時配布する教材プリント (3)情報関連授業専用Web http://mcn-www.iwu.ac.jp/~info-edu/ と各担当者別Web
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業中に、適宜、紹介する。
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	【履修のしかた】 ▲重要▲履修希望者は、下記をよく読むこと。 この科目は、前期8コマ(遠隔型授業)、後期6コマ(対面型授業を予定)とも、履修方法は、4月13日(月)より、JASMINE-Navi各学科のmanabaのオリエンテーション・ガイダンスの画面の「履修のしかた」の資料をよく読み、希望する曜日時限を選択して、所定の履修登録期間に、必ず履修登録してください。なお、2年生以上のみなさんは、以上のように、昨年度までと方法が異なりますので、注意してください。 なお、みなさんが履修登録した後、履修希望者が定員(46名)を超えたクラスは、2年生以上を優先して抽選により履修者を決定します。なお、この時点で履修に漏れた場合は、その後の履修登録訂正期間で、空きクラスに再登録することができます。 以上について、履修のしかたの詳細および履修許可者の決定などについては、すべて学務課から伝達される情報やお知らせをよく確認し、間違いの無いようにしてください。
学位授与方針（※参照）/Diploma Policy	共通科目（学科科目以外） https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp49000000avo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html 大学院 https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp49000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照）	「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.iwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kyoin_kamoku.pdf
授業形態の種類 ※必須	B

	授業科目名	基礎情報処理 H		
	Course Title	COMPUTER LITERACY H		
	サブタイトル (任意)	パソコンの基礎・基本		
⑥	担当者名	高橋まどか		
	授業コード/Registration Code	134015308	開講キャンパス/Campus	西生田キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度前期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-D4-4-1-01-2		
③	授業の概要/Course Summary	<p>できるだけ多くの学生の皆さんが、学業や就職活動、将来の社会生活に必須の情報関連の知識と技能、情報活用能力を学べるよう、今年度も1年次の全学生の履修を推奨する。また、2021年4月より、全学年が目白キャンパスへ一斉移転することに伴い、カリキュラムの変更が予想されるため、この授業の履修を希望する2年次以上の学生も、今年度履修することが望ましい。</p> <p>授業では、まず、情報処理の基礎知識とインターネット社会を安全に生きるためのWebやメールの活用および情報倫理とセキュリティ、学業や将来の社会生活に必要な文書作成・表現技能の基本を習得する。</p> <p>次に、データサイエンスについて理解するために、表計算ツールを活用して、各種データの収集、効果的な集計・分析と結果を読み取るための統計の基礎、グラフ化など適切な表現について実習主体で学修する。</p> <p>さらに、昨今の情報化社会の進展に対応するため、小型ロボットを用いた初歩的なプログラミングの体験を通して、人工知能(Artificial Intelligence, A.I.)とは何かについて触れる。</p> <p>以上を通して、現実場面で情報のより良い表現・伝達に有効な情報技術およびデータを適切に分析・活用する力、問題解決力を身に着けるとともに、最新トピックスであるデータサイエンスおよび人工知能について理解を着実に深めてほしい。また、在学中に、情報関連の資格試験（MOS試験、ITパスポート試験など）に、ぜひ、チャレンジしてほしい。</p> <p>なお、授業実施教室のコンピューター演習室1はPCの台数(45台)が限られており、前後期14科目とも、前期授業開始前の所定の期間に方法で履修希望の曜日時限の申込作業が必要である。詳細は、履修ガイダンス時に配布される「履修のしかた」のプリント、学務課掲示板、および情報関連授業のWeb http://mcn-www.jwu.ac.jp/~info-edu/ などに掲載されている内容をよく読んで確認すること。</p>		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	自宅学習主体の遠隔型の授業のため、主に、manaba という Web 上でアクセスする LMS(学習管理システム Learning Management System)を活用します。初心者のみなさんでも分かり易いよう状況を見ながら丁寧に説明したり質問対応しながら授業を進めていきます。まず、manaba が使えるパソコンおよびネット環境を整えてください。必要があれば、オンラインで利用できる他のシステムも活用しますが、その場合は授業の中で方法などを説明します。		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<p>(1)情報機器（ハードウェア）およびソフトウェアの仕組み、情報処理の基礎概念を説明できる。</p> <p>(2)文書の作成・編集法を習得し、レポートやポスターなどの文書を円滑により良く作成できる。</p> <p>(3)インターネットの特性や情報倫理、セキュリティについて理解し、安全に効率よく情報検索や情報発信を実行できる。</p> <p>(4)表計算ツールを活用して、適切にデータの収集・分析、グラフ作成、データベース操作が実行できる。</p> <p>(5)日常のさまざまな課題解決に情報技術を活用できる見方・考え方と問題解決力を身に着ける。</p> <p>(6)情報化社会の進展に対応し、データサイエンスや人工知能などの基本概念について説明できる。</p>		
④	授業計画（半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む）/Course Plan	<p>※授業を行うコンピューター演習室のパソコンには、OSはWindows10、Word,Excel,PowerPointなどはOffice2016が搭載されている。</p> <p>1.大学の情報環境の理解と機器の基本操作、ネットの活用（Web、メール）と情報倫理、セキュリティ</p> <p>2.文書作成の基礎(1)-レイアウトの設定、編集と整形、自己アピール文作成-</p> <p>3.文書作成の基礎(2)-図表の挿入、イベント企画と告知文（ポスター）作成-</p> <p>4.文書作成の応用-総合課題、学業に役立つレポート作成-</p> <p>5.情報科学基礎-コンピューターによる情報処理、ハードウェアとソフトウェア-</p> <p>6.表計算の基本(1)-表の作成・編集とグラフ作成、計算式と基本的な関数(SUM,AVERAGE)-</p> <p>7.表計算の基本(2)-式のコピーと相対・絶対セル番地参照、よく使う関数①(IF, RANK.EQ, COUNTIF)-</p> <p>8.表計算の基本(3)-よく使う関数②(VLOOKUP, SUMIF, 文字列関数など)-</p> <p>9.データサイエンス入門(1)-データサイエンスとは何か？データの収集と統計処理-</p> <p>10.データサイエンス入門(2)-表計算を活用したデータの分析・表現-</p> <p>11.データサイエンス入門(3)-データベースの活用、並べ替え・抽出-</p> <p>12.人工知能とは何か？-ロボホンによるプログラミング体験を通して考える①-</p> <p>13.人工知能とは何か？-ロボホンによるプログラミング体験を通して考える②-</p> <p>14.まとめ</p> <p>※なお、この科目は前期8クラス（A-H）、後期6クラス（I-N）の計14コマ開講しているが、内容は同一である。ただし、課題と配布教材、指導の順序は、担当教員によって、多少異なる場合がある。</p> <p>・「授業の方法」にあるように manaba を活用して遠隔型で授業を進めます。</p>		

⑦

	・ここにある授業計画は、当初の対面型を想定して立てた計画です。今回、この計画に変更が生じる可能性があります、manaba 上で、その都度、伝達します。
成績評価の方法/Methods of Evaluation	演習課題の提出・実施状況、小テストや実技課題、レポートの得点などで総合的に評価し、全体の 60% 以上達成を合格ラインとする。
授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	準備学修としては、教科書や配布資料をしっかりと読み、授業内容の目的や達成目標をよく理解すること。また、事後学修として、授業で出題された教科書や配布資料にある課題を必ず実施し指定された期日に提出すること。また、タッチタイピングの速度が 1 分間で日本語文字100文字以下の人は練習ソフトで練習すること。
使用テキスト/Text to be used	(1)教科書「30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016」実教出版 1,238円＋税 ※生協で購入すること。 (2)随時配布する教材プリント (3)情報関連授業専用Web http://mcn-www.iwu.ac.jp/~info-edu/ と各担当者別Web
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業中に、適宜、紹介する。
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	【履修のしかた】 ▲重要▲ 履修希望者は、下記をよく読むこと。 この科目は、前期 8 コマ(遠隔型授業)、後期 6 コマ(対面型授業を予定)とも、履修方法は、4 月 13 日(月)より、JASMINE-Navi か各学科の manaba のオリエンテーション・ガイダンスの画面の「履修のしかた」の資料をよく読み、希望する曜日時限を選択して、所定の履修登録期間に、必ず履修登録してください。なお、2 年生以上のみなさんは、以上のように、昨年度までと方法が異なりますので、注意してください。 なお、みなさんが履修登録した後、履修希望者が定員(46 名)を超えたクラスは、2 年生以上を優先して抽選により履修者を決定します。なお、この時点で履修に漏れた場合は、その後の履修登録訂正期間で、空きクラスに再登録することができます。以上について、履修のしかたの詳細および履修許可者の決定などについては、すべて学務課から伝達される情報やお知らせをよく確認し、間違いの無いようにしてください。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	共通科目（学科科目以外） https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000avo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html 大学院 https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.iwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kyoin_kamoku.pdf
授業形態の種類 ※必須	B

	授業科目名	基礎情報処理 I		
	Course Title	COMPUTER LITERACY I		
	サブタイトル (任意)	パソコンの基礎・基本		
⑥	担当者名	久東光代		
	授業コード/Registration Code	134015309	開講キャンパス/Campus	西生田キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度後期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-D4-4-1-01-2		
③	授業の概要/Course Summary	<p>できるだけ多くの学生の皆さんが、学業や就職活動、将来の社会生活に必須の情報関連の知識と技能、情報活用能力を学べるよう、今年度も1年次の全学生の履修を推奨する。また、2021年4月より、全学年が目白キャンパスへ一斉移転することに伴い、カリキュラムの変更が予想されるため、この授業の履修を希望する2年次以上の学生も、今年度履修することが望ましい。</p> <p>授業では、まず、情報処理の基礎知識とインターネット社会を安全に生きるためのWebやメールの活用および情報倫理とセキュリティ、学業や将来の社会生活に必要な文書作成・表現技能の基本を習得する。</p> <p>次に、データサイエンスについて理解するために、表計算ツールを活用して、各種データの収集、効果的な集計・分析と結果を読み取るための統計の基礎、グラフ化など適切な表現について実習主体で学修する。</p> <p>さらに、昨今の情報化社会の進展に対応するため、小型ロボットを用いた初歩的なプログラミングの体験を通して、人工知能(Artificial Intelligence, A.I.)とは何かについて触れる。</p> <p>以上を通して、現実場面で情報のより良い表現・伝達に有効な情報技術およびデータを適切に分析・活用する力、問題解決力を身に着けるとともに、最新トピックスであるデータサイエンスおよび人工知能について理解を着実に深めてほしい。また、在学中に、情報関連の資格試験 (MOS試験、ITパスポート試験など) に、ぜひ、チャレンジしてほしい。</p> <p>なお、授業実施教室のコンピューター演習室1はPCの台数(45台) が限られており、前後期14科目とも、前期授業開始前の所定の期間に方法で履修希望の曜日時限の申込作業が必要である。詳細は、履修ガイダンス時に配布される「履修のしかた」のプリント、学務課掲示板、および情報関連授業のWeb http://mcn-www.jwu.ac.jp/~info-edu/ などに掲載されている内容をよく読んで確認すること。</p>		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	<p>後期の授業も自宅学習主体の遠隔型となったため、前期同様、LMS (学習管理システム Learning Management System) manabaを活用します。また、授業の説明や一部グループワークにオンライン会議システムZoomを用います。初心者でも理解しやすいよう丁寧に説明したり質問対応しながら授業を進めていきます。Office2016 (またはOffice2019) がインストールされたWindowsパソコンおよびネット環境を整えてください。</p>		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<p>(1)情報機器 (ハードウェア) およびソフトウェアの仕組み、情報処理の基礎概念を説明できる。</p> <p>(2)文書の作成・編集法を習得し、レポートやポスターなどの文書を円滑により良く作成できる。</p> <p>(3)インターネットの特性や情報倫理、セキュリティについて理解し、安全に効率よく情報検索や情報発信を実行できる。</p> <p>(4)表計算ツールを活用して、適切にデータの収集・分析、グラフ作成、データベース操作が実行できる。</p> <p>(5)日常のさまざまな課題解決に情報技術を活用できる見方・考え方と問題解決力を身に着ける。</p> <p>(6)情報化社会の進展に対応し、データサイエンスや人工知能などの基本概念について説明できる。</p>		
④	授業計画 (半期14項目、通年28項目 回数毎の内容及む) /Course Plan	<p>※授業を行うコンピューター演習室のパソコンには、OSはWindows10、Word,Excel,PowerPointなどはOffice2016が搭載されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.大学の情報環境の理解と機器の基本操作、ネットの活用 (Web、メール) と情報倫理、セキュリティ 2.文書作成の基礎(1)-レイアウトの設定、編集と整形、自己アピール文作成- 3.文書作成の基礎(2)-図表の挿入、イベント企画と告知文 (ポスター) 作成- 4.文書作成の応用-総合課題、学業に役立つレポート作成- 5.情報科学基礎-コンピューターによる情報処理、ハードウェアとソフトウェア- 6.表計算の基本(1)-表の作成・編集とグラフ作成、計算式と基本的な関数(SUM,AVERAGE)- 7.表計算の基本(2)-式のコピーと相対・絶対セル番地参照、よく使う関数①(IF、RANK.EQ、COUNTIF)- 8.表計算の基本(3)-よく使う関数②(VLOOKUP、SUMIF、文字列関数など)- 9.データサイエンス入門(1)-データサイエンスとは何か? データの収集と統計処理- 10.データサイエンス入門(2)-表計算を活用したデータの分析・表現- 11.データサイエンス入門(3)-データベースの活用、並べ替え・抽出- 12.人工知能とは何か? -ロボホンによるプログラミング体験を通して考える①- 13.人工知能とは何か? -ロボホンによるプログラミング体験を通して考える②- 14.まとめ <p>※なお、この科目は前期8クラス (A-H)、後期6クラス (I-N) の計14コマ開講しているが、内容は同一である。ただし、課題と配布教材、指導の順序は、担当教員によって、多少異なる場合がある。</p>		
⑦	成績評価の方法/Methods of Evaluation	演習課題、小テストと定期試験の得点、平常点で総合的に評価し、全体の60%以上達成を合格ラインとする。		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	準備学修としては、教科書や配布資料をしっかり読み、授業内容の目的や達成目標をよく理解すること。また、事後学修としては、授業で出題された教科書や配布資料にある課題を必ず実施し指定された期日に提出すること。また、タッチタイピングの速度が1分間で日本語文字100文字以下の人は練習ソフトで練習すること。
使用テキスト/Text to be used	(1)教科書「30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016」実教出版 1,238円＋税 ※生協で購入すること。 (2)随時配布する教材プリント (3)情報関連授業専用Web http://mcn-www.jwu.ac.jp/~info-edu/ と各担当者別Web
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業中に、適宜、紹介する。
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	【履修のしかた】 ▲重要▲履修希望者は、下記をよく読むこと。 この科目は、前期8コマ（遠隔型授業）、後期6コマ（対面型授業を予定）とも、履修方法は、4月13日（月）より、JASMINE-Navi各学科のmanabaのオリエンテーション・ガイダンスの画面の「履修のしかた」の資料をよく読み、希望する曜日時限を選択して、所定の履修登録期間に、必ず履修登録してください。なお、2年生以上のみなさんは、以上のように、昨年度までと方法が異なりますので、注意してください。 なお、みなさんが履修登録した後、履修希望者が定員（46名）を超えたクラスは、2年生以上を優先して抽選により履修者を決定します。なお、この時点で履修に漏れた場合は、その後の履修登録訂正期間で、空きクラスに再登録することができます。 以上について、履修のしかたの詳細および履修許可者の決定などについては、すべて学務課から伝達される情報やお知らせをよく確認し、間違いの無いようにしてください。
学位授与方針（※参照）/Diploma Policy	共通科目（学科科目以外） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000ayo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html 大学院 https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照）	「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kvoin_kamoku.pdf
授業形態の種類 ※必須	C

授業科目名	基礎情報処理 J		
Course Title	COMPUTER LITERACY J		
サブタイトル (任意)	パソコンの基礎・基本		
⑥ 担当者名	星名由美		
授業コード/Registration Code	134015310	開講キャンパス/Campus	西生田キャンパス
開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度後期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤ 単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
ナンバリング/Course Numbering	POI-D4-4-1-01-2		
③ 授業の概要/Course Summary	<p>できるだけ多くの学生の皆さんが、学業や就職活動、将来の社会生活に必須の情報関連の知識と技能、情報活用能力を学べるよう、今年度も1年次の全学生の履修を推奨する。また、2021年4月より、全学年が目白キャンパスへ一斉移転することに伴い、カリキュラムの変更が予想されるため、この授業の履修を希望する2年次以上の学生も、今年度履修することが望ましい。</p> <p>授業では、まず、情報処理の基礎知識とインターネット社会を安全に生きるためのWebやメールの活用および情報倫理とセキュリティ、学業や将来の社会生活に必要な文書作成・表現技能の基本を習得する。</p> <p>次に、データサイエンスについて理解するために、表計算ツールを活用して、各種データの収集、効果的な集計・分析と結果を読み取るための統計の基礎、グラフ化など適切な表現について実習主体で学修する。</p> <p>さらに、昨今の情報化社会の進展に対応するため、小型ロボットを用いた初歩的なプログラミングの体験を通して、人工知能(Artificial Intelligence, A.I.)とは何かについて触れる。</p> <p>以上を通して、現実場面で情報のより良い表現・伝達に有効な情報技術およびデータを適切に分析・活用する力、問題解決力を身に着けるとともに、最新トピックスであるデータサイエンスおよび人工知能について理解を着実に深めてほしい。また、在学中に、情報関連の資格試験（MOS試験、ITパスポート試験など）に、ぜひ、チャレンジしてほしい。</p> <p>なお、授業実施教室のコンピューター演習室1はPCの台数(45台)が限られており、前後期14科目とも、前期授業開始前の所定の期間に方法で履修希望の曜日時限の申込作業が必要である。詳細は、履修ガイダンス時に配布される「履修のしかた」のプリント、学務課掲示板、および情報関連授業のWeb http://mcn-www.jwu.ac.jp/~info-edu/ などに掲載されている内容をよく読んで確認すること。</p>		
② 授業の方法/Course Approaches or Methods	自宅学習主体の遠隔型の授業のため、主に、manabaというWeb上でアクセスするLMS（学習管理システムLearning Management System）を活用します。初心者のみならずでも分かりやすい状況を見ながら丁寧に説明したり質問対応しながら授業を進めていきます。まず、manabaが使えるパソコンおよびネット環境を整えてください。必要があれば、オンラインで利用できる他のシステムも活用しますが、その場合は授業の中で方法などを説明します。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
① 授業の到達目標/Course Goals	<p>(1)情報機器（ハードウェア）およびソフトウェアの仕組み、情報処理の基礎概念を説明できる。</p> <p>(2)文書の作成・編集法を習得し、レポートやポスターなどの文書を円滑により良く作成できる。</p> <p>(3)インターネットの特性や情報倫理、セキュリティについて理解し、安全に効率よく情報検索や情報発信を実行できる。</p> <p>(4)表計算ツールを活用して、適切にデータの収集・分析、グラフ作成、データベース操作が実行できる。</p> <p>(5)日常のさまざまな課題解決に情報技術を活用できる見方・考え方と問題解決力を身に着ける。</p> <p>(6)情報化社会の進展に対応し、データサイエンスや人工知能などの基本概念について説明できる。</p>		
④ 授業計画（半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む）/Course Plan	<p>※「授業の方法」にあるようにmanabaを活用して遠隔型で授業を進めます。</p> <p>※ここにある授業計画は、当初の対面型を想定して立てた計画です。今回、この計画に変更が生じる可能性があります。manaba上で、その都度、伝達します。</p> <p>※授業を行う大学のコンピューター演習室のパソコンは、OSがWindows10で、Office2016（Word, Excel, PowerPoint）が搭載されているため、後期の遠隔授業でもこの環境に準拠して進めていきます。</p> <p>1.大学の情報環境の理解と機器の基本操作、ネットの活用（Web、メール）と情報倫理、セキュリティ</p> <p>2.文書作成の基礎(1)-レイアウトの設定、編集と整形、自己アピール文作成-</p> <p>3.文書作成の基礎(2)-図表の挿入、イベント企画と告知文（ポスター）作成-</p> <p>4.文書作成の応用-総合課題、学業に役立つレポート作成-</p> <p>5.情報科学基礎-コンピューターによる情報処理、ハードウェアとソフトウェア-</p> <p>6.表計算の基本(1)-表の作成・編集とグラフ作成、計算式と基本的な関数(SUM,AVERAGE)-</p> <p>7.表計算の基本(2)-式のコピーと相対・絶対セル番地参照、よく使う関数①(IF, RANK.EQ, COUNTIF)-</p> <p>8.表計算の基本(3)-よく使う関数②(VLOOKUP, SUMIF, 文字列関数など)-</p> <p>9.データサイエンス入門(1)-データサイエンスとは何か？データの収集と統計処理-</p> <p>10.データサイエンス入門(2)-表計算を活用したデータの分析・表現-</p> <p>11.データサイエンス入門(3)-データベースの活用、並べ替え・抽出-</p> <p>12.人工知能とは何か？-ロボホンによるプログラミング体験を通して考える①-</p> <p>13.人工知能とは何か？-ロボホンによるプログラミング体験を通して考える②-</p> <p>14.まとめ</p> <p>※なお、この科目は前期8クラス（A-H）、後期6クラス（I-N）の計14コマ開講しているが、内容は同一である。ただし、課題と配布教材、指導の順序は、担当教員によって、多少異なる場合がある。</p>		

⑦ 成績評価の方法/Methods of Evaluation	演習課題、小テストと定期試験の得点、平常点で総合的に評価し、全体の60%以上達成を合格ラインとする。
授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	準備学修としては、教科書や配布資料をしっかりと読み、授業内容の目的や達成目標をよく理解すること。また、事後学修としては、授業で出題された教科書や配布資料にある課題を必ず実施し指定された期日に提出すること。また、タッチタイピングの速度が1分間で日本語文字100文字以下の人は練習ソフトで練習すること。
使用テキスト/Text to be used	(1)教科書「30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016」実教出版 1,238円＋税 ※生協で購入すること。 (2)随時配布する教材プリント (3)情報関連授業専用Web http://mcn-www.jwu.ac.jp/~info-edu/ と各担当者別Web
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業中に、適宜、紹介する。
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	【履修のしかた】 ▲重要▲履修希望者は、下記をよく読むこと。 この科目は、前期8コマ（遠隔型授業）、後期6コマ（対面型授業を予定）とも、履修方法は、4月13日（月）より、JASMINE-Naviか各学科のmanabaのオリエンテーション・ガイダンスの画面の「履修のしかた」の資料をよく読み、希望する曜日時限を選択して、所定の履修登録期間に、必ず履修登録してください。なお、2年生以上のみなさんは、以上のように、昨年度までと方法が異なりますので、注意してください。 なお、みなさんが履修登録した後、履修希望者が定員（46名）を超えたクラスは、2年生以上を優先して抽選により履修者を決定します。なお、この時点で履修に漏れた場合は、その後の履修登録訂正期間で、空きクラスに再登録することができます。 以上について、履修のしかたの詳細および履修許可者の決定などについては、すべて学務課から伝達される情報やお知らせをよく確認し、間違いの無いようにしてください。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	共通科目（学科科目以外） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000ayo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html 大学院 https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kyoin_kamoku.pdf
授業形態の種類 ※必須	C

授業科目名	基礎情報処理 K		
Course Title	COMPUTER LITERACY K		
サブタイトル (任意)	パソコンの基礎・基本		
⑥ 担当者名	星名由美		
授業コード/Registration Code	134015311	開講キャンパス/Campus	西生田キャンパス
開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度後期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤ 単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
ナンバリング/Course Numbering	POI-D4-4-1-01-2		
③ 授業の概要/Course Summary	<p>できるだけ多くの学生の皆さんが、学業や就職活動、将来の社会生活に必須の情報関連の知識と技能、情報活用能力を学べるよう、今年度も1年次の全学生の履修を推奨する。また、2021年4月より、全学年が目白キャンパスへ一斉移転することに伴い、カリキュラムの変更が予想されるため、この授業の履修を希望する2年次以上の学生も、今年度履修することが望ましい。</p> <p>授業では、まず、情報処理の基礎知識とインターネット社会を安全に生きるためのWebやメールの活用および情報倫理とセキュリティ、学業や将来の社会生活に必要な文書作成・表現技能の基本を習得する。</p> <p>次に、データサイエンスについて理解するために、表計算ツールを活用して、各種データの収集、効果的な集計・分析と結果を読み取るための統計の基礎、グラフ化など適切な表現について実習主体で学修する。</p> <p>さらに、昨今の情報化社会の進展に対応するため、小型ロボットを用いた初歩的なプログラミングの体験を通して、人工知能(Artificial Intelligence, A.I.)とは何かについて触れる。</p> <p>以上を通して、現実場面で情報のより良い表現・伝達に有効な情報技術およびデータを適切に分析・活用する力、問題解決力を身に着けるとともに、最新トピックスであるデータサイエンスおよび人工知能について理解を着実に深めてほしい。また、在学中に、情報関連の資格試験（MOS試験、ITパスポート試験など）に、ぜひ、チャレンジしてほしい。</p> <p>なお、授業実施教室のコンピューター演習室1はPCの台数(45台)が限られており、前後期14科目とも、前期授業開始前の所定の期間に方法で履修希望の曜日時限の申込作業が必要である。詳細は、履修ガイダンス時に配布される「履修のしかた」のプリント、学務課掲示板、および情報関連授業のWeb http://mcn-www.jwu.ac.jp/~info-edu/ などに掲載されている内容をよく読んで確認すること。</p>		
② 授業の方法/Course Approaches or Methods	自宅学習主体の遠隔型の授業のため、主に、manabaというWeb上でアクセスするLMS（学習管理システムLearning Management System）を活用します。初心者のみならずでも分かり易い状況を見ながら丁寧に説明したり質問対応しながら授業を進めていきます。まず、manabaが使えるパソコンおよびネット環境を整えてください。必要があれば、オンラインで利用できる他のシステムも活用しますが、その場合は授業の中で方法などを説明します。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
① 授業の到達目標/Course Goals	<p>(1)情報機器（ハードウェア）およびソフトウェアの仕組み、情報処理の基礎概念を説明できる。</p> <p>(2)文書の作成・編集法を習得し、レポートやポスターなどの文書を円滑により良く作成できる。</p> <p>(3)インターネットの特性や情報倫理、セキュリティについて理解し、安全に効率よく情報検索や情報発信を実行できる。</p> <p>(4)表計算ツールを活用して、適切にデータの収集・分析、グラフ作成、データベース操作が実行できる。</p> <p>(5)日常のさまざまな課題解決に情報技術を活用できる見方・考え方と問題解決力を身に着ける。</p> <p>(6)情報化社会の進展に対応し、データサイエンスや人工知能などの基本概念について説明できる。</p>		
④ 授業計画（半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む）/Course Plan	<p>※「授業の方法」にあるようにmanabaを活用して遠隔型で授業を進めます。</p> <p>※ここにある授業計画は、当初の対面型を想定して立てた計画です。今回、この計画に変更が生じる可能性があります。manaba上で、その都度、伝達します。</p> <p>※授業を行う大学のコンピューター演習室のパソコンは、OSがWindows10で、Office2016（Word, Excel, PowerPoint）が搭載されているため、後期の遠隔授業でもこの環境に準拠して進めていきます。</p> <p>1.大学の情報環境の理解と機器の基本操作、ネットの活用（Web、メール）と情報倫理、セキュリティ</p> <p>2.文書作成の基礎(1)-レイアウトの設定、編集と整形、自己アピール文作成-</p> <p>3.文書作成の基礎(2)-図表の挿入、イベント企画と告知文（ポスター）作成-</p> <p>4.文書作成の応用-総合課題、学業に役立つレポート作成-</p> <p>5.情報科学基礎-コンピューターによる情報処理、ハードウェアとソフトウェア-</p> <p>6.表計算の基本(1)-表の作成・編集とグラフ作成、計算式と基本的な関数(SUM,AVERAGE)-</p> <p>7.表計算の基本(2)-式のコピーと相対・絶対セル番地参照、よく使う関数①(IF, RANK.EQ, COUNTIF)-</p> <p>8.表計算の基本(3)-よく使う関数②(VLOOKUP, SUMIF, 文字列関数など)-</p> <p>9.データサイエンス入門(1)-データサイエンスとは何か？データの収集と統計処理-</p> <p>10.データサイエンス入門(2)-表計算を活用したデータの分析・表現-</p> <p>11.データサイエンス入門(3)-データベースの活用、並べ替え・抽出-</p> <p>12.人工知能とは何か？-ロボホンによるプログラミング体験を通して考える①-</p> <p>13.人工知能とは何か？-ロボホンによるプログラミング体験を通して考える②-</p> <p>14.まとめ</p> <p>※なお、この科目は前期8クラス（A-H）、後期6クラス（I-N）の計14コマ開講しているが、内容は同一である。ただし、課題と配布教材、指導の順序は、担当教員によって、多少異なる場合がある。</p>		

⑦

成績評価の方法/Methods of Evaluation	演習課題、小テストと定期試験の得点、平常点で総合的に評価し、全体の60%以上達成を合格ラインとする。
授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	準備学修としては、教科書や配布資料をしっかりと読み、授業内容の目的や達成目標をよく理解すること。また、事後学修としては、授業で出題された教科書や配布資料にある課題を必ず実施し指定された期日に提出すること。また、タッチタイピングの速度が1分間で日本語文字100文字以下の人は練習ソフトで練習すること。
使用テキスト/Text to be used	(1)教科書「30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016」実教出版 1,238円＋税 ※生協で購入すること。 (2)随時配布する教材プリント (3)情報関連授業専用Web http://mcn-www.jwu.ac.jp/~info-edu/ と各担当者別Web
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業中に、適宜、紹介する。
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	【履修のしかた】 ▲重要▲履修希望者は、下記をよく読むこと。 この科目は、前期8コマ（遠隔型授業）、後期6コマ（対面型授業を予定）とも、履修方法は、4月13日（月）より、JASMINE-Naviか各学科のmanabaのオリエンテーション・ガイダンスの画面の「履修のしかた」の資料をよく読み、希望する曜日時限を選択して、所定の履修登録期間に、必ず履修登録してください。なお、2年生以上のみなさんは、以上のように、昨年度までと方法が異なりますので、注意してください。 なお、みなさんが履修登録した後、履修希望者が定員（46名）を超えたクラスは、2年生以上を優先して抽選により履修者を決定します。なお、この時点で履修に漏れた場合は、その後の履修登録訂正期間で、空きクラスに再登録することができます。 以上について、履修のしかたの詳細および履修許可者の決定などについては、すべて学務課から伝達される情報やお知らせをよく確認し、間違いの無いようにしてください。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	共通科目（学科科目以外） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000ayo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html 大学院 https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kyoin_kamoku.pdf
授業形態の種類 ※必須	C

	授業科目名	基礎情報処理 L		
	Course Title	COMPUTER LITERACY L		
	サブタイトル (任意)	パソコンの基礎・基本		
⑥	担当者名	久東光代		
	授業コード/Registration Code	134015312	開講キャンパス/Campus	西生田キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度後期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-D4-4-1-01-2		
③	授業の概要/Course Summary	<p>できるだけ多くの学生の皆さんが、学業や就職活動、将来の社会生活に必須の情報関連の知識と技能、情報活用能力を学べるよう、今年度も1年次の全学生の履修を推奨する。また、2021年4月より、全学年が目白キャンパスへ一斉移転することに伴い、カリキュラムの変更が予想されるため、この授業の履修を希望する2年次以上の学生も、今年度履修することが望ましい。</p> <p>授業では、まず、情報処理の基礎知識とインターネット社会を安全に生きるためのWebやメールの活用および情報倫理とセキュリティ、学業や将来の社会生活に必要な文書作成・表現技能の基本を習得する。</p> <p>次に、データサイエンスについて理解するために、表計算ツールを活用して、各種データの収集、効果的な集計・分析と結果を読み取るための統計の基礎、グラフ化など適切な表現について実習主体で学修する。</p> <p>さらに、昨今の情報化社会の進展に対応するため、小型ロボットを用いた初歩的なプログラミングの体験を通して、人工知能(Artificial Intelligence, A.I.)とは何かについて触れる。</p> <p>以上を通して、現実場面で情報のより良い表現・伝達に有効な情報技術およびデータを適切に分析・活用する力、問題解決力を身に着けるとともに、最新トピックスであるデータサイエンスおよび人工知能について理解を着実に深めてほしい。また、在学中に、情報関連の資格試験 (MOS試験、ITパスポート試験など) に、ぜひ、チャレンジしてほしい。</p> <p>なお、授業実施教室のコンピューター演習室1はPCの台数(45台) が限られており、前後期14科目とも、前期授業開始前の所定の期間に方法で履修希望の曜日時限の申込作業が必要である。詳細は、履修ガイダンス時に配布される「履修のしかた」のプリント、学務課掲示板、および情報関連授業のWeb http://mcn-www.jwu.ac.jp/~info-edu/ などに掲載されている内容をよく読んで確認すること。</p>		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	<p>後期の授業も自宅学習主体の遠隔型となったため、前期同様、LMS (学習管理システム Learning Management System) manabaを活用します。また、授業の説明や一部グループワークにオンライン会議システムZoomを用います。初心者でも理解しやすいよう丁寧に説明したり質問対応しながら授業を進めていきます。Office2016 (またはOffice2019) がインストールされたWindowsパソコンおよびネット環境を整えてください。</p>		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<p>(1)情報機器 (ハードウェア) およびソフトウェアの仕組み、情報処理の基礎概念を説明できる。</p> <p>(2)文書の作成・編集法を習得し、レポートやポスターなどの文書を円滑により良く作成できる。</p> <p>(3)インターネットの特性や情報倫理、セキュリティについて理解し、安全に効率よく情報検索や情報発信を実行できる。</p> <p>(4)表計算ツールを活用して、適切にデータの収集・分析、グラフ作成、データベース操作が実行できる。</p> <p>(5)日常のさまざまな課題解決に情報技術を活用できる見方・考え方と問題解決力を身に着ける。</p> <p>(6)情報化社会の進展に対応し、データサイエンスや人工知能などの基本概念について説明できる。</p>		
④	授業計画 (半期14項目、通年28項目 回数毎の内容及む) /Course Plan	<p>※授業を行うコンピューター演習室のパソコンには、OSはWindows10、Word,Excel,PowerPointなどはOffice2016が搭載されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.大学の情報環境の理解と機器の基本操作、ネットの活用 (Web、メール) と情報倫理、セキュリティ 2.文書作成の基礎(1)-レイアウトの設定、編集と整形、自己アピール文作成- 3.文書作成の基礎(2)-図表の挿入、イベント企画と告知文 (ポスター) 作成- 4.文書作成の応用-総合課題、学業に役立つレポート作成- 5.情報科学基礎-コンピューターによる情報処理、ハードウェアとソフトウェア- 6.表計算の基本(1)-表の作成・編集とグラフ作成、計算式と基本的な関数(SUM,AVERAGE)- 7.表計算の基本(2)-式のコピーと相対・絶対セル番地参照、よく使う関数①(IF、RANK.EQ、COUNTIF)- 8.表計算の基本(3)-よく使う関数②(VLOOKUP、SUMIF、文字列関数など)- 9.データサイエンス入門(1)-データサイエンスとは何か? データの収集と統計処理- 10.データサイエンス入門(2)-表計算を活用したデータの分析・表現- 11.データサイエンス入門(3)-データベースの活用、並べ替え・抽出- 12.人工知能とは何か? -ロボホンによるプログラミング体験を通して考える①- 13.人工知能とは何か? -ロボホンによるプログラミング体験を通して考える②- 14.まとめ <p>※なお、この科目は前期8クラス (A-H)、後期6クラス (I-N) の計14コマ開講しているが、内容は同一である。ただし、課題と配布教材、指導の順序は、担当教員によって、多少異なる場合がある。</p>		
⑦	成績評価の方法/Methods of Evaluation	演習課題、小テストと定期試験の得点、平常点で総合的に評価し、全体の60%以上達成を合格ラインとする。		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	準備学修としては、教科書や配布資料をしっかりと読み、授業内容の目的や達成目標をよく理解すること。また、事後学修としては、授業で出題された教科書や配布資料にある課題を必ず実施し指定された期日に提出すること。また、タッチタイピングの速度が1分間で日本語文字100文字以下の人は練習ソフトで練習すること。
使用テキスト/Text to be used	(1)教科書「30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016」実教出版 1,238円＋税 ※生協で購入すること。 (2)随時配布する教材プリント (3)情報関連授業専用Web http://mcn-www.jwu.ac.jp/~info-edu/ と各担当者別Web
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業中に、適宜、紹介する。
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	【履修のしかた】 ▲重要▲ 履修希望者は、下記をよく読むこと。 この科目は、前期8コマ（遠隔型授業）、後期6コマ（対面型授業を予定）とも、履修方法は、4月13日（月）より、JASMINE-Navi各学科のmanabaのオリエンテーション・ガイダンスの画面の「履修のしかた」の資料をよく読み、希望する曜日時限を選択して、所定の履修登録期間に、必ず履修登録してください。なお、2年生以上のみなさんは、以上のよう に、昨年度までと方法が異なりますので、注意してください。 なお、みなさんが履修登録した後、履修希望者が定員（46名）を超えたクラスは、2年生以上を優先して抽選により履修者を決定します。なお、この時点で履修に漏れた場合は、その後の履修登録訂正期間で、空きクラスに再登録することができません。 以上について、履修のしかたの詳細および履修許可者の決定などについては、すべて学務課から伝達される情報やお知らせをよく確認し、間違いの無いようにしてください。
学位授与方針（※参照）/Diploma Policy	共通科目（学科科目以外） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000ayo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html 大学院 https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照）	「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kyoin_kamoku.pdf
授業形態の種類 ※必須	C

	授業科目名	基礎情報処理 M		
	Course Title	COMPUTER LITERACY M		
	サブタイトル (任意)	パソコンの基礎・基本		
⑥	担当者名	高橋まどか		
	授業コード/Registration Code	134015313	開講キャンパス/Campus	西生田キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度後期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-D4-4-1-01-2		
③	授業の概要/Course Summary	<p>できるだけ多くの学生の皆さんが、学業や就職活動、将来の社会生活に必須の情報関連の知識と技能、情報活用能力を学べるよう、今年度も1年次の全学生の履修を推奨する。また、2021年4月より、全学年が目白キャンパスへ一斉移転することに伴い、カリキュラムの変更が予想されるため、この授業の履修を希望する2年次以上の学生も、今年度履修することが望ましい。</p> <p>授業では、まず、情報処理の基礎知識とインターネット社会を安全に生きるためのWebやメールの活用および情報倫理とセキュリティ、学業や将来の社会生活に必要な文書作成・表現技能の基本を習得する。</p> <p>次に、データサイエンスについて理解するために、表計算ツールを活用して、各種データの収集、効果的な集計・分析と結果を読み取るための統計の基礎、グラフ化など適切な表現について実習主体で学修する。</p> <p>さらに、昨今の情報化社会の進展に対応するため、小型ロボットを用いた初歩的なプログラミングの体験を通して、人工知能(Artificial Intelligence, A.I.)とは何かについて触れる。</p> <p>以上を通して、現実場面で情報のより良い表現・伝達に有効な情報技術およびデータを適切に分析・活用する力、問題解決力を身に着けるとともに、最新トピックスであるデータサイエンスおよび人工知能について理解を着実に深めてほしい。また、在学中に、情報関連の資格試験（MOS試験、ITパスポート試験など）に、ぜひ、チャレンジしてほしい。</p> <p>なお、授業実施教室のコンピューター演習室1はPCの台数(45台)が限られており、前後期14科目とも、前期授業開始前の所定の期間に方法で履修希望の曜日時限の申込作業が必要である。詳細は、履修ガイダンス時に配布される「履修のしかた」のプリント、学務課掲示板、および情報関連授業のWeb http://mcn-www.jwu.ac.jp/~info-edu/ などに掲載されている内容をよく読んで確認すること。</p>		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	自宅学習主体の遠隔型の授業のため、主に、manabaというWeb上でアクセスするLMS（学習管理システムLearning Management System）を活用します。初心者のみならずでも分かりやすい状況を見ながら丁寧に説明したり質問対応しながら授業を進めていきます。まず、manabaが使えるパソコンおよびネット環境を整えてください。必要があれば、オンラインで利用できる他のシステムも活用しますが、その場合は授業の中で方法などを説明します。		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<p>(1)情報機器（ハードウェア）およびソフトウェアの仕組み、情報処理の基礎概念を説明できる。</p> <p>(2)文書の作成・編集法を習得し、レポートやポスターなどの文書を円滑により良く作成できる。</p> <p>(3)インターネットの特性や情報倫理、セキュリティについて理解し、安全に効率よく情報検索や情報発信を実行できる。</p> <p>(4)表計算ツールを活用して、適切にデータの収集・分析、グラフ作成、データベース操作が実行できる。</p> <p>(5)日常のさまざまな課題解決に情報技術を活用できる見方・考え方と問題解決力を身に着ける。</p> <p>(6)情報化社会の進展に対応し、データサイエンスや人工知能などの基本概念について説明できる。</p>		
④	授業計画（半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む）/Course Plan	<p>※授業を行うコンピューター演習室のパソコンには、OSはWindows10、Word,Excel,PowerPointなどはOffice2016が搭載されている。</p> <p>1.大学の情報環境の理解と機器の基本操作、ネットの活用（Web、メール）と情報倫理、セキュリティ</p> <p>2.文書作成の基礎(1)-レイアウトの設定、編集と整形、自己アピール文作成-</p> <p>3.文書作成の基礎(2)-図表の挿入、イベント企画と告知文（ポスター）作成-</p> <p>4.文書作成の応用-総合課題、学業に役立つレポート作成-</p> <p>5.情報科学基礎-コンピューターによる情報処理、ハードウェアとソフトウェア-</p> <p>6.表計算の基本(1)-表の作成・編集とグラフ作成、計算式と基本的な関数(SUM,AVERAGE)-</p> <p>7.表計算の基本(2)-式のコピーと相対・絶対セル番地参照、よく使う関数①(IF, RANK.EQ, COUNTIF)-</p> <p>8.表計算の基本(3)-よく使う関数②(VLOOKUP, SUMIF, 文字列関数など)-</p> <p>9.データサイエンス入門(1)-データサイエンスとは何か？データの収集と統計処理-</p> <p>10.データサイエンス入門(2)-表計算を活用したデータの分析・表現-</p> <p>11.データサイエンス入門(3)-データベースの活用、並べ替え・抽出-</p> <p>12.人工知能とは何か？-ロボホンによるプログラミング体験を通して考える①-</p> <p>13.人工知能とは何か？-ロボホンによるプログラミング体験を通して考える②-</p> <p>14.まとめ</p> <p>※なお、この科目は前期8クラス（A-H）、後期6クラス（I-N）の計14コマ開講しているが、内容は同一である。ただし、課題と配布教材、指導の順序は、担当教員によって、多少異なる場合がある。</p> <p>※「授業の方法」にあるようにmanabaを活用して遠隔型で授業を進めます。</p> <p>※ここにある授業計画は、当初の対面型を想定して立てた計画です。今回、この計画に変更が生じる可能性があります、</p>		

	manaba上で、その都度、伝達します。 ※授業を行う大学のコンピューター演習室のパソコンは、OSがWindows10で、Office2016 (Word, Excel, PowerPoint) が搭載されているため、前期の遠隔授業でもこの環境に準拠して進めていきます。
⑦ 成績評価の方法/Methods of Evaluation	演習課題の提出・実施状況、小テストや実技課題、レポートの得点などで総合的に評価し、全体の60%以上達成を合格ラインとする。
授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	準備学修としては、教科書や配布資料をしっかりと読み、授業内容の目的や達成目標をよく理解すること。また、事後学修として、授業で出題された教科書や配布資料にある課題を必ず実施し指定された期日に提出すること。また、タッチタイピングの速度が1分間で日本語文字100文字以下の人は練習ソフトで練習すること。
使用テキスト/Text to be used	(1)教科書「30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016」実教出版 1,238円＋税 ※生協で購入すること。 (2)随時配布する教材プリント (3)情報関連授業専用Web http://mcn-www.jwu.ac.jp/~info-edu/ と各担当者別Web
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業中に、適宜、紹介する。
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	【履修のしかた】 ▲重要▲ 履修希望者は、下記をよく読むこと。 この科目は、前期 8 コマ(遠隔型授業)、後期 6 コマ(対面型授業を予定)とも、履修方法は、4月13日(月)より、JASMINE-Navi か各学科の manaba のオリエンテーション・ガイダンスの画面の「履修のしかた」の資料をよく読み、希望する曜日時限を選択して、所定の履修登録期間に、必ず履修登録してください。なお、2年生以上のみなさんは、以上のように、昨年度までと方法が異なりますので、注意してください。 なお、みなさんが履修登録した後、履修希望者が定員(46名)を超えたクラスは、2年生以上を優先して抽選により履修者を決定します。なお、この時点で履修に漏れた場合は、その後の履修登録訂正期間で、空きクラスに再登録することができます。以上について、履修のしかたの詳細および履修許可者の決定などについては、すべて学務課から伝達される情報やお知らせをよく確認し、間違いの無いようにしてください。
学位授与方針（※参照）/Diploma Policy	共通科目（学科科目以外） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000ayo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html 大学院 https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照）	「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kyoin_kamoku.pdf
授業形態の種類 ※必須	C

	授業科目名	基礎情報処理 N		
	Course Title	COMPUTER LITERACY N		
	サブタイトル (任意)	パソコンの基礎・基本		
⑥	担当者名	高橋まどか		
	授業コード/Registration Code	134015314	開講キャンパス/Campus	西生田キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度後期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-D4-4-1-01-2		
③	授業の概要/Course Summary	<p>できるだけ多くの学生の皆さんが、学業や就職活動、将来の社会生活に必須の情報関連の知識と技能、情報活用能力を学べるよう、今年度も1年次の全学生の履修を推奨する。また、2021年4月より、全学年が目白キャンパスへ一斉移転することに伴い、カリキュラムの変更が予想されるため、この授業の履修を希望する2年次以上の学生も、今年度履修することが望ましい。</p> <p>授業では、まず、情報処理の基礎知識とインターネット社会を安全に生きるためのWebやメールの活用および情報倫理とセキュリティ、学業や将来の社会生活に必要な文書作成・表現技能の基本を習得する。</p> <p>次に、データサイエンスについて理解するために、表計算ツールを活用して、各種データの収集、効果的な集計・分析と結果を読み取るための統計の基礎、グラフ化など適切な表現について実習主体で学修する。</p> <p>さらに、昨今の情報化社会の進展に対応するため、小型ロボットを用いた初歩的なプログラミングの体験を通して、人工知能(Artificial Intelligence, A.I.)とは何かについて触れる。</p> <p>以上を通して、現実場面で情報のより良い表現・伝達に有効な情報技術およびデータを適切に分析・活用する力、問題解決力を身に着けるとともに、最新トピックスであるデータサイエンスおよび人工知能について理解を着実に深めてほしい。また、在学中に、情報関連の資格試験 (MOS試験、ITパスポート試験など) に、ぜひ、チャレンジしてほしい。</p> <p>なお、授業実施教室のコンピューター演習室1はPCの台数(45台)が限られており、前後期14科目とも、前期授業開始前の所定の期間に方法で履修希望の曜日時限の申込作業が必要である。詳細は、履修ガイダンス時に配布される「履修のしかた」のプリント、学務課掲示板、および情報関連授業のWeb http://mcn-www.jwu.ac.jp/~info-edu/ などに掲載されている内容をよく読んで確認すること。</p>		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	自宅学習主体の遠隔型の授業のため、主に、manabaというWeb上でアクセスするLMS (学習管理システム Learning Management System) を活用します。初心者のみなさんでも分かり易いよう状況を見ながら丁寧に説明したり質問対応しながら授業を進めていきます。まず、manabaが使えるパソコンおよびネット環境を整えてください。必要があれば、オンラインで利用できる他のシステムも活用しますが、その場合は授業の中で方法などを説明します。		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<p>(1)情報機器 (ハードウェア) およびソフトウェアの仕組み、情報処理の基礎概念を説明できる。</p> <p>(2)文書の作成・編集法を習得し、レポートやポスターなどの文書を円滑により良く作成できる。</p> <p>(3)インターネットの特性や情報倫理、セキュリティについて理解し、安全に効率よく情報検索や情報発信を実行できる。</p> <p>(4)表計算ツールを活用して、適切にデータの収集・分析、グラフ作成、データベース操作が実行できる。</p> <p>(5)日常のさまざまな課題解決に情報技術を活用できる見方・考え方と問題解決力を身に着ける。</p> <p>(6)情報化社会の進展に対応し、データサイエンスや人工知能などの基本概念について説明できる。</p>		
④	授業計画 (半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む) /Course Plan	<p>※授業を行うコンピューター演習室のパソコンには、OSはWindows10、Word,Excel,PowerPointなどはOffice2016が搭載されている。</p> <p>1.大学の情報環境の理解と機器の基本操作、ネットの活用 (Web、メール) と情報倫理、セキュリティ</p> <p>2.文書作成の基礎(1)-レイアウトの設定、編集と整形、自己アピール文作成-</p> <p>3.文書作成の基礎(2)-図表の挿入、イベント企画と告知文 (ポスター) 作成-</p> <p>4.文書作成の応用-総合課題、学業に役立つレポート作成-</p> <p>5.情報科学基礎-コンピューターによる情報処理、ハードウェアとソフトウェア-</p> <p>6.表計算の基本(1)-表の作成・編集とグラフ作成、計算式と基本的な関数(SUM,AVERAGE)-</p> <p>7.表計算の基本(2)-式のコピーと相対・絶対セル番地参照、よく使う関数①(IF、RANK.EQ、COUNTIF)-</p> <p>8.表計算の基本(3)-よく使う関数②(VLOOKUP、SUMIF、文字列関数など)-</p> <p>9.データサイエンス入門(1)-データサイエンスとは何か? データの収集と統計処理-</p> <p>10.データサイエンス入門(2)-表計算を活用したデータの分析・表現-</p> <p>11.データサイエンス入門(3)-データベースの活用、並べ替え・抽出-</p> <p>12.人工知能とは何か?-ロボホンによるプログラミング体験を通して考える①-</p> <p>13.人工知能とは何か?-ロボホンによるプログラミング体験を通して考える②-</p> <p>14.まとめ</p> <p>※なお、この科目は前期8クラス (A-H)、後期6クラス (I-N) の計14コマ開講しているが、内容は同一である。ただし、課題と配布教材、指導の順序は、担当教員によって、多少異なる場合がある。</p> <p>※「授業の方法」にあるようにmanabaを活用して遠隔型で授業を進めます。</p> <p>※ここにある授業計画は、当初の対面型を想定して立てた計画です。今回、この計画に変更が生じる可能性があります、</p>		

	manaba上で、その都度、伝達します。 ※授業を行う大学のコンピューター演習室のパソコンは、OSがWindows10で、Office2016 (Word, Excel, PowerPoint) が搭載されているため、前期の遠隔授業でもこの環境に準拠して進めていきます。
⑦ 成績評価の方法/Methods of Evaluation	演習課題の提出・実施状況、小テストや実技課題、レポートの得点などで総合的に評価し、全体の60%以上達成を合格ラインとする。
授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	準備学修としては、教科書や配布資料をしっかり読み、授業内容の目的や達成目標をよく理解すること。また、事後学修として、授業で出題された教科書や配布資料にある課題を必ず実施し指定された期日に提出すること。また、タッチタイピングの速度が1分間で日本語文字100文字以下の人は練習ソフトで練習すること。
使用テキスト/Text to be used	(1)教科書「30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016」実教出版 1,238円＋税 ※生協で購入すること。 (2)随時配布する教材プリント (3)情報関連授業専用Web http://mcn-www.jwu.ac.jp/~info-edu/ と各担当者別Web
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業中に、適宜、紹介する。
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	【履修のしかた】 ▲重要▲ 履修希望者は、下記をよく読むこと。 この科目は、前期 8 コマ(遠隔型授業)、後期 6 コマ(対面型授業を予定)とも、履修方法は、4月13日(月)より、JASMINE-Navi か各学科の manaba のオリエンテーション・ガイダンスの画面の「履修のしかた」の資料をよく読み、希望する曜日時限を選択して、所定の履修登録期間に、必ず履修登録してください。なお、2年生以上のみなさんは、以上のように、昨年度までと方法が異なりますので、注意してください。 なお、みなさんが履修登録した後、履修希望者が定員(46名)を超えたクラスは、2年生以上を優先して抽選により履修者を決定します。なお、この時点で履修に漏れた場合は、その後の履修登録訂正期間で、空きクラスに再登録することができます。以上について、履修のしかたの詳細および履修許可者の決定などについては、すべて学務課から伝達される情報やお知らせをよく確認し、間違いの無いようにしてください。
学位授与方針（※参照）/Diploma Policy	共通科目（学科科目以外） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000ayo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html 大学院 https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照）	「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kyoin_kamoku.pdf
授業形態の種類 ※必須	C

授業科目名	ICT活用とプロジェクト演習		
Course Title	PROJECT BASED EXERCISE BY GOOD USE OF INFORMATION & COMMUNICATION TECHNOLOGY		
サブタイトル (任意)			
⑥ 担当者名	久東光代、星名由美		
授業コード/Registration Code	134017201	開講キャンパス/Campus	西生田キャンパス
開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度前期、2020年度後期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤ 単位数/Credits	4.0単位	年次/Year	1年
ナンバリング/Course Numbering	POI-D4-4-1-03-2		
③ 授業の概要/Course Summary	<p>プロジェクトというと、オリンピック開催や地球温暖化対策など国や企業が行う大きな計画が思い浮かびますが、「友人と映画に行く」のような身近な計画も条件を満たせばプロジェクトとして成立します。その成立条件とは、一体、何でしょうか？また、社会に出ると、プロジェクトに携わり、目標達成に向けて問題を解決し実現する力、ICTスキルやコミュニケーション力、チームで円滑に活動できる力が求められます。これらの力は、経済産業省が提唱する「社会人基礎力」として企業も注目しています。これらの力をどのように身につけたらよいのでしょうか？</p> <p>この科目では、社会に出てから求められる実践力を身につける目的で、教室内での知識・技能の習得だけでなく、実際の地域社会に出て、イベント企画や商品開発などのプロジェクト活動を通して実践的に学びます。また、どのような問題や課題にも適用できる問題解決モデルに基づいたプロジェクトの進め方を学ぶことで、実践的な問題解決力が身につく、さまざまな場面で応用できるようになることを目指しています。</p> <p>プロジェクトは、ひとりではなくチームで協力し考え工夫することで、達成と成功が可能になります。学んだ問題解決力を発揮しつつ、ICTを効率よく活用し、失敗からも学び、成功した達成感や楽しさを体験し力にしてください。</p>		
② 授業の方法/Course Approaches or Methods	<p>この授業は年間科目で、前期、後期を通して学習します。</p> <p>前期の授業は自宅学習主体の遠隔型で、manabaというWeb上でアクセスするLMS（学習管理システムLearning Management System）とオンラインミーティングシステム（Zoomなど）を活用します。初心者の方でも履修者のみなさんが安心して学習できるよう丁寧に説明し質問対応もしていきます。まず、manabaが使えるパソコンおよびネット環境を整えてください。問題解決のモデルやプロジェクトについて学んだり、ICTを活用した企画書・ポスターなどの文書作成、manabaの掲示板やオンラインのコミュニケーションツールでグループワークにもチャレンジしていきます。</p> <p>後期の授業は大学キャンパスにおける対面型で、教室での学習（個人学習、グループ・チームでアクティブラーニング）と、実際に地域に出てチームで企画したプロジェクトを具体的に企画し準備および実行する予定ですが、状況に合わせて課題内容を考えます。成果発表会および報告書の作成も行います。</p> <p>今まさに、新しい働き方やコミュニケーションのあり方について変革が求められています。みなさんと、様々な方法を体験しながら、一緒に問題解決的に学んでいきましょう！</p>		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3 大学 DP4		
① 授業の到達目標/Course Goals	<p>次のような実践力を身につけることと関連する知識・技能を習得することを本授業の到達目標とする。</p> <p>I プロジェクトを進めるための手順・行動に関わる次の力を身につける</p> <p>(1) 企画する力 (2) 情報を収集・分析する力 (3) 情報を発信・表現する力 (4) プロジェクトをマネージメント（管理）する力 (5) プロジェクトを実行する力</p> <p>II プロジェクトを円滑に進めるための次のスキル・見方・考え方を身につける</p> <p>(6) 人とコミュニケーションや交渉する力 (7) プレゼンテーションする力 (8) チームで円滑に活動する力 (9) プロジェクトを前へ動かしていく力 (10) ICTを活用する力 (11) 自ら考えチームで協力して課題を解決する力</p>		
④ 授業計画（半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む）/Course Plan	<p>※ここにある授業計画は、すべて対面での学習を想定して立てられています。今回、前期が遠隔授業になったこと、社会情勢を考え、授業内容を変更することがありますのでご了承ください。変更については、manabaで、随時、お知らせします。</p> <p>◀前期▶ manaba主体で遠隔授業 ※プロジェクト活動に関する基礎演習</p> <p>第1回 プロジェクトを推進するICT活用(1) ・オリエンテーション、プロジェクトとは何か？</p> <p>第2回 プロジェクトを推進するICT活用(2) ・自己&グループ紹介文の作成</p> <p>第3回 身近なテーマで学ぶ問題解決(1) ゲーミング ・問題解決の基本学習、ICTを活用した情報収集</p> <p>第4回 身近なテーマで学ぶ問題解決(2) ・情報収集結果のグループプレゼンテーション</p> <p>第5回 地域活動の事例で学ぶ問題解決(1) ・シミュレーション教材で企画立案とより良い手順を学習</p> <p>第6回 地域活動の事例で学ぶ問題解決(2) ・シミュレーション教材で企画推進のためのICT活用を学習</p>		

	<p>第7回 模擬イベントの企画と実践(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標と制約条件の設定、情報収集(グループ) <p>第8回 模擬イベントの企画と実践(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイデア出しとブレインストーミング、企画書の作成 <p>第9回 模擬イベントの企画と実践(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間管理・工程表、役割分担の決定 ・効果的なポスター作成 <p>第10回 模擬イベントの企画と実践(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的なポスターの評価・改善 ・試作、タイムスケジュール調整 <p>第11回 模擬イベントの企画と実践(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬イベント準備 ・スタッフマニュアルと参加者手順書の作成 <p>第12回 模擬イベントの企画と実践(6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬イベントの実施 <p>第13回 模擬イベントの企画と実践(7)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬イベントのふり返り、報告書の作成 <p>第14回 模擬イベントの企画と実践(7)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬イベントのふり返り、報告書の作成 <p>《後期》 大学で対面学習 ※チームによる地域プロジェクト活動の実践</p> <p>第1回 地域プロジェクトを始める前に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域プロジェクト活動の進め方と問題解決モデルの復習 <p>第2回 地域プロジェクトを始める(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標達成に向けたチームづくり <p>第3回 地域プロジェクトを始める(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に関する情報収集と分析 <p>第4回 地域プロジェクトを推進する(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイデア出しと企画の検討 <p>第5回 地域プロジェクトを推進する(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不確定要素を含む企画の決定と企画書の作成 <p>第6回 地域プロジェクトを推進する(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工程表と作業一覧の作成、役割分担の決定 ・対外的なコミュニケーションと交渉 <p>第7回 地域プロジェクトを推進する(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交渉後の計画の調整 ・チーム内の問題解決と地域との合意形成 <p>第8回 地域プロジェクトを推進する(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報・宣伝の方略の工夫と情報発信 <p>第9回 地域プロジェクトを推進する(6)</p> <p>第10回 地域プロジェクトを推進する(7)</p> <p>第11回 地域プロジェクトを達成する(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携プロジェクトを実施する <p>第12回 地域プロジェクトを達成する(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふり返りとまとめ、会計報告・報告書作成準備 <p>第13回 地域プロジェクトを達成する(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム報告書と個人報告書の作成 <p>第14回 成果発表会の実施</p> <p>※実際の授業では、履修者の希望や学びの状況をみながら柔軟に進めていく。</p> <p>★全体を通じて★</p> <p>a.個人・チームで実施した各課題・演習結果、成果は各自で保管し、最後に全体報告書を作成する。</p> <p>b.授業時限(金4)以外の時間にも、必要に応じてチームで準備活動を行う。各自の都合を適切に調整し全員が協力してプロジェクトの達成を目指して主体的に活動すること。</p> <p>c.学外連携先での活動：生田緑地、地域の小学校などでイベント開催を12月上旬の土日に予定</p>
⑦ 成績評価の方法/Methods of Evaluation	実施した課題や演習で提出したワークシート、企画書、報告書などの成果物の評価結果、課題や実習への取り組みの度合いやコミュニケーションの回数などを総合し、60%以上を、合格とする。
授業外学修(準備・事後学習等)に必要な時間・具体的な内容)/Prep&Review	この授業で行うプロジェクト活動は、週1回の授業時間の活動だけでは達成が難しい。常にプロジェクト全体を見通し、授業時間外も、グループ・チーム内の連絡、学外連携先とのこまめな連絡やコミュニケーションおよび担当教員への報告・連絡・相談を維持し、プロジェクトを円滑に進行させ達成に導くこと。
使用テキスト/Text to be used	教員が作成する教材プリント、および、情報関連授業Web http://mcn-www.jwu.ac.jp/~info-edu/
参考書(参考資料等)/Reference Books	授業内で、適宜、紹介する。
その他(受講生への要望)/Notes, Message to Students	この科目は年間科目ですが、前期は遠隔型で授業を実施します。5月7日(水)の遠隔授業開始時まで、自宅にパソコンおよびネット接続環境を準備できる方が履修してください。 履修方法は、4月13日(月)より、JASMINE-Naviか、各学科のmanabaのオリエンテーション・ガイダンスの画面より閲覧できますので、よく読んで履修申請をしてください。 授業の詳しい様子は、ここで配布した「 20情報関連授業履修ガイド.pdf 」をご覧ください。また、履修前に質問のある人

	<p>は、担当の久東 kuto@fc.jwu.ac.jp 宛に、メールで気軽に質問してください。</p> <p>頭で考えるだけでなく実践し行動することからも学び、チーム活動でしか得られない楽しさや魅力を、ぜひ体験し、力にしてほしいと思います。</p> <p>パソコン操作を含むICTスキルやグループワークに苦手意識がある人こそ、ぜひ履修し、一緒にゼロから学んで自信をつけてください。</p>
学位授与方針（※参照）/Diploma Policy	<p>共通科目（学科科目以外） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000ayo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf</p> <p>学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html</p> <p>大学院 https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf</p>
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照）	<p>「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kyoin_kamoku.pdf</p>
授業形態の種類 ※必須	C

	授業科目名	情報科学基礎I		
	Course Title	FOUNDATIONS OF INFORMATION SCIENCE 1		
	サブタイトル (任意)	グラフィックプログラミングの理論と実際		
⑥	担当者名	鳥海有紀		
	授業コード/Registration Code	134016501	開講キャンパス/Campus	西生田キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度後期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	1年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-D4-4-1-02-1		
③	授業の概要/Course Summary	<p>この授業はコンピュータ演習を含む授業ですが、2020年度後期では遠隔授業で行います。授業形態を確認してください。</p> <p>コンピュータ演習の部分はコンピュータ演習室へのリモート接続を前提に行います。各自接続できる環境を整えて授業に臨んでください。</p> <p>リモート接続はメディアセンターの指示に従って行ってください。</p> <p>昨今はWebでの情報発信があたりまえとなり、その内容や質が問われるようになってきた。質を向上させるための一つの手段として、スクリプトやプログラムによるWebページの作成があげられる。プログラムやスクリプトを使用すればマウスやキーボードなどからの入力操作で画面を変化させたり、絵を動かすことに始まり、Webページからの様々な発信が可能になる。</p> <p>この授業では、グラフィック表現が可能な開発ツールを使用して、プログラムを使用したグラフィック表現から始まり、プログラムによってしか実現できないインタラクティブな操作方法など、一歩踏み込んだ知識や表現のための基礎を講義と演習を通して身につける。</p> <p>具体的には、Windows環境で動作するプログラム言語JAVAをベースにしたprocessingというプログラム作成用のツールを使用する。processingを使いグラフィックスの基本やインタラクティブな操作の実現方法などを解説していく。processingには音声、ビデオの取り込み機能も付属しているので、様々な制作活動のの一步となるはずである。</p>		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	<p>プログラムを作成し、それを実行することを目的としているので、毎回の授業でコンピュータでの演習を取り入れる。理論の重要な部分は、丁寧な解説を行い、理論を理解することに力をいれる。</p> <p>遠隔授業では、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) manabaによるPDF資料や動画による教材コンテンツの配布 2) リモート接続による各自の演習 3) 毎回の授業課題提出 <p>の方法で行う。</p> <p>授業形態の種類も参考にしてください。</p>		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1: コンピュータでのグラフィック表示の方法を理解する 2: プログラムによるインタラクティブな操作や動画の原理を理解する 3: Webで使用される画像の種類を理解し、適切な画像の使用ができる 4: プログラミングやスクリプトの基礎を身につける 		
④	授業計画 (半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む) /Course Plan	<p>第1回 オリエンテーション 開発ツールprocessingについて</p> <p>第2回 processingを使って図形を表示する</p> <p>第3回 プログラムの作成、編集、実行</p> <p>第4回 基本図形の定義 (顔を描く)</p> <p>第5回 プログラムを使った画像の表示。画像ファイルの種類、取り扱い</p> <p>第6回 画像加工のツールの取り扱い</p> <p>第7回 イベント駆動型のプログラム (マウス、キーボード入力を受け付けるプログラム)</p> <p>第8回 インタラクティブな操作の手法 マウス、キーボードから入力</p> <p>第9回 プログラムの制御文</p> <p>第10回 動画の原理とプログラムへの応用</p> <p>第11回 種々の動画表現</p> <p>第12回 画像に含まれる画素情報</p> <p>第13回 画像の加工</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>受講生の理解度により必ずしもこの順にならないことがある。</p>		
⑦	成績評価の方法/Methods of Evaluation	平常点及び作成課題による採点とする。		
		授業で提示される課題への取り組み		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	
使用テキスト/Text to be used	教科書なし。講義中にプリントを配布する。
参考書（参考資料等）/Reference Books	講義中に必要な場合は随時指示する。
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	遠隔授業ではコンピュータ演習室環境へのリモート接続を行うことを前提に授業を進めます。リモート接続はメディアセンターからの指示に従って各自が行ってください。 プログラムに関する知識は不要です。
学位授与方針（※参照）/Diploma Policy	共通科目（学科科目以外） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000ayo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html 大学院 https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照）	「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kyoin_kamoku.pdf
授業形態の種類 ※必須	A:講義資料・課題提示による遠隔授業

授業科目名	情報科学基礎II		
Course Title	FOUNDATIONS OF INFORMATION SCIENCE 2		
サブタイトル（任意）	静止画・動画の編集技法		
⑥ 担当者名	佐藤夏月		
授業コード/Registration Code	134016701	開講キャンパス/Campus	西生田キャンパス
開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度後期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤ 単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	2年
ナンバリング/Course Numbering	POI-D4-4-2-07-2		
③ 授業の概要/Course Summary	<p>【授業ではPCに必要なソフトウェアをインストールしてもらうため、必ず新たなソフトウェアをインストールすることのできるPCを持っていることが履修条件となるので注意すること】</p> <p>この科目の展開科目名および副専攻「情報メディアコース」の科目名は、<静止画・動画の編集技法>である。</p> <p>昨今、高性能なカメラを内蔵したスマホの普及や、InstagramやFacebookなど、動画を手軽に扱うSNSの流行により、写真や動画の撮影は非常に身近なものとなっている。画像や動画など視聴覚に直接訴えるような媒体を使いこなす技術は、インターネット上だけではなく、企業や研究の場など多くの場面で様々な応用が期待できる。</p> <p>本授業はAdobe社のPhotoshopとPremiereを使い、画像や動画の編集を行う。これまでこれらのソフトに触れたことのない人を受講者として想定している。受講希望者は必ず初回の授業に参加してください。</p> <p>*遠隔授業に伴い、一部Adobe社製以外の画像・動画編集ソフトウェアに変更する可能性があり、授業内容を変更する可能性がある。</p>		
② 授業の方法/Course Approaches or Methods	<p>本授業では、講義と演習を交互に行い、実際にソフトウェアを操作しながら、動画の編集スキルの習得を目指す。また、技術習得と演習のみでなく、実際に画像や動画などのデジタルコンテンツを扱う為のリテラシーに関しても理解を深めることを目指す。</p> <p>本授業の前半では、Adobe Photoshopを活用し、画像編集について学び、後半ではAdobe Premiereを活用した動画編集について学ぶ。資料は各講義の中で配布を行うが、受講者には編集用の写真画像や動画の撮影等を課すことがある。受講者の習熟度によって授業内容等を調節する可能性がある。</p>		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学DP3		
① 授業の到達目標/Course Goals	<p>本授業では、画像や動画の編集技術を学ぶことで、卒業研究などに活用できる技術の習得を目指す。同時に、普段気軽に利用するスマートフォンなどで行われている操作が、どのような技術的背景に基づくのかを理解することを目指す。具体的な到達目標は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スマートフォンやデジタルカメラで撮影した写真や動画を、Adobe PhotoshopとAdobe Premiereを使い編集することができる。 2. 画像・動画を編集する技術を習得し、卒業研究やレポートの作成など、実際の場面で活用できるようになることを目指す。 3. わからないことを自分で調べ、静止画・動画の作品を完成させることができる。 		
④ 授業計画（半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む）/Course Plan	<p>本授業では以下14回の授業を予定している。ただし、課題の進捗状況等によりスケジュールは変更する可能性がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、画像と動画の基本知識に関する講義 2. 画像編集ソフトの基本操作① レイヤー機能の理解とマスクの作成 3. 画像編集ソフトの基本操作② 自動選択機能とフィルタ機能の理解 4. 画像編集ソフトを活用した実践的な画像編集① 写真のレタッチ 5. 画像編集ソフトを活用した実践的な画像編集② 画像の合成 6. スマートフォンカバーのデザイン作成課題、動画編集ソフトの基本設定と準備 7. 動画編集ソフトの基本操作① 素材の取り込みからタイトル画面の作成 8. 動画編集ソフトの基本操作② 動画の連結と、動画の書き出し 9. 動画編集ソフトの基本操作③ 音声の変更と削除 10. 動画編集ソフトの基本操作④ 特殊効果の挿入 11. 動画編集ソフトを活用した動画編集 スマホカバー制作過程紹介課題（2分以内）の作成の実演と実習、リテラシーに関する講義 12. 課題2 自由作成課題（2分以内）の作成 13. 課題2 自由作成課題（2分以内）の作成 14. 課題2の発表および批評会 <p>授業の前半では、フリーソフトやPhotoshopなどの画像編集ソフトを活用した画像編集技術および、デジタルコンテンツとして静止画像を扱う上で必要な基本的な知識と技術を学習する。最終課題として、スマートフォンカバーのデザイン作成に挑戦する。</p> <p>授業の後半では、フリーソフトやPremiereなどの動画編集ソフトを活用した動画編集技術および、動画を扱う上で必要な知識や、リテラシーを学習し、動画作品を作成する。テーマに沿った内容を紹介する2分以内の紹介動画の作成や、受講者自身のスマートフォンで撮影した動画・写真素材を使った自由課題に取り組む。</p> <p>課題を通して作成した作品を発表し、受講者相互に評価を行ってもらう。自己評価と他者評価を行い、良い点と改善すべき点を具体的に報告するレポートを作成する。</p> <p>（受講者の習熟度によって授業内容の一部が変更となる可能性がある。）</p>		

⑦

成績評価の方法/Methods of Evaluation	授業内で適宜課す課題の提出状況・内容および、および相互評価を含むレポートを得点化し、全体の60%以上達成を合格ラインとする。
授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	<ol style="list-style-type: none"> 1. 翌週までに、必ず資料を見返して授業内容を復習すること。 2. 課題作業中は、個人のペースに合わせて授業中に個別指導を行うので、事前事後に作業を進め、質問事項がある場合にはまとめておくこと。 3. 受講者には編集用の写真画像や動画の撮影等を課すことがあります。
使用テキスト/Text to be used	<ol style="list-style-type: none"> (1) 随時配布する教材プリント (2) 情報関連授業専用Web http://mcn-www.jwu.ac.jp/~info-edu/
参考書（参考資料等）/Reference Books	資料は適宜、授業内で配布する。
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	コンピュータ演習室2の利用可能席数には限りがあるため、履修登録希望者は、必ず第1回授業に出席すること。万が一、席数を越えた履修希望があると、第1回目未受講の場合は受講を許可できないことがあります。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	<p>共通科目（学科科目以外） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000ayo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf</p> <p>学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html</p> <p>大学院 https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf</p>
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	<p>「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kyoin_kamoku.pdf</p>
授業形態の種類 ※必須	B

	授業科目名	情報科学基礎III		
	Course Title	FOUNDATIONS OF INFORMATION SCIENCE 3		
	サブタイトル (任意)	データの分析とリレーショナルデータベース		
⑥	担当者名	久東光代		
	授業コード/Registration Code	134016801	開講キャンパス/Campus	西生田キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度後期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	2年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-D4-4-2-08-2		
③	授業の概要/Course Summary	<p>現代社会は、ビッグデータ、すなわち大量で複雑多岐にわたる情報にあふれているが、これらの情報は、効率よく収集、取捨選択、保管、検索や共有、集計・分析、可視化・表現が行われてはじめて価値を持ち利用可能になる。大規模データを効率よく集計・分析するツールとしてコンピューターが必要不可欠である。この授業では、これらのビッグデータを扱うデータサイエンスの分野の基礎として、前半はExcelとSPSSを活用してデータの集計・分析法、後半はAccessを用いてリレーショナルデータベースの基本について学ぶ。</p> <p>授業前半では、簡易なサンプルデータを用いてSPSSの基本技能を習得するとともに、Excelとの違いを理解し、それぞれの利点を生かして、どちらをどのように活用したらよいかについても触れていく。SPSSは広く使われる統計解析ソフトで一見難しそうだが、基本的な操作スキルを習得しコツをつかめば、データの有効な集計・分析が可能になる。学業だけでなく就活や社会に出るためのひとつの強みとなるはずである。</p> <p>授業後半では、業務などに広く利用されているMS Accessの操作を学びながらリレーショナルデータベースの概念と考え方を理解する。また、その基礎となるSQL (Structured Query Language) についても触れていく。データベースの学習では、新しい概念や考え方、用語や操作法などがたくさん出てくるが、できるだけイメージし易いように工夫して、初歩から平易にゆっくり授業を進める予定である。</p> <p>多くの学生が、卒業論文作成や将来の就業で多種多岐なデータの収集、集計や分析、表現が求められる現状を踏まえ、どの学科・学年の学生の履修も推奨する。</p>		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	<p>後期も自宅学習主体の遠隔型となったため、LMS (学習管理システム Learning Management System) manabaとオンライン会議システムZoomを活用します。Office (Word, Excel, PowerPoint, Access)がインストールされネットに接続されたWindowsパソコンの環境を整えてください。</p> <p>また、大学のパソコンに搭載されているSPSSは、自宅のパソコンからリモートで接続して利用することがあります。方法は授業が始まってから説明します。</p> <p>授業は、1コマの中で、適宜、時間を配分して、次のような方法で行います。</p> <p>(1)知識や方法伝達のための講義 (2)教科書の例題や配布資料にある課題などによる技能習得のための実習</p>		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<p>(1)ExcelデータをSPSSに読み込み、データの定義および編集・加工ができる (2)ExcelでもSPSSでも、データの基本的な集計と統計量の計算ができる (3)SPSSで、度数分布の算出や基本統計量の計算、平均値の差の比較、相関分析、クロス集計ができる (4)SPSSで出力した集計結果の表をExcelで加工し、目的に合わせて適切な表やグラフが作成できる (5)リレーショナルデータベースとは何かについて説明することができる (6)Accessを用いて、データベースを作成したり編集したりすることができる (7)Accessを用いて、データベースの基本操作(クエリー設定による並べ替えや抽出、リレーションの作成など)ができる</p>		
④	授業計画 (半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む) /Course Plan	<p>※遠隔授業となったため、SPSSは大学のコンピュータ演習室のパソコンにリモート接続して学びます。また、授業開始までに、大学のOffice365にサインインして「Officeのインストール」により、Microsoft Accessを自宅のパソコンにインストールしてください。</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 調査法およびデータ収集・分析の実際、統計技法の基礎知識 第3回 Excel・SPSSによるデータ分析①～データ入力と定義、編集・加工 第4回 Excel・SPSSによるデータ分析②～質的・量的データの記述統計～ 第5回 Excel・SPSSによるデータ分析③～平均値の比較と相関分析～ 第6回 Excel・SPSSによるデータ分析④～クロス集計とカイ2乗検定～ 第7回 リレーショナルデータベースとは何か？ 第8回 Accessの基本①～テーブル、検索、選択フィルター～ 第9回 Accessの基本②～フォームフィルタ、レコードの並べ替え、データの印刷～ 第10回 Accessの基本③～レコード・フィールドの追加、画像データの挿入、フォームの活用～ 第11回 Accessの基本④～テーブルの操作、選択クエリー、集計、さまざまなクエリー 第12回 Accessの基本⑤～レポートの印刷、マクロ、SQLとは？など～ 第13回 総合演習～テーブルの作成、フォームの設計、グラフ、レポートのデザイン～ 第14回 まとめ</p>		
⑦	成績評価の方法/Methods of Evaluation	演習課題、小テストと定期試験の得点、平常点で総合的に評価し、全体の60%以上達成を合格ラインとする。		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	事前学習としては、配布資料と教科書をよく読み次の授業の予習を必ず行うこと。事後学修としては、授業内で理解できなかった点を復習して解決し、さらに授業で出題された実習課題を実施して所定の期間で提出すること。新しい分野を学ぶため、しっかり予習と復習を行い、定着を心掛けてほしい。
使用テキスト/Text to be used	・教科書 30時間でマスター Access 2010 実教出版 1,143円＋税 ・随時配布する教材プリント
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業において、適宜、紹介する。
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	【履修のしかた】 ▲重要▲履修希望者は、下記をよく読むこと。 (1) 基礎情報処理レベルの情報機器の基本操作技能を習得していることが望ましい。 (2) この授業は、実習主体のため、積極的な授業参加を望む。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	共通科目（学科科目以外） https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000avo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html 大学院 https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.iwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kyoin_kamoku.pdf
授業形態の種類 ※必須	C

	授業科目名	情報科学基礎IV		
	Course Title	FOUNDATIONS OF INFORMATION SCIENCE 4		
	サブタイトル (任意)	Webデザインの基礎		
⑥	担当者名	久保進次		
	授業コード/Registration Code	134016901	開講キャンパス/Campus	西生田キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度後期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	2.0単位	年次/Year	2年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-D4-4-2-09-2		
③	授業の概要/Course Summary	<p>この科目の展開科目名および副専攻「情報メディアコース」の科目名は、< Webデザインの基礎 >である。</p> <p>インターネットはデスクトップコンピュータ、タブレット、携帯電話端末等を通じ、様々な情報の伝達に使われ日常生活に根ざしている。情報を受け取る形でインターネットを利用する事だけでなく、情報を発信する事もまたインターネットの利用の方法である。</p> <p>本授業は、インターネットの情報発信技術を学び、またwebページの企画・デザイン・制作を通じ、公開可能なwebページを作成し、インターネットで価値のある情報発信を経験する事を目的とする。 (希望により、グループでも個人でも、制作可能。)</p> <p>※授業で制作した作品は、基本的にはwebで公開します。学校や学部のプロモーションに使用されることもありますので、その点についてあらかじめご了承ください。 (「実務経験のある教員等による授業科目」対象科目)</p>		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	<p>Zoomを使用し、遠隔授業を実施します。 最新のHTML5CSS3を使用してwebの製作を行います。 今年の授業ではhtmlの作成にはVisual Studio Codeを主に使います。 各自ダウンロードインストールして準備しておいてください。 https://azure.microsoft.com/ja-jp/products/visual-studio-code/ 授業中に演習室のPCに全員が一斉にログインして作業することは難しいですが、別時間に個別にログインしてもらい、インストールされているソフトを使用し、素材の加工を行う事が可能です。 Manabaの掲示板を使い、作業の疑問点や質問に答えていきます。 詳しくは授業で説明します。 (1)ManabaのコースニュースでZoomの招待コードを配布。 (2)授業時間内でZoomによる講義・説明 (3)サイト企画・作成</p>		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・WEBサイトを自ら企画し、また、XHTML・CSS技術を利用しサイト作成ができる。 ・企画に従った情報の収集、整理、発信内容にそった、サイト構成・デザイン・制作ができる。 ・また製作したサイトの公開を通じて、企画した情報を発信する事ができる。 		
④	授業計画 (半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む) /Course Plan	<p>【新型コロナウイルス感染防止のため本実習授業は後期に変更されました】</p> <p>第1回: ガイダンス・基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Webサイトをつくらう! サイト企画作成ガイダンス ・ 情報発信とは? 何か目的を持ったサイトを作らう! ・ インターネットについて、それぞれの技術について ・ ドリームウィーバーについて <p>※ドリームウィーバーについて説明はしますが、2020年度の授業ではメインでは使用しません。</p> <p>第2回 基礎知識・実習(01)</p> <p>第3回 基礎知識・実習(02)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ HTMLタグ、文法について (文書情報、文字、画像、リンク) ・ 基本的なスタイルシート機能 (セレクトタ・フォント・色) ・ 構造タグ、スタイルシート、文字列、背景、リスト要素、角を丸くする、グラデーション <p>第4回 チュートリアル・実習(01)</p> <p>第5回 チュートリアル・実習(02)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Photoshopのスライス画像を使った作成チュートリアル。 ・ 基本構造要素、疑似セレクトタ、ナビゲーション ・ インライン要素、ブロック要素、インラインブロック要素 ・ 幅と高さ、マージン、パディング、ブロックのフロート、クリアフィックス <p>第6回 サイト制作実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企画、サイトマップ、スケルトン作成・グループ ・ スケジュールについて: プロダクトのリリースのための工程、ガントチャート、チケット <p>第7回 サイト制作実習</p> <p>第8回 サイト制作実習・振り返り</p>		

	<p>第9回 サイト制作実習 第10回 サイト制作実習 第11回 サイト制作実習 第12回 サイト制作実習・振り返り 第13回 サイト制作実習 第14回 まとめ・サイトリリース</p> <p>【概要】 初回ガイダンスから5回目までの実習でPhotoshopとDreamweaverを使ってHTMLを勉強する予定です。また、制作に入るまでのこの期間は、どのようなサイトを作るか企画するため下調べをする時期でもあります。 6回以降は実際の制作に入ります。 取材等を通じて素材をそろえ、原稿の執筆やデザインを作成し、制作を開始します。 制作はそれぞれの企画やスケジューリングによって、各々に工夫して行います。 制作の他にweb制作に役立つ情報をトピックとして少しずつ技術や知識の説明をしていきます。 期間中アジャイルによる「振り返り」を数回行い、それによってサイトリリースまでの作業のガイドとします。 授業では企画、デザイン、コーディング、サイト制作の為の学習や実作業を体験しますが「情報発信と言う目的」を持った「プロダクト」生み出す過程を通じて、社会と自分との関わりを体験する事も目的の一つです。</p> <p>【キーワード】 制作期間中に進行状況に応じ、知識や技術について説明を行います。 内容は以下のようなものです。 ◆サイト作成のための知識 ・何を伝えるか、誰に伝えるか、UXデザイン、ユーザビリティ ・サーチエンジン、SEOについて ◆webサービス他 ・Blog、SNS、Twitter等 ・コマースサイトについて（アマゾン、楽天、カラーミーショップ） ・アクセス解析（ページがどのように見られているのか） ◆技術応用知識 ・JavaScript ・CMSについてWordPress等 ・pukiwikiのセッティング・利用法 ◆振り返り 振り返りはアジャイルと言われる、プロジェクトマネジメントで使われるメソッドの一つです。 現状のK・P・T（keep、problem、try = よい事、問題、やってみる事）を挙げ、今後の作業について考えます。</p>
⑦ 成績評価の方法/Methods of Evaluation	主として提出物（制作したwebページ）を採点対象とする。
授業外学修（準備・事後学習等）に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	サイトマップ、スケルトン、スケジュールの作成（宿題） 作品の企画や素材収集など
使用テキスト/Text to be used	以下のページを参考にしてください。 また必要に応じて各時間用にプリントを配ります。 Webデザインの基礎 http://jwu-web.i-elements.net/ 授業制作ページ http://jwu3.i-elements.net/
参考書（参考資料等）/Reference Books	プリントを渡しますが、制作の必要に応じて一般的なhtmlの本を持っていても良いです。各種有るので書店で自分の制作に合ったものを選ぶのが良いです。
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	<p>・「情報と文化演習Ⅰ」等を既に受講している事が望ましい。あるいは、画像関係のソフト（フォトショップ・イラストレーター等のいずれか）の使用経験があること（Webデザインについては、初心者でもよい）。</p> <p>・webページ作成に興味があること。</p> <p>・フリー素材（イラスト・写真・音）などの利用を可能とする。各素材の著作権が示す内容と条件をよく理解し、著作権法を必ず守って利用すること。使用したフリー素材の配布元のサイトのリストを作品と同時に提出するが、サイトリストの公開方法については教員が提供する。</p> <p>・写真、イラスト、音声、フォント、文章などで、使用したい素材がある場合は各自で用意する。フリー素材の使用も可能だが作者のオリジナリティーを出す事ができればなお良い。</p> <p>・一般公開可能な価値のあるwebサイトの作成を目指してほしい。</p> <p>・履修登録希望者は、第1回授業に、必ず出席すること。</p> <p>「副専攻：情報メディアコースについて」</p> <p>1)本科目は、心理学科目であるとともに、「副専攻：情報メディアコース - Webデザインの基礎」でもある。</p> <p>2)本科目の他に「副専攻：情報メディアコース」の「基礎領域」「システム・メディア領域」の各科目を履修することで、総合的なWebや画像処理技術が、履修者の学科を問わず習得可能である。</p>
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	<p>共通科目（学科科目以外） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp49000000ayo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf</p> <p>学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html</p>

	大学院 https://unv.iwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照）	「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kyoin_kamoku.pdf
授業形態の種類 ※必須	C

	授業科目名	コンピュータライゼーションと現代の諸問題		
	Course Title	COMPUTERIZATION AND CURRENT TOPICS		
	サブタイトル (任意)			
⑥	担当者名	久東光代		
	授業コード/Registration Code	134017001	開講キャンパス/Campus	西生田キャンパス
	開講年度学期/Academic Year, Semester	2020年度後期	開講期・授業区分/Class Category	週間授業
⑤	単位数/Credits	1.0単位	年次/Year	1年
	ナンバリング/Course Numbering	POI-D4-4-1-05-1		
③	授業の概要/Course Summary	<p>この科目は、3年生以上で副専攻「情報メディアコース」の履修者には必修科目であるが、展開科目として、1年生以上の誰でも履修することができる。2020年度は、後期月曜3限に開講する。</p> <p>現代社会は情報化が進み、現代人の活動は、政治、経済、科学、文化・芸術、そして日常生活にいたるまで、「ICT (情報通信技術)」「デジタル」「情報メディア」という言葉抜きで語ることはできない。これらはすでに、私たちの行動だけでなく思考の奥深くまで入り込んでいる。また、人間の活動を支援するために生まれてきたものであるが、その半面、われわれ人間がICTに使われ、支配されてしまう可能性も少なくない。</p> <p>この授業では、情報化の進展がもたらすさまざまな成果と課題に正面から向き合い、議論を重ねて、多様な視点で掘り下げた機会を持ちたいと思う。</p> <p>この授業は後期1単位の科目で、計7回実施する。他の授業と異なる特徴として、学外から4名のゲストスピーカーをお迎えし、各1回ずつ計3回、ご講演いただき、ご講演後は質疑応答を行う。コーディネーターを務める久東光代 (心理学科) が残りの3回で、オリエンテーションと講演に関する事前学習、最後の授業では、それぞれの講演内容を踏まえ、履修者同士、学び取った成果を発表する。</p> <p>以上の授業形態で進めるが、単に学術的な知識を身につけるだけでなく、実践的な生の体験に接することを目指している。</p>		
②	授業の方法/Course Approaches or Methods	<p>自宅学習主体の遠隔型授業のため、ゲストスピーカーによる講演は、Zoomで行う予定である。また、Web上でアクセスするLMS (学習管理システム Learning Management System) manabaを活用し、事前学習 (ご講演に対する質問を考えるなど) と講演の成果や感想の共有を行う。</p> <p>また、授業の最後 (第7回) では、Zoonにより、受講者全員にご講演の振り返りと成果発表を目的としたプレゼンテーションを実施する。</p>		
	学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	大学 DP3		
①	授業の到達目標/Course Goals	<p>(1) 情報化社会、ICT (情報通信技術)、ネット、情報メディア、人工知能などに関する現状と問題点を把握することができる。</p> <p>(2) 講演内容を、各自の学業、キャリア形成、将来の社会生活の希望や展望に結び付けて聞き、理解することができる。</p> <p>(3) 事前学習やレポート課題、発表活動などを通じて、自分の理解内容や考えを人に分かるよう適切に表現できる。</p>		
④	授業計画 (半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む) /Course Plan	<p>この授業では、情報メディア関連で各界で活躍しているゲストスピーカーをお招きし、講演会を4回 (うち2回は人間社会学部卒業生)、行う。また、その他に、授業担当者による講演に関わる事前・事後学習を3回、実施する。</p> <p>2020年度は、企業からは異なる視点でロボット開発に従事している方々、卒業生からは少女漫画家の方とゲームのキャラクターデザイナーの方を予定している。</p> <p>1. 9月21日 (月) オリエンテーション 担当: 久東 2. 10月5日 (月) ゲストスピーカーによる講演 第1回 (株) シャープ・ロボホン開発企画・開発チームリーダー 景井美帆氏 「(仮) ロボホンはどのように生まれたか?」</p> <p>3. 10月26日 (月) ゲストスピーカーによる講演 第2回 少女漫画家・人間社会学部卒業生 立木麻耶 (立樹まや) 氏 「人間社会学部を謳歌した結果、少女漫画家になりました」</p> <p>4. ゲストスピーカーによる講演 第3回 (株) 11月16日 (月) オリイ研究所 常田剛生氏 「(仮) 分身ロボットによる社会参加」</p> <p>5. 12月7日 (月) ゲストスピーカーによる講演 第4回 (株) ミクシー・「モンスターストライク」イラストチーム・文化学科卒業生 内藤真代氏 「(仮) 仕事と趣味をとことん極める! ~モンスターイラストチームから趣味のアメコミまで~」</p> <p>6. 12月14日 (月) 成果に関するグループ討議・成果報告会の準備 担当: 久東 7. 12月21日 (月) まとめ (成果報告会を予定) 担当: 久東</p> <p>※講演の正式なタイトルと内容の詳細、3~6のゲストスピーカーの講演日程などについては、次のWebに掲載するので確認すること。 ・この授業のWebhttp://mcn-www.iwu.ac.jp/~kuto/2020/comp/ ※詳細は9月21日 (月) の第1回の授業のオリエンテーションでも説明する。</p>		
⑦	成績評価の方法/Methods of Evaluation	<p>(1) 講演毎に、Web上のLMS manaba に提出した小レポートの提出状況 40%</p> <p>(2) Web学習管理システム上でのディスカッションへ参加の度合い 30%</p> <p>(3) 最終課題 (発表プレゼンを予定) 30%</p>		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	事前準備としては、各ご講演者の情報を紹介するWebや書籍などで調べ、小レポートを提出する。また、事後学習としては、それぞれのご講演内容から得た成果を、毎回、小レポートを作成し提出し、最終課題の発表資料作成時にまとめられるようにする。
使用テキスト/Text to be used	(1)講演者より指定された資料 (2)情報関連授業専用Web： http://mcn-www.jwu.ac.jp/~info-edu/ (3)manabaのこの授業のコースニュース
参考書（参考資料等）/Reference Books	各ご講演者から紹介される資料・Web
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	(1) 1回目の授業で、この授業のオリエンテーションを行うので、授業予定（計7回）、授業目的などをよく把握すること。 (2) この授業は出席を重視する。また、積極的な授業参加と講演者への質問などの発言を望む。
学位授与方針（※参照）/Diploma Policy	共通科目（学科科目以外） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000ayo-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 学科科目（各学科カリキュラム・ツリーより参照してください） https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/curriculum.html 大学院 https://unv.jwu.ac.jp/unv/about/information/ilcp490000000b0m-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照）	「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表 https://unv.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ilcp4900000082x1-att/kvoin_kamoku.pdf
授業形態の種類 ※必須	C

□ 2020 □

履修の手引き

日本女子大学
JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY

家 政 学 部

文 学 部

理 学 部

基礎科目 情報処理

家政学部、文学部、理学部の1年次学生を対象とする必修科目として、情報科学および情報処理に関する基礎的な知識を講義と実習を組み合わせで習得します。Windows の環境でデータ処理を行える能力を養うとともに、情報処理やコンピュータのハード・ソフト、ネットワーク、情報セキュリティー等の基礎的な概念と情報倫理も合わせて学習し、情報化時代に必要な知識を身につけます。

- 情報処理は、2015 年度以前入学の理学部の学生は履修できません。
- 基礎情報処理は家政学部、文学部、2016 年度以降入学の理学部の必修科目です。反復履修不可。
1 クラスしか履修できません。前期・後期を問わず前期始業時にクラス指定を行います。
ただし、4 年次前期に必修単位分を修得できなかった場合に限り、後期に追加登録できます。
- 人数調整することがあるので、掲示等に注意してください。
- 理学部の学生は、所属学科のクラスを履修しなければなりません。
- 家政学部、文学部の学生は、理学部のクラスを履修できません。

情報処理 授業科目表

系列	授業科目名	単位数	期	開講年次	担当者	備考
	基礎情報処理	必2	前(後)	1	小川賀代 倉光君郎 中島徹 長谷川治久 横田裕介 赤澤紀子 大野慶祐 小柴健史 杉岡幸次 藤田智子 渡邊洋平 兼子裕大 尺長健	
	応用情報処理	選2	前(後)	2~	横田裕介 望月義彦	「基礎情報処理」履修後 でなければ履修不可 ☆

□ 2020 □

履修の手引き

日本女子大学
JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY

人間社会学部

展開科目

1 ねらい

人間社会学部における学びの特徴は、5つの学科が有機的にむすびついていることにより、人間・社会・文化を総合的に学べるところにあります。その特徴を最大限にいかすためには、入学時点から学部学生共通の基盤となるような基本的知識や技術を身につける必要があります。展開科目はそのような共通基盤を身につけると共に、自己の教養をさらに深め発展させることを目的とした科目です。この科目の修得を通じて、「人間社会学部で学ぶとは何か」を感じてもらえればと思います。

2 特徴

人間社会学部の展開科目は学部で学ぶ特徴を最大限にいかすため、入門的位置づけにとどまることなく、今日的话题について、専門領域から複眼的に見つめることができるよう整えられています。ここでは、グローバルな見方を身につける一方で、生活に密着した知識の展開も要求されます。また、学問を理性的枠組みだけからとらえるのではなく、自己の感性を磨くことで、まったく新しい「知」の確立を目指してもらいたいという願いがあります。そのために、3つの領域に実践的な科目が設けられているのが特徴です。

3 3つの領域

展開科目は以下の3つの領域に分かれ、人文科学、社会科学、自然科学にまたがる最近の学問領域をバランスよく学べるように構成されています。また、それぞれの領域には講義科目だけでなく、領域で得られた知識をさらに深めるための体験的な科目が設けられています。

<地球市民をめざして-人間と社会>

政治・経済・宗教・教育・環境・文化・歴史、これらの人間と社会の営みを考えるとき、地球規模で出来事が進む現代という次元においては、自分の周りを眺めるというよりは、時間的にも空間的にも俯瞰できるような視点が必要となるでしょう。一市民であると同時に地球市民でありたいという自覚で学んでみたら見えることも変わってくるかもしれません。

<よき生を求めて-人間と生活>

私たちの知識は、生きる営みと無関係ではありえません。知識は単に集積されるだけではなく、生活と結びついてはじめて教養というものになります。法律、福祉、人権、こころとからだ、そしてその健康、あらゆる「知識」は「からだ」を通してさらに大きな生きる力になるでしょう。

<知と感性を磨く-人間と知>

人間はその歴史の中で、哲学と科学をとおして世界を論理的に組み立てなおしてきました。そして、それを人間の「知」の対象としてきたのです。生命科学の進歩はヒトと動物の境界を取りはらい、コンピュータの精緻化と小型化は脳と機械の併存を可能にしまいました。人間中心の合理性を超えて理解しなければならなくなった現代の人間の知は、理性的、論理的な枠組みだけでなく、感性的、直感的な世界から組み直される必要が出てきたといえます。ここでは、科学も数学も文学も演劇も美学も音楽もフォークロアの世界も融合して、人間の知を探求します。

2020年度 <知と感性を磨くー人間と知>授業科目表

提供 学科	展開科目	授業科目名	単 位 数	期	開講 年次	担当者名	備 考	展開科目に ならない学科	
心理	講義科目	科学の歴史Ⅰ	科学Ⅰ	2	前期	1～	関根崇泰 茂木健一郎 石川 哲朗		
		科学の歴史Ⅱ	科学Ⅱ	2	後期	1～	恩蔵絢子 茂木健一郎 小俣圭		
		生命を科学するⅠ	生命科学Ⅰ	2	前期	1～	齋藤 理佳		
		生命を科学するⅡ	生命科学Ⅱ	2	後期	1～	齋藤 理佳		
		コンピュータと人間	情報と倫理	2	前期	1～	久東 光代	隔年 2020年度休講	
		コンピュータのしくみ	情報科学基礎Ⅰ	2	後期	1～	鳥海 有紀		
		コンピュータライゼーションと現代の諸問題	コンピュータライゼーションと現代の諸問題	1	後期	1～	久東 光代	☆	
		色の世界・形の世界Ⅰ	知覚・認知心理学Ⅰ	2	前期	2～	竹内 龍人	2018年度入学者より履修可	心理
			基礎心理学概説・2-Ⅰ	2	前期	2～	竹内 龍人	2017年度入学者まで履修可	心理
		色の世界・形の世界Ⅱ	視覚心理学	2	後期	2～	竹内 龍人	2018年度入学者より履修可 ①	心理
			基礎心理学概説・2-Ⅱ	2	後期	2～	竹内 龍人	2017年度入学者まで履修可 ①	心理
		こころの行動学	学習・言語心理学Ⅰ	2	前期	2～	伊村 知子	2018年度入学者より履修可	心理
			基礎心理学概説・3-Ⅰ	2	前期	2～	伊村 知子	2017年度入学者まで履修可	心理
		こころの進化	比較発達心理学	2	後期	2～	伊村 知子	2018年度入学者より履修可	心理
			基礎心理学概説・5-Ⅱ	2	後期	2～	伊村 知子	2017年度入学者まで履修可	心理
		子どもの発達	発達心理学Ⅰ	2	前期	2～	麦谷 綾子	2018年度入学者より履修可 ①	心理
	基礎心理学概説・6-Ⅰ		2	前期	2～	麦谷 綾子	2017年度入学者まで履修可 ①	心理	
	子どものことば	学習・言語心理学Ⅱ	2	後期	2～	麦谷 綾子	2018年度入学者より履修可 ①	心理	
		基礎心理学概説・8	2	後期	2～	麦谷 綾子	2017年度入学者まで履修可 ①	心理	
	精神分析学	教育・学校心理学	2	前期	3・4	青木 みのり	2018年度入学者より履修可 ①	心理	
		臨床心理学・Ⅳ	2	前期	3・4	青木 みのり	2017年度入学者まで履修可 ①	心理	
	ことばとひと	神経・生理心理学Ⅱ	2	後期	2～	金沢 創	2018年度入学者より履修可 ①	心理	
		基礎心理学概説・1-Ⅱ	2	後期	2～	金沢 創	2017年度入学者まで履修可 ①	心理	
	体験科目	パソコンの基礎・基本	情報処理基礎Ⅰ	2		1～		閉講	
			基礎情報処理	2	前(後)	1～	前期: 久東 光代 佐藤 夏月 高橋 まどか 星名 由美 後期: 久東 光代 渡辺 美紀 高橋 まどか	△○ 「情報処理基礎Ⅰ」または「情報処理基礎Ⅱ」の単位取得者は履修不可	
		コンピュータと情報活用	情報処理基礎Ⅱ	2		1～		閉講	
プレゼン理論と実際		情報科学基礎Ⅱ	2	後期	2～	佐藤 夏月	△ 2017年度入学者までは「情報処理基礎Ⅰ」または「情報処理基礎Ⅱ」の単位取得者が望ましい		
データ分析とレポート表現	情報科学基礎Ⅲ	2	前期	2～	久東 光代	△ 2017年度入学者までは「情報処理基礎Ⅰ」または「情報処理基礎Ⅱ」の単位取得者が望ましい			

提供 学科		展開科目	授業科目名	単位 数	期	開講 年次	担当者名	備 考	展開科目に ならない学科
心理	体験科目	WebとCGI	情報科学基礎Ⅳ	2	前期	2～	久保 進次	△ 2017年度入学者までは「情報処理基礎Ⅰ」または「情報処理基礎Ⅱ」の単位取得者が望ましい	
		ICT活用とプロジェクト演習	ICT活用とプロジェクト演習	4	通年	1～	久東 光代 星名 由美	△	
		教養実践演習	教養実践演習	2	後期	1～	清水 将吾	○ 目白地区開講	
文化	講義科目	人間と知Ⅰ	哲学の探求Ⅰ	2	前期	1～	田中 久文	☆ ○	
		人間と知Ⅱ	哲学の探求Ⅱ	2	後期	1～	田中 久文	☆ ○	
		文学を楽しむⅠ	文学を楽しむⅠ	2	前期	1～	鈴木 貴子		
		文学を楽しむⅡ	文学を楽しむⅡ	2	後期	1～	鈴木 貴子		
		文学を考えるⅠ	文芸論Ⅰ	2	前期	1～		隔年 2020年度休講	
		文学を考えるⅡ	文芸論Ⅱ	2	後期	1～	武藤 純子	☆ 隔年	
		美学Ⅰ	美学Ⅰ	2	前期	1～	木村 覚		
		美学Ⅱ	美学Ⅱ	2	後期	1～	木村 覚		
		映像と文化Ⅰ	映像と文化Ⅰ	2	前期	1～	川崎 公平		
		映像と文化Ⅱ	映像と文化Ⅱ	2	後期	1～	川崎 公平		
		フォークロアの世界	民俗学Ⅰ	2	前期	2～	室井 康成		文化
		音楽とは何かⅠ	音楽論Ⅰ	2	前期	2～	奥波 一秀		① 文化
		音楽とは何かⅡ	音楽論Ⅱ	2	後期	2～	奥波 一秀		① 文化
		文化交流史Ⅰ	文化交流史Ⅰ	2	後期	2～	糸 和沙		文化
文化交流史Ⅱ	文化交流史Ⅱ	2	後期	2～	手塚 恵美子		文化		

展
開

□ 2021 □

履修の手引き

日本女子大学
JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY

家 政 学 部

文 学 部

人 間 社 会 学 部

理 学 部

基礎科目 情報処理 (2021年度入学者より)

1年次学生を対象とする必修科目として、情報科学および情報処理に関する基礎的な知識を講義と実習を組み合わせで習得します。Windows の環境でデータ処理、簡単なプログラミングを行える能力を養うとともに、コンピュータのハード・ソフト、ネットワーク、情報セキュリティ等の基礎的な概念と情報倫理も併せて学習し、情報化時代に必要な AI、IoT などの知識も身につけます。

- 基礎情報処理は全学部の必修科目です。反復履修不可。1 クラスしか履修できません。
前期・後期を問わず前期始業時にクラス指定を行います。ただし、4年次前期に必修単位分を修得できなかった場合に限り、後期に追加登録できます。
- 人数調整することがあるので、掲示等に注意してください。
- 理学部の学生は、所属学科のクラスを履修しなければなりません。
- 家政学部、文学部、人間社会学部の学生は、理学部のクラスを履修できません。

情報処理 授業科目表

系列	授業科目名	単位数	期	開講年次	担当者	備考
必修科目	基礎情報処理	必2	前(後)	1~	小川賀代 長谷川治久 尺長健 倉光君郎 横田裕介 中島徹 佐藤夏月 兼子裕大 小柴健史 大野慶祐 藤田智子 杉岡幸次 渡辺美紀 渡邊洋平 向井香瑛 星名由美	前期1クラスは2021年度休講
選択科目	データサイエンス入門	選2	前期	2~		2021年度休講 「基礎情報処理」履修後でなければ履修不可
	AI入門	選2	後期	2~		2021年度休講 「基礎情報処理」履修後でなければ履修不可
	ICT活用I	選2	前期	2~		2021年度休講 「基礎情報処理」履修後でなければ履修不可
	ICT活用II	選2	前期	2~		2021年度休講 「基礎情報処理」履修後でなければ履修不可
	ICT活用III	選2	前期	2~		2021年度休講 「基礎情報処理」履修後でなければ履修不可
	ICT活用IV	選2	後期	2~		2021年度休講 「基礎情報処理」履修後でなければ履修不可
	ICT活用V	選2	前期	2~		2021年度休講 「基礎情報処理」履修後でなければ履修不可
	ICT活用VI	選2	前期	2~		2021年度休講 「基礎情報処理」履修後でなければ履修不可

基礎科目 情報処理 (家政・文・理学部 2020 年度入学者まで)

2020 年度までに入学した家政学部、文学部、理学部の学生を対象とする必修科目として、情報科学および情報処理に関する基礎的な知識を講義と実習を組み合わせることで習得します。Windows の環境でデータ処理を行える能力を養うとともに、情報処理やコンピュータのハード・ソフト、ネットワーク、情報セキュリティー等の基礎的な概念と情報倫理も合わせて学習し、情報化時代に必要な知識を身につけます。

- 情報処理は、2015 年度以前入学の理学部の学生は履修できません。
- 基礎情報処理は家政学部、文学部、2016 年度以降入学の理学部の必修科目です。反復履修不可。
1 クラスしか履修できません。前期・後期を問わず前期始業時にクラス指定を行います。
ただし、4 年次前期に必修単位分を修得できなかった場合に限り、後期に追加登録できます。
- 人数調整することがあるので、掲示等に注意してください。
- 理学部の学生は、所属学科のクラスを履修しなければなりません。
- 家政学部、文学部の学生は、理学部のクラスを履修できません。
- 2020 年度まで開講の「応用情報処理」で扱っていたテーマは、2021 年度開講の新設科目に含まれています。応用情報処理の履修を希望されていた方は、それぞれのシラバス内容を確認した上で、以下の新設科目を履修してください。
「データサイエンス入門」、「AI 入門」、「ICT 活用Ⅰ」、「ICT 活用Ⅱ」、「ICT 活用Ⅲ」、「ICT 活用Ⅳ」、
「ICT 活用Ⅴ」、「ICT 活用Ⅵ」

情報処理 授業科目表

系列	授業科目名	単位数	期	開講 年次	担当者	備考
必修科目	基礎情報処理	必 2	前(後)	1~	小川賀代 長谷川治久 尺長健 倉光君郎 横田裕介 中島徹 佐藤夏月 兼子裕大 小柴健史 大野慶祐 藤田智子 杉岡幸次 渡辺美紀 渡邊洋平 向井香瑛 星名由美	前期 1 クラスは 2021 年度休講
	データサイエンス入門	選 2	前期	2~	望月義彦	「基礎情報処理」履修後でなければ履修不可
選択科目	AI 入門	選 2	後期	2~	倉光君郎	「基礎情報処理」履修後でなければ履修不可
	ICT 活用Ⅰ	選 2	前期	2~	久保進次	「基礎情報処理」履修後でなければ履修不可
	ICT 活用Ⅱ	選 2	前期	2~	佐藤夏月	「基礎情報処理」履修後でなければ履修不可
	ICT 活用Ⅲ	選 2	前期	2~	鳥海有紀	「基礎情報処理」履修後でなければ履修不可
	ICT 活用Ⅳ	選 2	後期	2~	星名由美	「基礎情報処理」履修後でなければ履修不可
	ICT 活用Ⅴ	選 2	前期	2~		2021 年度休講 「基礎情報処理」履修後でなければ履修不可
	ICT 活用Ⅵ	選 2	前期	2~		2021 年度休講 「基礎情報処理」履修後でなければ履修不可

展開科目 (人間社会学部 2020 年度入学者まで)

1 ねらい

人間社会学部における学びの特徴は、5つの学科が有機的にむすびついていることにより、人間・社会・文化を総合的に学べるところにあります。その特徴を最大限にいかすためには、入学時点から学部学生共通の基盤となるような基本的知識や技術を身につける必要があります。展開科目はそのような共通基盤を身につけると共に、自己の教養をさらに深め発展させることを目的とした科目です。この科目の修得を通じて、「人間社会学部で学ぶとは何か」を感じてもらえればと思います。

2 特徴

人間社会学部の展開科目は学部で学ぶ特徴を最大限にいかすため、入門的位置づけにとどまることなく、今日的话题について、専門領域から複眼的に見つめることができるよう整えられています。ここでは、グローバルな見方を身につける一方で、生活に密着した知識の展開も要求されます。また、学問を理性的枠組みだけからとらえるのではなく、自己の感性を磨くことで、まったく新しい「知」の確立を目指してもらいたいという願いがあります。そのために、3つの領域に実践的な科目が設けられているのが特徴です。

3 3つの領域

展開科目は以下の3つの領域に分かれ、人文科学、社会科学、自然科学にまたがる最近の学問領域をバランスよく学べるように構成されています。また、それぞれの領域には講義科目だけでなく、領域で得られた知識をさらに深めるための体験的な科目が設けられています。

<地球市民をめざして - 人間と社会>

政治・経済・宗教・教育・環境・文化・歴史、これらの人間と社会の営みを考えるとき、地球規模で出来事が進む現代という次元においては、自分の周りを眺めるというよりは、時間的にも空間的にも俯瞰できるような視点が必要となるでしょう。一市民であると同時に地球市民でありたいという自覚で学んでみたら見えることも変わってくるかもしれません。

<よき生を求めて - 人間と生活>

私たちの知識は、生きる営みと無関係ではありえません。知識は単に集積されるだけではなく、生活と結びついてはじめて教養というものになります。法律、福祉、人権、こころとからだ、そしてその健康、あらゆる「知識」は「からだ」を通してさらに大きな生きる力になるでしょう。

<知と感性を磨く - 人間と知>

人間はその歴史の中で、哲学と科学をとおして世界を論理的に組み立てておしてきました。そして、それを人間の「知」の対象としてきたのです。生命科学の進歩はヒトと動物の境界を取りはらい、コンピュータの精緻化と小型化は脳と機械の併存を可能にしていきました。人間中心の合理性を超えて理解しなければならなくなった現代の人間の知は、理性的、論理的な枠組みだけでなく、感性的、直感的世界から組み直される必要が出てきたといえます。ここでは、科学も数学も文学も演劇も美学も音楽もフォークロアの世界も融合して、人間の知を探求します。

各学科の履修方法はつぎのとおりです。

学 科	単位数	履 修 方 法
現代社会学科	26単位	3つの領域から自由に選択 ただしよき生を求めて一人間と生活>領域の社会スポーツ実習2単位を必ず含めること。
社会福祉学科	22単位	3つの領域からそれぞれ3科目以上6単位を履修。残りの4単位はすべての領域から自由に選択。
教 育 学 科	22単位	<よき生を求めて一人間と生活>領域の社会スポーツ実習2単位を含め、3つの領域からそれぞれ6単位を履修。残りの4単位はすべての領域から自由に選択。
心 理 学 科	30単位	<よき生を求めて一人間と生活>領域の社会スポーツ実習2単位を含め、3つの領域からそれぞれ6単位を履修。残りの12単位はすべての領域から自由に選択。
文 化 学 科	22単位	体験科目を除き3つの領域からそれぞれ6単位を履修。 残りの4単位は3つの領域から自由に選択(体験科目を含めてもよい)。

注意点

“展開科目にならない学科欄”に学科名が入っている場合、その学科の学生は展開科目として履修できません。学科専門科目として履修することになります。

※2021年度以降の注意点

2021年度以降に展開科目を履修する場合は、以下の点に注意して履修してください。展開科目を履修する場合は、各展開科目表を確認するとともに、必ず欄外の注意事項を確認した上で履修してください。

① 展開科目（人間社会学部共通）

2020年度までに開講されていた展開科目のうち、2020年度までに入学した人間社会学部の学生のうちほぼ全員が、展開科目として共通して履修することができた科目です。2020年度以降は、原則として閉講となりますが、一部の科目は引き続き開講される科目があります。

2020年度までに入学した人間社会学部の学生が、2021年度以降開講される科目を履修する場合、引き続き展開科目として履修することができます。

② 展開科目（学科専門提供科目）

2020年度までに開講されていた展開科目のうち、各学科専門科目から提供された展開科目です。各科目の開講状況・履修方法は、提供学科の授業科目表等に従ってください。

2020年度までに入学した人間社会学部の学生が、2021年度以降に開講されている科目を履修する場合、引き続き展開科目として履修することができます。履修にあたっては、必ず提供学科の授業科目表・時間割・講義概要（シラバス）等を確認した上で履修してください。

授業科目表のうち、「展開科目にならない学科欄」に学科名が入っている場合、その学科の学生は展開科目として履修できず、学科専門科目として履修することになりますので注意してください。

③ 展開科目（教養）（2021年度以降開講の教養科目と共通）

2020年度までに入学した人間社会学部の学生が、2021年度以降に展開科目として履修できる科目です。2021年度以降開講の「教養科目」と原則として共通となります。2021年度以降に履修した場合は、次のとおり展開科目として参入されます。

- ・2020年度までに入学した人間社会学部の学生が、2021年度入学者より適用の教養科目A系列「多様な社会と人間の尊厳」の科目を履修した場合、展開科目<地球市民をめざして一人間と社会>の科目を履修したものとみなします。
 - ・2020年度までに入学した人間社会学部の学生が、2021年度入学者より適用の教養科目B系列「自然の摂理の探求」の科目を履修した場合、展開科目<よき生を求めて一人間と生活>の科目を履修したものとみなします。
 - ・2020年度までに入学した人間社会学部の学生が、2021年度入学者より適用の教養科目C系列「知性と文化の系譜」の科目履修した場合、展開科目<知と感性を磨く一人間と知>の科目を履修したものとみなします。
- なお、2020年度までの単位修得状況により、一部の科目を履修できない場合があります（科目表の欄外の注意事項を必ず確認すること）。

④ 展開科目（身体運動） （2021年度以降開講の身体運動科目と一部共通）

身体運動関連科目のうち、2020年度までに入学した人間社会学部の学生が、2021年度以降に展開科目（一部除外あり）として履修できる科目です。

ただし、「身体運動Ⅱa」「身体運動Ⅱb」「身体運動Ⅱc」「身体運動論」「身体運動演習a」「身体運動演習b」を履修した場合は、各学科が定める範囲において自由選択科目に算入されます（詳細は卒業要件単位の項を参照）。

なお、履修については履修上の注意事項等を必ず確認すること。

⑤ 展開科目（情報処理） （2021年度以降開講の情報処理科目と一部共通）

情報処理関連科目のうち、2020年度までに入学した人間社会学部の学生が、2021年度以降に展開科目（一部除外あり）として履修できる科目です。

ただし、「データサイエンス入門」「A I入門」「ICT活用Ⅰ」「ICT活用Ⅱ」「ICT活用Ⅲ」「ICT活用Ⅳ」「ICT活用Ⅴ」「ICT活用Ⅵ」を履修した場合、各学科が定める範囲において自由選択科目に算入されます（詳細は卒業要件単位の項を参照）。

展開科目(情報処理) 授業科目表(人間社会部 2020年度入学者まで)

系列	授業科目名	単位数	期	開講年次	担当者	備考
選択科目	基礎情報処理	選2	前期	1～	星名由美	2020年度人間社会学部入学者まで展開科目 2017年度まで開講の「情報処理基礎Ⅰ」または「情報処理基礎Ⅱ」の単位取得者は履修不可 (展)
	情報科学基礎Ⅰ	選2		1～		閉講 2020年度人間社会学部入学者まで展開科目
	情報科学基礎Ⅱ	選2		2～		閉講 2020年度人間社会学部入学者まで展開科目
	情報科学基礎Ⅲ	選2		2～		閉講 2020年度人間社会学部入学者まで展開科目
	情報科学基礎Ⅳ	選2		2～		閉講 2020年度人間社会学部入学者まで展開科目
	ICT活用とプロジェクト演習	選2		1～		閉講 2020年度人間社会学部入学者まで展開科目
	情報と倫理	選2		1～		閉講 2020年度人間社会学部入学者まで展開科目
	コンピュータライゼーションと現代の諸問題	選2		1～		閉講 2020年度人間社会学部入学者まで展開科目
	データサイエンス入門	選2	前期	2～	望月義彦	「基礎情報処理」履修後でなければ履修不可 家政・文・理学部 2020年度入学者まで適用の「データサイエンス入門(仮)」と共通
	AI入門	選2	後期	2～	倉光君郎	「基礎情報処理」履修後でなければ履修不可 家政・文・理学部 2020年度入学者まで適用の「AI入門(仮)」と共通
	ICT活用Ⅰ	選2	前期	2～	久保進次	「基礎情報処理」履修後でなければ履修不可 家政・文・理学部 2020年度入学者まで適用の「ICT活用Ⅰ」と共通
	ICT活用Ⅱ	選2	前期	2～	佐藤夏月	「基礎情報処理」履修後でなければ履修不可 家政・文・理学部 2020年度入学者まで適用の「ICT活用Ⅱ」と共通
	ICT活用Ⅲ	選2	前期	2～	鳥海有紀	「基礎情報処理」履修後でなければ履修不可 家政・文・理学部 2020年度入学者まで適用の「ICT活用Ⅲ」と共通
	ICT活用Ⅳ	選2	後期	2～	星名由美	「基礎情報処理」履修後でなければ履修不可 家政・文・理学部 2020年度入学者まで適用の「ICT活用Ⅳ」と共通

系列	授業科目名	単位数	期	開講年次	担当者	備考
選択科目	ICT活用V	選2		2～		2021年度休講 「基礎情報処理」履修後でなければ履修不可 家政・文・理学部2020年度入学者まで適用の「ICT活用V」と共通
	ICT活用VI	選2		2～		2021年度休講 「基礎情報処理」履修後でなければ履修不可 家政・文・理学部2020年度入学者まで適用の「ICT活用VI」と共通

履修上の注意

- 「基礎情報処理」は展開科目<知と感性を磨く一人間と知>の科目として算入される。
- 2017年度まで開講の「情報処理基礎Ⅰ」または「情報処理基礎Ⅱ」を履修した場合は、展開科目<知と感性を磨く一人間と知>の科目として算入される。
- 「基礎情報処理」以外の科目を履修した場合は、各学科が定める範囲において、卒業要件単位の自由選択科目として算入する。
- 人数調整することがあるので、掲示等に注意してください。

情報処理委員会内規

(職掌)

第1条 大学執行部会議の下に基盤教育センター（以下「センター」という。）を置き、センターの下に情報処理委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、執行部の方針を踏まえた次の運営を行う。

(1) 委員会は、情報処理科目の新設・改廃・授業科目表の編成について立案し、大学執行部会議に提案する。

(2) 委員会は、情報処理科目の教員人事について立案し、大学執行部会議に提案する。

(3) 情報処理科目予算の執行については、情報処理委員会において審議決定する。

(4) 必要に応じて、他の委員会と連絡を取り、授業科目の内容等についての検討・調整を行う。

3 委員会は、執行部の方針を踏まえ、全学的な視野に立って、本学の情報処理教育の長期的な基本方針の策定を行う。

(委員長)

第2条 委員長は、専任教員の中からセンター長が指名し、大学執行部会議で決定する。

2 委員長は、専門委員又は学部委員となる。

(構成)

第3条 委員会は、大学執行部会議で決定した委員構成、人数に基づき、専門委員及び学部委員又はそのいずれかで構成する。

2 専門委員は、センター長及び委員長によって選出される。

3 学部委員は、学部長によって選出される。

4 委員会には、センター長も出席することができる。

5 委員長は、必要に応じて委員以外の教職員に対して委員会への出席を要請することができる。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、原則として専門委員3年、学部委員は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員の任期の途中で交代が生じた場合は、センター長と委員長で相談の上、後任委員を選出する。後任委員の任期は、前任者の残任任期とする。また、再任は妨げない。

(委員会の招集と運営)

第5条 委員長は、委員会を招集し議長となる。

2 委員会は、過半数(委任状を含む。)の出席をもって成立する。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決する。可否同数の場合は、議長の決するところによる。

(報告)

第6条 委員会の審議結果は、センター長へ報告する。

(事務)

第7条 委員会に関する事務は、学務部学修支援課が行う。

(改廃)

第8条 この内規の改廃は、大学執行部会議の議を経て、学長が決定する。

附則

この内規は、2021年4月1日から施行する。

2021年度委員会体制について

2021年度体制

2021年度以降案														
カテゴリー	委員会名	委員長	専門委員					学部委員				人数	備考	
			家	文	理	人社	附属機関等	家	文	理	人社			通信教育課程
JWU女子高等教育センター 【センター長：和賀祥教授（物生）】	FD推進、 IR推進、 ICT教育 等	和賀祥教授（物生） 【FD推進担当】	佐藤克志 (住居)	加藤玄 (史)	和賀祥 (物生)	黒岩亮子 (社福)							専門委員 6名	
		佐藤克志教授（住居） 【IR推進担当】	類田春華 (家経)		長谷川治久 (数物)									
		長谷川治久教授（数物） 【ICT教育担当】												

2021年度以降案														
カテゴリー	委員会名	委員長	専門委員					学部委員				人数	備考	
			家	文	理	人社	附属機関等	家	文	理	人社			通信教育課程
基礎教育センター 【センター長：佐藤和哉教授（英文）】	目次教育委員会 （教特1、教特2）	齋藤肇子准教授（教育）	松梨久仁子 (被服)	渡部麻実 (日文)	小川賢代 (数物)	齋藤穂子 (教育)							専門委員 4名	軽井沢セミナー 担当会議
	外国語委員会 （英語・初級外語）	鈴木喜和准教授（英文）	鈴木喜和 (英文) 藤原聡 (英文) 黒子康弘 (英)		杉山直子 (文化) 朴倍咲 (文化)		鈴木礼子 (食物)		武村裕之 (物生)		梶原文子* (通・生)	専門委員 5名 学部委員 3名		
	情報処理委員会	小川賢代教授（数物）			小川賢代 (数物) 長谷川治久 (数物)	藤崎和香 (心理)		原ひろみ (家経)	林悠子 (日文)			浅見美穂* (通・生)	専門委員 3名 学部委員 3名	
	身体運動委員会	杉山哲司准教授（児童）	杉山哲司 (児童) 佐々隆之 (食物)			大沼麻由 (理)			嶋海伸一 (日文)	上田美香 (物生)		浅野雅子* (通・食)	専門委員 3名 学部委員 3名	
	教養教育委員会	福田安典教授（日文）		福田安典 (日文)	阿部秀樹 (物生)			伊ヶ崎大理 (家経)	伊藤寿和 (史)	中島敏 (数物)	佐々木雄大 (文化)	浅野雅子* (通・食)	専門委員 2名 学部委員 5名	
	教職課程委員会	清水睦美教授（教育）	鎌川直大 (家経) 稲巻秀哉* (児童) 羽中明希子* (児童)	北村曉夫 (史)	愛木豊彦 (数物)	清水睦美 (教育) 藤原聡子 (教育) 野田不二夫* (教育) 宮井和恵* (教育)	坂田仰 (教職教育開発 センター)					尾崎啓子* (通・食)	専門委員 10名 学部委員 1名	教育実習 担当会議 教職課程担当者
	資格教育課程委員会	古川元也教授（史）	後藤敏行 (家経)	古川元也 (史) 丸川隆生 (日文) 木村麻衣子 (日文)			田中雅文 (教育)		内村理奈 (被服)	(前) 佐藤達郎 (英文) (後) 大橋昌子 (英文)	倉光君郎 (数物)	上田誠二 (現社) 水野俊子 (文化)	梶原文子* (通・生)	専門委員 5名 学部委員 6名

(*は特任教授)

2021年度以降案														
カテゴリー	委員会名	委員長	専門委員					学部委員				人数	備考	
			家	文	理	人社	附属機関等	家	文	理	人社			通信教育課程
社会連携教育センター 【センター長：橋井孝志教授（被服）】 ※2020年4月～延暦2年	キャリア委員会	澤田美砂子准教授（児童）	澤田美砂子 (児童)	藤井洋子 (英文)	星野由美 (物生)	周燕飛 →大沢先生後任 (現社)							専門委員 4名	
	社会連携教育委員会	今城尚志教授（物生）	葉袋奈美子 (住居)	近藤光博 (史)	今城尚志 (物生)	麦谷綾子 (心理)							専門委員 4名	

2021年度以降案														
カテゴリー	委員会名	委員長	専門委員					学部委員				人数	備考	
			家	文	理	人社	附属機関等	家	文	理	人社			通信教育課程
学生支援センター 【センター長：学生生活部長 坂田薫子教授（英文）】	奨学委員会	村岡祥准教授（数物）						新藤一敏 (食物)	藤井雅子 (史)	村岡祥 (数物)	川崎成樹 (心理)		学部委員 4名	
	学生委員会	西村一之准教授（現社）						片山伸也 (住居)	高梨博子 (英文)	横田裕介 (数物)	西村一之 (現社)		学部委員 4名	
	学寮委員会	藤井恵子教授（食物）						藤井恵子 (食物)	久保田静香 (史)	今野良彦 (数物)	川崎公平 (文化)		学部委員 4名	

2021年度以降案														
カテゴリー	委員会名	委員長	専門委員					学部委員				人数	備考	
			家	文	理	人社	附属機関等	家	文	理	人社			通信教育課程
国際交流センター 【センター長：国際化推進担当理事 岩崎あかね教授（物生）】	国際交流委員会	田中有美准教授（文化）		岩崎あかね (物生) 岩田和子 (日文) 岩川理香 (日文)		派遣： 田中有美 (文化)		浅野由子 (児童)	杉村安穂子 (史)	秋本一 (数物)	辻温 (社福)		専門委員 4名 学部委員 4名	

			11	15	9	14	1	8	8	8	7	6	87名	
--	--	--	----	----	---	----	---	---	---	---	---	---	-----	--

平成8年2月1日 制定

改正	平成10年4月1日	平成15年3月12日
	平成17年4月1日	平成18年4月1日
	平成19年4月1日	平成22年4月1日
	平成24年4月1日	平成26年4月1日
	平成27年4月1日	平成29年4月1日
	平成30年4月1日	平成30年6月1日
	平成31年4月1日	2019年6月1日
	2021年4月1日	

(目的)

第1条 この規則は、日本女子大学学則第2条、日本女子大学大学院学則第2条及び日本女子大学家政学部通信教育課程規程第2条の規定に基づき、大学及び大学院の目的並びに社会的使命を達成するために、教育研究水準の向上を図り、教育研究活動の状況及び管理運営等について、自己点検及び評価を行うために必要な事項を定めることを目的とする。

(自己点検・評価の組織)

第2条 前条の目的を達成するために、内部質保証推進組織として自己点検・評価委員会を置く。

2 自己点検・評価委員会は、統括するための自己点検・評価委員会幹事会（以下「幹事会」という。）と点検・評価を行うための部門からなる。

(点検・評価項目)

第3条 自己点検・評価は、別表1に定める項目を基準とし、その細目については、自己点検・評価委員会の示す基本方針及び実施基準等に基づく。

(各種方針)

第4条 自己点検・評価委員会は、前条に定める別表1の項目ごとに方針を定め、日本女子大学各種方針として公表する。

(目標策定及び実行指示)

第5条 大学改革運営会議は、中・長期計画に基づいた事業計画に則り、自己点検・評価委員会の示す基本方針及び実施基準に基づき、該当する教学部門の委員会に年度ごとに目標の策定及び実行を指示する。

2 常任理事会は、中・長期計画に基づいた事業計画に則り、自己点検・評価委員会の示す基本方針及び実施基準に基づき、該当する部局等に年度ごとに目標の策定及び実行を指示する。

(自己点検・評価委員会幹事会)

第6条 幹事会は、次の事項を決定する。

- (1) 自己点検・評価の基本方針、実施基準及び評価指標の策定
- (2) 各部門から報告された点検・評価結果の検証
- (3) 自己点検・評価報告書の作成及び報告

(4) 認証評価及び外部評価の実施に関する事項

(5) その他幹事会が必要と認める事項

2 幹事会は、次の委員をもって構成する。

(1) 副学長

(2) 大学改革推進室長

(3) 事務局長

(4) 総務部長

(5) 各部門の部門長

(6) その他幹事会が必要と認める者

3 委員長は副学長が当たり、副委員長は委員長によって指名された委員が当たる。

4 委員長は、委員会を招集しその議長となり、副委員長はこれを補佐する。

5 幹事会が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

6 幹事会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立し、出席委員の過半数をもって決する。

(部門)

第7条 各部門は、基本方針と実施基準に基づき、該当委員会及び部局の自己点検・評価結果を検証し、幹事会に報告する。

2 各部門及び構成員は、次のとおりとする。

(1) 教学部門 教員3名、学務部長、学務部事務部長

(2) 教育研究等環境部門 教員3名、管理部長、学務部長、学務部事務部長、図書館事務部長

(3) 入試部門 教員3名、入学・広報部長

(4) 学生部門 教員3名、学生生活部長、学生生活部事務部長

(5) 社会連携部門 教員3名、社会連携教育センター所長、通信教育・生涯学習事務部長

(6) 大学運営・財政部門 教員3名、財務部長

3 部門担当となる教員は、専門性が必要な部分は幹事会委員長が指名し、それ以外は各学部から選出する。

4 各部門の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

5 各部門の構成員のうち1名を部門長とする。

(自己点検・評価におけるIRの活用)

第8条 自己点検・評価は、客観的な根拠資料又はデータに基づき実施するよう努める。なお、データの取り扱いについては、別に定める。

(点検・評価結果の活用)

第9条 自己点検・評価委員会は、大学執行部会議に自己点検・評価報告書及び検証結果を提出しなければならない。

2 大学執行部会議は、自己点検・評価報告書の精査、決定を行い、日本女子大学における教育研究活動の状況及び管理運営等の改善・改革方策の策定を行う。

3 学長及び理事長は、自己点検・評価の結果、改善が必要と認められた事項について、有効かつ具体的な措置を講ずる。

4 本学の構成員は、自己点検・評価の結果、改善が必要と認められた事項について、改善に努

めなければならない。

(点検・評価の公表)

第10条 自己点検・評価の結果は、学長及び理事長の責任において公表する。

(事務局)

第11条 自己点検・評価委員会の事務は、総合企画部大学改革推進室が行う。

(改廃)

第12条 この規則の改廃は、自己点検・評価委員会の議を経て、理事長が行う。

附 則

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成15年3月12日から施行する。

附 則 (事務組織改編に伴う改正)

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則 (役職新設等による委員の追加に伴う改正)

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則 (事務組織変更に伴う改正)

この規則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則 (事務組織変更等に伴う改正)

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則 (各委員会の役割の明確化等に伴う改正)

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則 (大学基準への対応及び内部質保証体制の見直しに伴う改正)

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則 (事務組織改編等に伴う改正)

この規則は、平成30年6月1日から施行する。

附 則 (各種方針及び到達目標策定事項の追加に伴う改正)

この規則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則 (JWU女子高等教育センター設置に伴う改正)

この規則は、2019年6月1日から施行する。

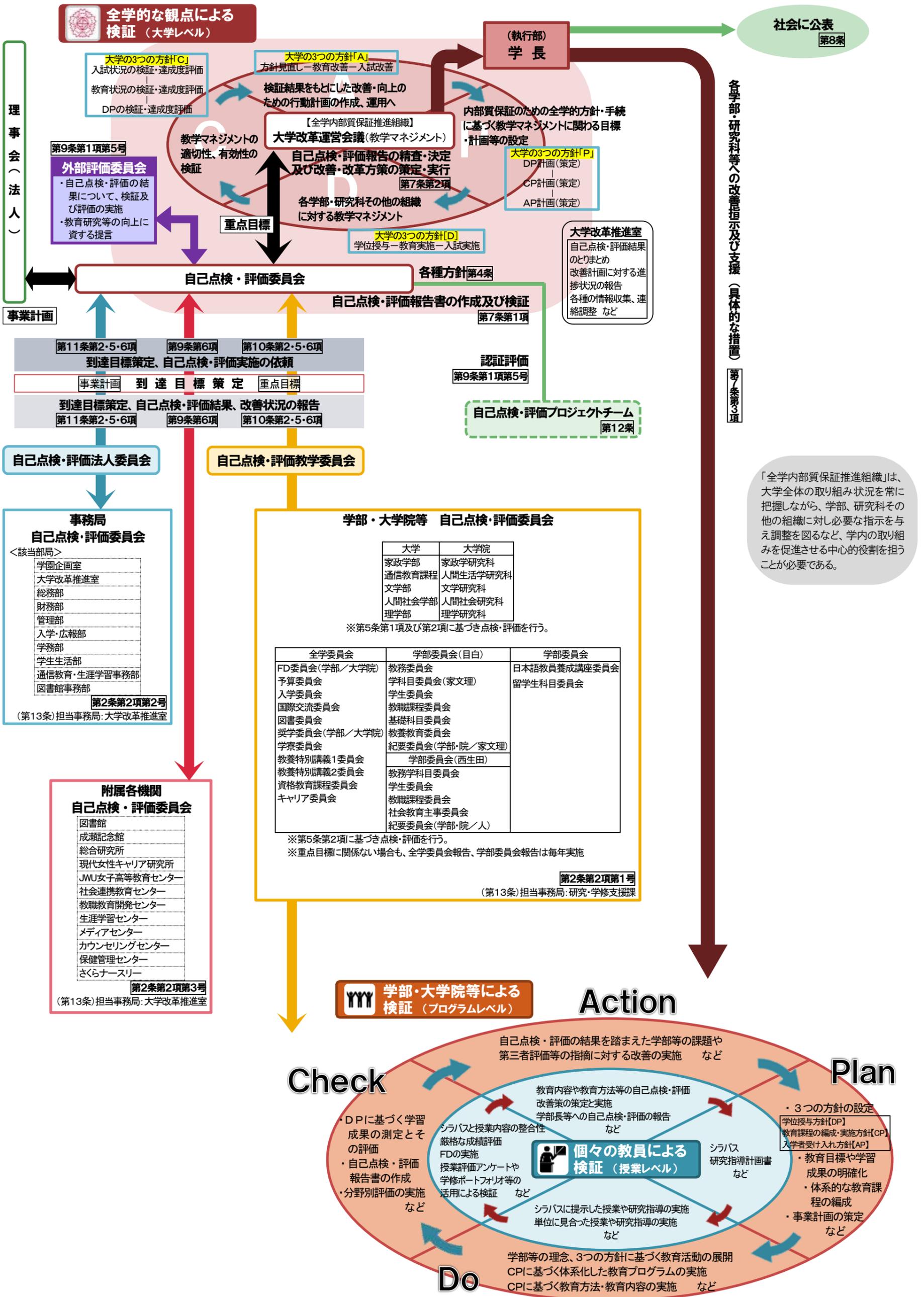
附 則 (自己点検・評価体制変更及び事務組織変更に伴う改正)

- 1 この規則は、2021年4月1日から施行する。
- 2 日本女子大学各機関等自己点検・評価委員会規程及び自己点検・評価プロジェクトチームに関する内規は廃止する。

別表1

1	大学・学部（通信教育課程を含む）・大学院等の理念・目的
2	内部質保証
3	教育研究組織
4	教育課程・学習成果
5	学生の受け入れ
6	教員・教員組織
7	学生支援
8	教育研究等環境
9	社会連携・社会貢献
10	大学運営・財務
11	その他

※項目に付記している条番号は、改正「日本女子大学自己点検・評価規則」に基づくものです。



日本女子大学におけるAI・データサイエンス・ICT教育の取組み概要

本学では情報科学に関する全学的な基盤教育のため初年次に「基礎情報処理」を設置している。それに引き続きより発展的な内容を履修する選択科目を複数設置している。これらの選択科目は全学部全学科の学生履修可能となっている。2020年度に「基礎情報処理」のカリキュラムにおいて、AI・データサイエンスならびにICTに関する内容を強化した。教養を高めるだけでなく、機械学習やマイコンプログラミングの実習を含めた実践的教育を展開している。発展的科目には統計解析、データベース、プログラミング、画像処理など学生の興味に応じて情報科学の応用を広く学べる科目を設置している。また、ICTを軸とした企業や地域との連携を特徴としている。

I. 教育プログラムの構成

卒業するため履修すべき授業科目内に情報科学に関する科目を設置し、単位の取得を学生に求めている。初年次科目「基礎情報処理」は家政学部、文学部、理学部で必修としている。人間社会学部では選択履修としているが、90%以上の学生が履修している。なお、2021年度に全学必修化して運用を継続している。さらに、発展的内容を学ぶ科目を設置している。

科目の位置づけ	対象学部	クラス数
初年次科目 (基礎情報処理)	家政学部、文学部、理学部	21
	人間社会学部	14

科目の位置づけ	科目名	クラス数
発展的科目	応用情報処理	3
	情報科学基礎 I ~ IV	各1クラス
	ICT活用とプロジェクト演習	2
	コンピュータライゼーションと現代の諸問題	1

II. 基礎情報処理の特徴

全クラスのカリキュラムにおいて、AI、データサイエンスの実践的内容を含めるように統一して教育を実施している。ただし、理学部数物科学科のみ専門科目と一部重複するため内容を変更している。学部/学科ごとのクラス編成を基本とし、専門教育の要請に応えやすい運用体制としている。

科目内で 取り上げる内容	情報処理の発展 (Society5.0、産業構造の変化、世界のデジタル戦略、AI、ビッグデータ、IoT、CPS)
	学修者および研究者として活動するにあたり、ICTを利用していくうえで理解しておくべき留意事項
	AI、データサイエンスの実践的内容
	プログラミングに関する初歩的内容

III. 発展的科目の特徴

発展的科目として、データサイエンスやICTの応用に関する科目を設置している。また、企業や社会で活躍するICT人材と連携した授業や、ICTを軸とした地域連携プロジェクト活動を含む科目を設置している。

科目名	内容等
応用情報処理 情報科学基礎 I ~ IV	統計解析、プログラミング、画像処理、リレーショナルデータベース、WEB技術など、興味や伸ばしたいスキルに応じた多様なICTスキル科目
コンピュータライゼーション と現代の諸問題	企業・社会で活躍するICT人材との連携授業
ICT活用とプロジェクト演習	ICTを軸とした地域連携プロジェクト活動

IV. 情報科目の運用・支援体制

情報科学に関する全学教育のため、基礎科目委員会内に情報処理主任を置き、全体を統括したシラバスの作成実施を行ってきた。また、具体的な科目運用のため、各キャンパスに支援組織を設置し、教材開発、授業運用支援、学生への質問対応などの業務を行っている。

キャンパス	科目運用支援体制	主な支援対象学部
目白キャンパス	基礎科目情報処理研究室	家政学部、文学部、理学部
西生田キャンパス	情報教育研究室	人間社会学部

V. AI、データサイエンス、ICT教育の強化施策

本学は2021年度に全学部が目白キャンパスに集結するキャンパス統合を実施した。これに伴い、情報科学に関する全学教育も統合化し、初年次の基礎情報処理は全学で必修とした。また、2021年度入学生から、学内に『AI、データサイエンス、ICT教育認定プログラム』を開始し、情報科学に関する科目ならびに情報科学に関連する社会連携科目を一定の条件を満たして履修した学生に対して認定証を発行することとしている。

補足資料Ⅰ 実践的な人工知能 (AI)、データサイエンス教育

初年次科目「基礎情報処理」では、人工知能の概要を講義で理解するだけではなく、実際に学習器による画像認識処理を利用することで、実践的な教育を行っている。

I. AIに関する学修について

(1) 人工知能の概要

人工知能技術の発展と分類から、発展と普及の目覚ましい機械学習とディープラーニングの概要について講義形式で学修する。

(2) プログラミング基礎

- マイコンプログラミングを取り上げ、プログラミングの基礎的な内容と、IoTやCPSおよびビッグデータの収集において重要となるセンサデータの扱いやアクチュエータの動作、通信処理について初歩的な内容を学ぶ。
- マイコンはエミュレーション環境を用意し、各自が学内、学外でWEB画面を通じて演習できるように工夫を行っている。

(3) ディープラーニング入門

プログラミング基礎で利用したマイコンプログラミング環境を利用してディープラーニングによる画像認識を演習する。授業では画像データによる「学習」と「認識」のプロセスを演習する。

II. データサイエンスに関する学修

初年次科目では、初学者向けにデータの可視化や統計的手法を表計算を中心に演習を行う。しかし、さらに発展的内容に意欲のある学生向けにデータサイエンス関連の発展科目を提供している。

- 情報科学基礎Ⅲ データ解析、SPSS、SQLなど
- 応用情報処理A 統計分析、VBによるプログラミングなど

人工知能の概要に関する授業コンテンツ例

人工知能とは

- AI: Artificial Intelligence
- 人が行う知的処理を、コンピュータに行わせる技術の総称

誤差伝搬法

損失関数 $E = (y - \hat{y})^2$

2入力1出力、1段のニューラルネット

プログラミング基礎の授業コンテンツ例

プログラムの3つの基本構造

プログラミングページ(MakeCodeエディター)

micro:bitの応用例

ディープラーニング入門の授業コンテンツ例

ロボット[フォロ]に学習させよう

画像認識②モデルをトレーニングする

画像認識③判定結果を確認する

補足資料2 産学・社会・大学間連携と人工知能、データサイエンス教育の活性化

人工知能、データサイエンスを含むICTを社会で活用することを実践的に学び、また活用できる人材として育成していくため、産学・社会・大学間連携（Ⅰ～Ⅲ、Ⅴ）を進めている。また、これらの教育の活性化のため、学内認定プログラム（Ⅳ）を開始している。

※ⅣとⅤは参考として2021年に開始した事業を紹介したものである。

I. 産業界との連携

データサイエンスや人工知能など情報科学を応用して新たな価値創造に努めている産業界と連携した学修を実施

- 基礎情報処理A~Kの取り組みの例
ロボホンによる人工知能、プログラミング体験
- コンピュータライゼーションと現代の諸問題のゲストスピーカの例
富士通株式会社様、株式会社 内田洋行様、株式会社 ユーディット様

ロボホンによる人工知能の学修（2020年度実施例）

Ⅲ. 大学間連携

お茶の水女子大学と本学は、2020年3月に文理融合・データサイエンス教育の普及に資するための事業を円滑に実施するために、文理融合データサイエンス教育に関する覚書を締結。データサイエンス教育の充実のため、知見やコンテンツの交換を進めている。



お茶の水女子大学と日本女子大学は、令和2年3月23日、文理融合・データサイエンス教育の普及に資するための事業（以下「データサイエンス教育事業」という）を円滑に実施するために、文理融合データサイエンス教育に関する覚書を締結いたしました。

プレスリリースより抜粋
(2020年3月23日)

Ⅳ. 学内におけるAI、データサイエンス学修の活性化※

2021年度より全学部、全学科の学生を対象に『AI・データサイエンス・ICT教育認定プログラム』を開始し、情報科学に関する基盤科目、社会連携科目を一定の条件で履修した学生に修了証を発行する。

2021年度スタート 女子総合大学ならではの
3つの基盤的教育認定プログラム

- キャリア教育認定プログラム
- 社会連携教育認定プログラム
- AI・DS・ICT教育認定プログラム

学生配布パンフレット（2021年4月）

Ⅱ. 社会連携

企画力、発信、プロジェクトマネジメント、ICTを活用する力を育むPBL形式の学修を実施

- ICT活用とプロジェクト演習
情報技術・情報活用能力を地域連携活動を通して学ぶPBL型授業。プロジェクトマネジメント力、企画力、コミュニケーション力の向上を目指す。地域情報を収集分析して、地域コラボ商品を企画開発し、発信していく。

地域連携例（2018、2019）



V. ICT分野における女性の活躍への貢献※

2021年2月Society 5.0時代を牽引する女性人材を産学一体で育成していく取り組みとして、「女子大学生ICT駆動ソーシャルイノベーションコンソーシアム（WUSIC）」津田塾大学、富士通株式会社、アシアル株式会社、富士通クラウドテクノロジーズ株式会社と発足、活動を開始。

プレスリリースより抜粋
(2021年2月22日)

「女子大学生 ICT 駆動ソーシャルイノベーションコンソーシアム」を設立
～ 情報化社会を牽引する女性人材の育成へ、産学一体で始動 ～

2021年2月22日
津田塾大学
日本女子大学
富士通株式会社
アシアル株式会社
富士通クラウドテクノロジーズ株式会社

津田塾大学、日本女子大学、富士通株式会社（以下「富士通」）、アシアル株式会社（以下「アシアル」）、富士通クラウドテクノロジーズ株式会社（以下「富士通クラウドテクノロジーズ」）は、ICT技術を活用したソーシャルイノベーションの実現を可能にし、Society 5.0（注1）時代を牽引していく女性人材を産学一体で育成していく取り組みとして、「女子大学生 ICT 駆動ソーシャルイノベーションコンソーシアム（WUSIC: Women's University students ICT-driven Social Innovation Consortium）」（以下「本コンソーシアム」）を2021年2月22日に設立し、参加する企業や大学等の教育研究機関の募集を開始します。本コンソーシアムでは、女子大学生向けにスマートファンタジー開発の実践的なプログラミング教育や開発コンテスト、賛同企業へのインターンシップ、さらには研究や社会実装の場を提供することで、専攻分野を問わずプログラムやクラウドの仕組内を履修し、システムの設計・開発力を磨ける機会を創出します。

